

講義科目名称：英文講読 I

授業コード：2N136 2N137

英文科目名称：Advanced English (Reading) I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
柴山森二郎			

授業形態	講義と演習
授業計画	<p>第1回 Unit 1 Stress and Anxiety Reading, Key Vocabulary</p> <p>第2回 Unit 1 Stress and Anxiety (continued) Short Test / Watch the Video, Exercises</p> <p>第3回 Unit 2 Vitamins and Suppliments Short Test / Reading, Key vocabulary</p> <p>第4回 Unit 2 Viatamins and Suppliments ( continued) Short Test / Watch the Video, Exercises</p> <p>第5回 Unit 3 Alzheimer's Short Test / Reading, Key Vocablary</p> <p>第6回 Unit 3 Alzheimer's (continued) Short Test / Watch the Video, Excercises</p> <p>第7回 Unit 4 Music Therapy Short Test / Reading, Key Vocabulary</p> <p>第8回 Unit 4 Music Therapy (continued) Short Test / Watch the Video, Exercises</p> <p>第9回 Unit 5 Laughter as Medicine Short Test / Reading, Key vocabulary</p> <p>第10回 Unit 5 Laughter as Medicine (continued) Short Test / Watch the Video, Exercises</p> <p>第11回 Unit 7 Safe Anesthetics Short Test / Reading, Key vocabulary</p> <p>第12回 Unit 7 Safe Anesthetics (continued) Short Test / Watch the Video, Exercises</p> <p>第13回 Unit 11 Safe Blood and AIDS Prevention Short Test / Reading, Key vocabulary</p> <p>第14回 Unit 11 Safe Blood and AIDS Prevention (continued) Short Test / Watch the Video, Exercises</p> <p>第15回 Review and Summary Writing a report</p>
科目の目的	英語の文献を読む力と英語で考えを述べる力を付ける。[技能、表現]
到達目標	健康と医療に関する文章を読み、英語を読む力を養成すると同時に、関連するVOA (Voice of America)のVideoを見て設問に答えることによって、英語の語法に習熟する。復習のために行う授業中の小テスト (Short Test) で60%以上の得点を目標にする。
関連科目	英語 I、英語 II、英語基礎、英語表現、ステップアップ英語 I、ステエプアップ英語 II、英文購読 I
成績評価方法・基準	小テスト(40%)、定期試験(60%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習と復習 (2時間)
教科書・参考書	教科書：English for Health and Medicine (ビデオリポート：健康と医療)、朝日出版、¥1,800+税
オフィス・アワー	講義の前後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	真面目に積極的に授業に臨むこと

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
担当教員			
柴山森二郎			

授業形態	演習
授業計画	<p>第1回 看護学論文の英語抄録を読み、用語と語法を学習する（1）。</p> <p>第2回 看護学論文の英語抄録を読み、用語と語法を学習する（2）。</p> <p>第3回 看護学論文の英語抄録を読み、用語と語法を学習する（3）。</p> <p>第4回 看護学論文の英語抄録を読み、用語と語法を学習する（4）。</p> <p>第5回 看護学論文の英語抄録を読み、用語と語法を学習する（5）。</p> <p>第6回 英語看護学論文の抄録を読み、用語と語法を学習する（1）。</p> <p>第7回 英語看護学論文の抄録を読み、用語と語法を学習する（2）。</p> <p>第8回 英語看護学論文の抄録を読み、用語と語法を学習する（3）。</p> <p>第9回 英語看護学論文の抄録を読み、用語と語法を学習する（4）。</p> <p>第10回 英語看護学論文の抄録を読み、用語と語法を学習する（5）。</p> <p>第11回 英語看護学論文の抄録を読み、用語と語法を学習する（6）。</p> <p>第12回 看護学論文の英語抄録を書くための用語と語法を整理する（1）。</p> <p>第13回 看護学論文の英語抄録を書くための用語と語法を整理する（2）。</p> <p>第14回 看護学論文の英語抄録を書くための用語と語法を整理する（3）。</p> <p>第15回 看護学論文の英語抄録を書くための用語と語法を整理する（4）。</p>
科目の目的	1. 内外の看護学会誌の英語で書かれた抄録・論文を読む。2. 看護論文の英語の抄録を書くための用語と語法を学習する。
到達目標	1. 看護系、特に自分の専門分野の英語論文またはその抄録を読むことに積極的に取り組むことができるようになる。2. 看護論文の抄録を英語で書く努力ができるようになる。
関連科目	英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語基礎、英語表現、ステップアップ英語Ⅰ、ステップアップ英語Ⅱ
成績評価方法・基準	授業中の作業（40%）、期末レポート（60%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	必要な学習は出来るだけ授業時間中に行えるように工夫をするが、復習または準備のために1時間程度の時間は必要になる。
教科書・参考書	プリント配布
オフィス・アワー	授業の前後、または予約時
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	授業はすべて共同作業で行う。積極的な参加を望む。

講義科目名称：臨床解剖学

授業コード：2N033

英文科目名称：Clinical Anatomy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
担当教員			
浅見知市郎			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 運動器系 骨格系の構造と疾患</p> <p>第2回 運動器系 筋系の構造と疾患</p> <p>第3回 循環器系 心臓、動脈、静脈、リンパ系の構造と疾患</p> <p>第4回 内臓系 内臓学総論、呼吸器系の構造と疾患、消化器系（口腔～食道）の構造と疾患</p> <p>第5回 内臓系 消化器系（胃～肛門・肝臓・胆嚢・膵臓）、泌尿器系、生殖器系の構造と疾患</p> <p>第6回 内分泌系 内分泌器官（下垂体・松果体・甲状腺・上皮小体・副腎・膵島）の構造と疾患</p> <p>第7回 神経系 中枢神経系（脳・脊髄）、末梢神経系（脳神経・脊髄神経）の構造と疾患</p> <p>第8回 神経系・感覚器系 自律神経系（交感神経・副交感神経）、感覚器系（視覚器、聴覚器、皮膚）の構造と疾患</p>
科目の目的	1年次に学習した解剖学を復習し、各種疾患との関係を学習する。 【思考・判断】
到達目標	各種疾患が解剖学的構造と、どのように関係しているか説明できる。
関連科目	基礎看護学実習ⅠⅡ・成人看護学実習ⅠⅡ・老年看護学実習・小児看護学実習・母性看護学実習・精神看護学実習
成績評価方法・基準	試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	Active Academyで事前配布するレジュメを熟読すると概ね1時間を要する。
教科書・参考書	教科書：使用しない 参考書：「入門人体解剖学」藤田恒夫（南江堂）
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する（asami@paz.ac.jp）。
国家試験出題基準	《必修問題》-Ⅲ-10-A-a, b, c, d, e, f, g, h, i, j, k, l
履修条件・履修上の注意	Active Academyによるレジュメの配付期間：講義の1週間前から1週間後まで。各自印刷して授業に持参すること。要点をノートにまとめておくのもよい。

講義科目名称：臨床生理学

授業コード：2N035

英文科目名称：Clinical Physiology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
担当教員			
洞口 貴弘			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 生理学の基礎および神経と筋 生理学の基礎および神経と筋の基本的機能について再確認する</p> <p>第2回 神経系 神経系の機能について再確認する</p> <p>第3回 感覚、体温 感覚、体温の機能について再確認する</p> <p>第4回 内分泌系 内分泌系の機能について再確認する</p> <p>第5回 呼吸器系 呼吸器系の機能について再確認する</p> <p>第6回 血液・循環系 血液・循環系の機能について再確認する</p> <p>第7回 腎 腎の機能について再確認する</p> <p>第8回 消化器系 消化器系の機能について再確認する</p>
科目の目的	人体の構造と機能について再確認し、臨床現場に応用できる力を身につける(ディプロマポリシー01「知識・理解」に相当)
到達目標	人体各部の構造と機能について復習し、疾患時の機能低下の正しい理由を選択肢から選択できるようになる
関連科目	生理学、解剖学、生化学
成績評価方法・基準	期末試験(100%) 公欠以外の欠席は、原則最終成績から10点減点する
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	既に履修済みである、生理学の復習(約1時間)
教科書・参考書	教科書：特に無し 参考書：「シンプル生理学」(南江堂) 「標準生理学」(医学書院) 「人体の正常構造と機能」(日本医事新報社) 他
オフィス・アワー	講義実施日の18:00~19:00 他、随時
国家試験出題基準	≪人体の構造と機能≫-II-1-A-a, b, c ≪人体の構造と機能≫-II-1-B-a, b, c ≪人体の構造と機能≫-II-2-A-a ≪人体の構造と機能≫-II-2-B-a, b ≪人体の構造と機能≫-II-3-C-a, b ≪人体の構造と機能≫-II-4-A-a ≪人体の構造と機能≫-II-4-B-a, b, c, d, e, f, h, i ≪人体の構造と機能≫-II-4-C-a, b, c, d ≪人体の構造と機能≫-II-5-A-a, b, c, d ≪人体の構造と機能≫-II-5-B-a, b, c, d, f ≪人体の構造と機能≫-II-5-C-a, b ≪人体の構造と機能≫-II-5-D-a, b ≪人体の構造と機能≫-II-5-E-a, b ≪人体の構造と機能≫-II-5-F-a, b ≪人体の構造と機能≫-II-5-G-b
履修条件・履修上の注意	7.5コマ講義なので、3回の欠席で履修放棄となるので注意

講義科目名称：臨床病理学

授業コード：2N038

英文科目名称：Clinical Pathology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
担当教員			
尾林 徹			

授業形態	講義と演習 全8回。各回ごとのテーマは、原則としてシラバス記載の順序に従って進める。
授業計画	<p>第1回 循環器系 循環器系の主な疾病の成り立ちと回復の要点。 関連する過去問題の演習</p> <p>第2回 血液・造血管系 血液・造血管系の主な疾病の成り立ちと回復の要点。 関連する過去問題の演習</p> <p>第3回 呼吸器系 呼吸器系の主な疾病の成り立ちと回復の要点。 関連する過去問題の演習</p> <p>第4回 消化器系 消化器系の主な疾病の成り立ちと回復の要点。 関連する過去問題の演習</p> <p>第5回 腎・泌尿器・生殖器系 腎・泌尿器・生殖器系の主な疾病の成り立ちと回復の要点。 関連する過去問題の演習</p> <p>第6回 内分泌系 内分泌系の主な疾病の成り立ちと回復の要点。 関連する過去問題の演習</p> <p>第7回 脳・神経・筋肉系 脳・神経・筋肉系の主な疾病の成り立ちと回復の要点。 関連する過去問題の演習</p> <p>第8回 その他 その他の疾病の成り立ちと回復の要点。 関連する過去問題の演習</p>
科目の目的	病理学（疾病の成り立ちと回復の促進）について要点を再確認し理解を深め、臨床的な問題に対処する力を高める。 関連する国家試験の過去問題を中心とした演習と解説による知識の総括をおこなう。 【知識・理解】
到達目標	各領域の疾病の病態への理解を深め、看護の際に必要とされる臨床的な見通しを立てる事が出来る。
関連科目	看護学の各基礎と専門科目。 生化学 薬理学 解剖学I II 生理学I II 病理学 成人看護学I II III
成績評価方法・基準	過去の看護師国家試験に準じた問題形式で評価する（試験 100%）。レポート提出はない。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義時間の半分程度を復習にあてること。1コマあたり0.5時間以上を目安。
教科書・参考書	参考書：「疾病のなりたちと回復の促進[1] 病理学」（医学書院） 教科書：なし
オフィス・アワー	講義日の前後（原則）、夕まで可
国家試験出題基準	<p>《必修問題》-Ⅲ-11-B-abcd</p> <p>《疾病の成り立ちと回復の促進》-Ⅲ-4-A-abcdefghijk, Ⅲ-4-B-abc, Ⅲ-4-C-abcd Ⅲ-5-A-abcdef, Ⅲ-6-A-abcdef, Ⅲ-6-B-abcde, Ⅲ-7-A-abcdⅢ-8-A-abc, Ⅲ-8-B-abc, Ⅲ-8-C-a Ⅲ-9-A-abcdefg, Ⅲ-9-B-abc, Ⅲ-9-C-abcd, Ⅲ-9-D-abcde</p> <p>Ⅲ-10-A-abcdef, Ⅲ-10-B-ab Ⅲ-11-A-abcde, Ⅲ-11-B-ab, Ⅲ-11-C-a</p> <p>Ⅲ-12-A-abcdefg, Ⅲ-12-B-a Ⅲ-13-A-abcd《必修問題》-Ⅲ-11-B-abcd</p>
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
担当教員			
栗田 昌裕			

授業形態	講義。
授業計画	<p>第1回 薬理学の総論 1。 薬理学の総論の基本概念を復習する（1回目）：用量と薬理作用、受容体と作用、薬物動態、薬物に影響を与える因子、など。</p> <p>第2回 薬理学の総論 2。 薬理学の総論の基本概念を復習する（2回目）：ライフサイクルと薬物、薬物の働く仕組み、麻酔薬・睡眠薬の効く仕組み。薬物の相互作用、副作用・中毒、麻薬、毒薬、薬物の保管・管理、臨床検査、など。</p> <p>第3回 薬物治療の各論 1：①炎症、②腫瘍。 ① 副腎皮質ステロイド、細菌感染症、真菌症、ウイルス感染症、消毒薬、ワクチン、自己免疫疾患の治療、など。② 悪性腫瘍の治療、抗がん剤、ホルモン治療、など。</p> <p>第4回 薬物治療の各論 2：③代謝・内分泌疾患、④脳・神経疾患。 ③ 糖尿病、甲状腺機能異常症、脂質異常症、痛風、卵巣機能低下症、骨粗鬆症など。④ てんかん、頭痛、パーキンソン病、アルツハイマー病、脳血管障害など。</p> <p>第5回 薬物治療の各論 3：⑤精神疾患、⑥血液疾患 ⑤ 認知症、統合失調症、躁うつ病、不安神経症、など。⑥ 貧血、血栓症など。</p> <p>第6回 薬物治療の各論 4：⑦循環器疾患、⑧腎臓・泌尿器疾患。 ⑦ 高血圧、心不全、種々の不整脈、狭心症、など。⑧ 浮腫、蓄尿障害、排尿障害、前立腺肥大、など。</p> <p>第7回 薬物治療の各論 5：⑨消化器疾患、⑩呼吸器疾患。 ⑨ 胃・十二指腸潰瘍、胆石症、胆道疾患治療薬、など。⑩ 慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、アレルギー、など。</p> <p>第8回 薬物治療の各論 6 ⑪感覚器の疾患 ⑪ めまい、緑内障、皮膚疾患、など。</p>
科目の目的	ディプロマ・ポリシーとの関連では、「知識・理解」の項目の「保険医療専門職としての基本的知識」を得ることを目的とする。具体的には、薬理学の知識を臨床実践に活用する考え方を学ぶ。主要な傷病に対する薬物療法について、臨床症状と薬効、薬物の分布・代謝・排泄の関係、副作用の機序について説明でき、状況に応じて患者の安全、安楽を保持しながら薬物療法の効果を高める看護を考える力を養う。
到達目標	① 重要な疾患や重要な病態に対して、どのような薬物を用いるかが分かること。 ② 副作用や、相互作用、禁忌などの看護上で重要な知識を整理して明確に理解できること。
関連科目	薬理学、成人看護学。
成績評価方法・基準	典型的な過去の国家試験問題などによる試験（100％）。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習に関しては、特に必要はない。意欲的な人には教科書の該当する章を眺めて、問題意識を高めることが勧められる。また、毎回の講義に関して、1時間ほどの復習をすること。
教科書・参考書	教科書：「疾病の成り立ちと回復の促進薬理学」（医歯薬出版株式会社）。
オフィス・アワー	講義実施日の12：10～13：00。
国家試験出題基準	<p>【看護師】</p> <p>《疾病の成り立ちと回復の促進》-II-2-D-e  《疾病の成り立ちと回復の促進》-II-3-C-b  《疾病の成り立ちと回復の促進》-II-3-D-a~g  《必修問題-3》-III-12-Aa~l  《必修問題-3》-III-12-Ba~d</p>
履修条件・履修上の注意	Active Academyにより資料を事前配布します。配布期間は「授業前日から授業日まで」。持参方法は「各自印刷して授業に持参すること」。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
担当教員			
斎藤 龍生			
小林 剛	小和田美由紀		

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 緩和医療学総論（斎藤 龍生） 緩和医療の歴史と緩和医療の基本的考え方を講義すると共に、がん患者さんが抱えている問題点を提示します。その中で、「末期がんの患者さんと如何に話すか?」、「患者さんが人間らしく生きるために何が出来るか?」について、一緒に考えていく講義を予定しています。患者さんとのコミュニケーションスキルの向上を目指し、基本的な技術を紹介します。</p> <p>第2回 緩和医学各論（小林 剛） 疼痛緩和 疼痛の考え方 鎮痛剤の使い方・副作用対策</p> <p>第3回 緩和医学各論（小林 剛） 疼痛緩和 オピオイドローテーションについて 事例を提示し疼痛緩和について考える。</p> <p>第4回 緩和ケアにおける看護①疼痛マネジメント、その他症状マネジメント（小和田 美由紀） 疼痛マネジメント・その他症状マネジメントにおける看護の役割について 効果的な疼痛マネジメント・その他症状マネジメントのためのアセスメントと援助方法について 事例を提示し考える。</p> <p>第5回 緩和ケアにおける看護②スピリチュアルケア、全人的苦痛の緩和（小和田 美由紀） 精神的苦痛と霊的苦痛（スピリチュアルペイン）のケアについて</p> <p>第6回 緩和ケアにおける看護③看取りのケア、家族ケア、グリーフケア（小和田 美由紀） 終末期患者の家族ケアと遺族ケアの実際について</p> <p>第7回 緩和的リハビリテーション、緩和医療におけるチームアプローチ（小和田 美由紀） 緩和ケア病棟における終末期患者のリハビリテーション 緩和ケア病棟におけるチーム医療 チームにおける看護の役割、多職種の役割と機能</p> <p>第8回 緩和医療に関する振り返り（小和田 美由紀）</p>
科目の目的	緩和医療（ケア）とは、終末期に限らず医療のさまざまな分野で必要であることが認識され、癌医療における早期導入、慢性疾患への対応など応用範囲が広がりつつある。がん患者への積極的な全人的医療として身体的・精神的・社会的・霊的苦痛の緩和、家族・遺族への支援についての理論や援助方法を学習する。また、チーム医療の必要性、緩和ケア・ホスピスケアの実際、チームにおける多職種の役割や機能について学習する。【知識・理解】
到達目標	緩和医療（ケア）の歴史と緩和医療（ケア）の基本的考えを知る。 緩和医療を取り巻くシステムと問題点を知る。 緩和医療における治療理念と倫理的問題を含め治療方法および援助方法を理解する。 緩和医療（ケア）が患者・家族のQOL向上に大きな役割を果たすことを理解する。 終末期における家族ケア、遺族ケアの重要性を理解する。 緩和ケアにおけるチーム医療の必要性とチームにおける多職種の役割や機能について理解する。
関連科目	生命倫理・家族学・地域社会学・解剖学ⅠⅡ・生理学・疾病の成り立ち・薬理学・看護の学び入門・臨床心理学・栄養学・カウンセリング・社会福祉・地域サービス論・看護学概論・看護過程論・成人・老年看護学総論・在宅看護論
成績評価方法・基準	授業毎のミニッツペーパーの提出（30%）、試験（70%） 試験欠席及び追試はレポートで評価を行う
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1コマあたりの学習時間の目安：4時間
教科書・参考書	教科書は使用しない  参考書として、 1. 「成人看護学⑦緩和ケア」メディカ出版 2. 「緩和・ターミナルケア看護論」鈴木志津枝／内布敦子（ヌーヴェルヒロカワ） 3. 「がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2010年度版」（金原出版株式会社）
オフィス・アワー	講義の前後（斎藤・小林・小和田）
国家試験出題基準	【看護師】 《疾病の成り立ちと回復の促進》-Ⅱ-3-D-g 《成人看護学》-Ⅱ-6-E-abcde
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
担当教員			
宮崎有紀子			

授業形態	講義（9回）、演習（6回）
授業計画	<p>第1回 保健医療と統計・統計情報の活用</p> <p>第2回 データの性質・データの収集</p> <p>第3回 代表値とばらつき(1)（平均値、中央値等）</p> <p>第4回 代表値とばらつき(2)（分散、標準偏差等）</p> <p>第5回 2つの項目間の関係</p> <p>第6回 統計で使われる分布</p> <p>第7回 推定と検定</p> <p>第8回 さまざまな検定手法</p> <p>第9回 保健統計調査</p> <p>第10回 演習(1) グラフの作成</p> <p>第11回 演習(2) データの分析</p> <p>第12回 演習(3) 集団の健康状態の把握（グループワーク）</p> <p>第13回 演習(4) 集団の健康状態の把握（グループワーク）</p> <p>第14回 演習(5) 集団の健康状態の把握（グループワーク）</p> <p>第15回 演習(6) 学習成果発表</p>
科目の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統計学の基礎知識および簡単な推定法・検定法を習得し、既存研究の内容等を統計学の視点から理解することが出来ることを目指す。</li> <li>・また、看護・保健活動に必要な情報を、既存保健統計調査から入手し、適切な手法で利活用することができることを目指す。</li> </ul> （知識・理解）
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統計学の基礎知識を習得し、既存の研究内容などを理解することができる。</li> <li>・データに適した推定・検定を理解することができる。</li> <li>・データに適した図表を用いて表現することができる。</li> <li>・代表的な保健統計調査を知り、利活用することができる。</li> </ul>
関連科目	疫学
成績評価方法・基準	試験60%、グループワークと成果発表40%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>準備学習の内容：授業時に課題を提示する。</p> <p>・授業外学習：各時1時間程度</p>
教科書・参考書	<p>&lt;教科書&gt; 高木 廣文. ナースのための統計学, 第2版. 東京: 医学書院; 2009.</p> <p>厚生労働統計協会編. 国民衛生の動向</p> <p>&lt;参考書&gt;</p> <p>浅野 嘉. 看護学生のための疫学・保健統計: 楽しく学べる. 改訂2版 ed. 東京: 南山堂; 2013.</p>
オフィス・アワー	授業前後
国家試験出題基準	<p>【看護師】</p> <p>&lt;&lt;必修問題&gt;&gt;- I-1-A-abcdefghi, B-abcdef</p> <p>&lt;&lt;必修問題&gt;&gt;- I-2-A-abcdefghi</p>

	<p>《健康支援と社会保障制度》-Ⅲ-8-C-abc, 《健康支援と社会保障制度》-Ⅲ-9-A-abcdefgh, B-abcdefghi</p> <p><b>【保健師】</b> 《保健統計》-1-A-abcd, B-abc, C-ab, D-abcdef, E-abc, F-abcdef, G-ab 《保健統計》-2-A-abc, B-abc, C-ab, D-abc 《保健統計》-3-A-abcdefg, B-abcde, C-ab, D-ab</p>
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
担当教員			
小林亜由美			
一場美根子			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 保健医療福祉行政の目指すもの 保健医療福祉行政の根拠、理念、保健医療福祉行政に関わる諸定義、理論（小林）</p> <p>第2回 保健医療行政に関する法律① 保健師助産師看護師法（一場）</p> <p>第3回 保健医療行政に関する法律② 看護師等の人材確保の推進に関する法律および関連職種に関する法規（一場）</p> <p>第4回 保健医療行政に関する法律③ 医療法、医師法および関連職種に関する法規（一場）</p> <p>第5回 社会保障制度 医療・介護・社会保障・社会福祉の制度（一場）</p> <p>第6回 我が国の保健医療制度の変遷① 公衆衛生の基盤形成（小林）</p> <p>第7回 我が国の保健医療制度の変遷② 戦後の公衆衛生行政・施策の展開（小林）</p> <p>第8回 我が国の保健医療制度の変遷③ 近年の公衆衛生行政・施策の展開（小林）</p> <p>第9回 保健医療行政の仕組みと機能① 保健医療行政の体系、地域保健活動と地方自治、国際的な活動（小林）</p> <p>第10回 保健医療行政の仕組みと機能② 地方公共団体の財政の仕組み（小林）</p> <p>第11回 保健所の役割① 保健所機能の歴史的変遷、母子保健対策、成人および高齢者対策（一場） ・精神保健福祉対策、難病対策 ・感染症対策、健康危機管理と医療安全対策</p> <p>第12回 保健所の役割② 精神保健福祉、難病、感染症対策、健康危機管理と医療安全対策（一場）</p> <p>第13回 市町村保健センターの役割 母子保健対策、成人および高齢者対策（一場）</p> <p>第14回 保健医療福祉計画と評価 保健医療福祉計画とは、保健医療福祉計画の策定プロセス（小林）</p> <p>第15回 保健医療福祉計画と評価 保健医療福祉計画の推進と評価、保健医療福祉計画に関わる保健師の役割（小林）</p>
科目の目的	地域保健活動の根拠となる法律、制度、政策についての理解を深める。【知識・理解】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健医療行政の理念と仕組みを説明できる。</li> <li>2. 社会情勢の変化に伴う保健医療行政の考え方の変遷を説明できる。</li> <li>3. 現代の我が国における保健医療行政の実際と保健師活動の関わりを説明できる。</li> <li>4. 保健医療福祉計画とは何か、保健医療福祉計画策定・遂行・評価と保健師の役割を説明できる。</li> </ol>
関連科目	公衆衛生学、健康管理論、社会福祉・社会保障制度論、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学Ⅰ～Ⅳ、公衆衛生看護管理学、公衆衛生看護方法論、公衆衛生看護活動展開論、対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ、対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ
成績評価方法・基準	試験（100%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の講義に臨む前にテキスト、配付資料を精読しておいてください。1コマにつき4時間程度の準備学習を求めます。
教科書・参考書	<p>教科書</p> <p>1. 「標準保健師講座 別巻1 保健医療福祉行政論」（医学書院）</p> <p>参考書</p> <p>1. 「医療六法」（中央法規）</p> <p>2. 「福祉小六法」（中央法規）</p> <p>3. 「国民衛生の動向2016/2017」（厚生統計協会）</p>
オフィス・アワー	小林亜由美：月～金曜日12:10～13:00、16:10～18:00 一場美根子：講義の前夜

国家試験出題基準	保健師国家試験出題基準 ≪公衆衛生看護学概論≫ 1-A, B, C ≪保健医療福祉行政論≫ 1-A, B 2-A, B 3-A, B, C 4-A, B, C, D 5-A, B, C, D 6-A, B, C 7-A～M ≪対象別公衆衛生看護活動論≫ 1-A, 2-A, 3-A, 4-A, 5-A, 6-A, 7-A, ≪学校保健・産業保健≫1-C-a, 3-C-a, ≪健康危機管理≫2-C
履修条件・履修上の注意	特にありません。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
担当教員			
北林 司			
小池菜穂子			

授業形態	講義（8回）・演習（7回）
授業計画	<p>第1回 ガイダンス（小池） 我が国の救急医療体制、1次救命・2次救命処置について解説する。</p> <p>第2回 呼吸器の解剖と生理（小池） 呼吸器の構造と機能について解説する。</p> <p>第3回 心血管系の解剖と生理（小池） 心血管系の構造と機能、急性冠症候群、急性心筋梗塞について解説する。</p> <p>第4回 脳血管系の解剖と生理（小池） 脳血管の構造と機能、虚血性脳血管障害、出血性脳血管障害について解説する。</p> <p>第5回 反応のない傷病者への対応（小池・安田） 反応のない傷病者への対応、胸骨圧迫心臓マッサージについて解説する。</p> <p>第6回 気道確保法と人工呼吸法・AEDの取り扱い（小池・安田） 頭部後屈顎先挙上法、AEDの取り扱いについて解説する。</p> <p>第7回 骨折疑い傷病者への固定法・出血している傷病者への止血法（小池・安田） 骨折部の固定法、全脊柱固定法、ログロール、止血法について解説する。</p> <p>第8回 創傷のある傷病者への創傷ケア（小池・安田） 創傷のある傷病者への対応方法、処置方法について解説する。</p> <p>第9回 BLSHCP実技1（小池・安田） 一連のBLSHCPを演習する。</p> <p>第10回 BLSHCP実技2／筆記試験（小池・安田） 一連のBLSHCPを演習する。／筆記試験実施</p> <p>第11回 高度な気道確保（北林・小池・安田） 気管内挿管、ラリングマスク、ラリングチューブを用いた高度な気道確保を演習する。 筆記試験の振り返り・解説を行う。</p> <p>第12回 BLSHCP実技3（北林・小池・安田） 一連のBLSHCP+AEDを演習する。</p> <p>第13回 BLSHCP実技4（北林・小池・安田） 一連のBLSHCP+AEDを演習する。</p> <p>第14回 BLSHCP実技5（北林・小池・安田） 一連のBLSHCP+AEDを演習する。</p> <p>第15回 BLSHCP実技／実技試験（北林・小池・安田） 一連のBLSHCPのスキルをチェックする。／実技試験実施</p>
科目の目的	呼吸器系・心血管系・脳血管系の解剖生理と主要な疾患を理解し、心停止・呼吸停止・気道異物といった生命が危険にさらされた人を救命する方法を理解する（知識・理解）。さらに意識の確認・胸骨圧迫・気道確保・人工呼吸・AEDによる除細動などの一連の一次救命処置(BLSHCP)が実践できるようになることを目的とし、在学中にアメリカ心臓協会(AHA)の医療従事者向けBLSライセンス取得を目指す。また、高度な気道確保である気管内挿管の介助ができ、臨時応急処置の場合は自らも挿管できるよう技術を習得する（技能・表現）。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 急激に生命が危険にさらされる呼吸障害・心血管障害・脳血管障害が説明できる。</li> <li>2. 救命の連鎖について説明できる。</li> <li>3. 一次救命処置(BLS)について説明できる。</li> <li>4. 気道異物(FBAO)の治療手順を説明できる。</li> <li>5. AEDを含む医療従事者向け一次救命処置(BLSHCP)が実践できる。</li> <li>6. 気管内挿管の介助ができる。</li> <li>7. 外傷のある傷病者の対応方法がわかる。</li> </ol>
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学、疾病の成り立ち、成人看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・災害看護論
成績評価方法・基準	筆記試験50%・実技試験50%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	AHAのBLSHCP受講は、現役の医師・看護師らとともに臨むこととなる。関連科目を30～60分、予習・復習した上で本科目を受講し、全員がライセンスを取得してもらいたい。また、各講義終了後は、講義中に配布された資料を見て復習をすること。
教科書・参考書	<p>教科書 1. 系統看護学講座 成人看護学②呼吸器③循環器⑦脳・神経（医学書院） 2. 早わかり臨床用語・略語BOOK：北林 司、藤原健一（北方新社）</p> <p>参考書 1. BLSプロバイダーマニュアル AHAガイドライン2015 準拠（シナジー出版）</p>
オフィス・アワー	北林 司：集中講義期間中9時～18時

	小池菜穂子 (研究室308): 講義開講日の12:10~13:00 安田弘子 (研究室301): 講義開講日の12:10~13:00
国家試験出題基準	【看護師】 《必修問題》-IV-16-G-a, b, c, d, e, f, g, h 《成人看護学》-II-4-B-a, b
履修条件・履修上の注意	1. 第11~15回講義は5コマ集中講義とする。 2. ポケットマスク購入要

講義科目名称：基礎看護学特論

授業コード：2N067

英文科目名称：Advanced Fundamental Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
担当教員			
上星 浩子			
堀込 由紀			

授業形態	講義（4回）、演習（4回）
授業計画	<p>第1回 看護の現状と課題（上星） 看護学に関する現状と課題について学ぶ。</p> <p>第2回 看護の専門性（1）（上星） 看護技術のエビデンスについて理解を深める。 看護技術に関する現状と課題について学ぶ。</p> <p>第3回 看護の専門性（2）（堀込） 看護技術（特に移送技術）における問題点や課題、解決策について学ぶ。 ノーリフトポリシーについて学び、考察を深める。</p> <p>第4回 看護の課題と展望（1）（堀込） ICT（Information&amp;amp; Communication Technology）技術と看護について学ぶ。</p> <p>第5回 看護の課題と展望（2）（上星） 基礎看護学領域に関する課題について、文献をもとにグループで考察し、発表・討議する。</p> <p>第6回 看護の課題と展望（3）（上星） 基礎看護学領域に関する課題について、文献をもとにグループで考察し、発表・討議する。</p> <p>第7回 看護の課題と展望（4）（上星） 基礎看護学領域に関する課題について、文献をもとにグループで考察し、発表・討議する。</p> <p>第8回 看護の課題と展望（5）（上星） 最新の看護課題についてグループで検討し、課題解決策を考察する（授業後、課題レポートを提出する）</p>
科目の目的	基礎看護学の視点から看護学の専門性、現状、展望について、先行研究や演習での自己の学びから考察する。 【関心・意欲】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護技術のエビデンスや倫理的課題について、文献等を用いて情報収集ができる。</li> <li>2. 文献等で得られた情報に基づき、看護に関する課題と展望について説明できる。</li> <li>3. 演習での学びに基づき、看護の専門性や展望について自己の考えを説明できる。</li> </ol>
関連科目	看護の学び入門、看護学概論Ⅰ・Ⅱ、看護援助学Ⅰ・Ⅱ、看護援助学演習Ⅰ・Ⅱ、看護過程論をはじめとする看護学全般の科目
成績評価方法・基準	演習における発表・討議内容（60%）、課題レポート（40%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	担当となった課題に関するプレゼンテーション準備（文献検索、発表資料作成） 1コマにあたり約120分の事前学習と復習が必要。
教科書・参考書	特に指定しない 講義に必要な資料は当日配布する。
オフィス・アワー	上星浩子：月曜・木曜日：12：10～12：50（上星研究室） 堀込由紀：授業の前後の時間
国家試験出題基準	《基礎看護学》-Ⅰ-1-A～C、2-A～C、Ⅱ-3-A～G Ⅲ-6-A,D
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
金子 吉美			
萩原 英子	堀越 政孝	大谷 忠広(非常勤講師)	

授業形態	講義(15回)
授業計画	<p>第1回 慢性期看護総論 (萩原英子) 慢性疾患と共に生きる患者とその家族の特徴と看護の役割について学習する。</p> <p>第2回 がん患者の看護1 (萩原英子) がん化学療法を受ける患者の看護について学習する。</p> <p>第3回 がん患者の看護2 (堀越政孝) がんで放射線治療を受ける患者の看護について学習する。</p> <p>第4回 血液・造血器疾患患者の看護1 (萩原英子) 主要症状(貧血・白血球減少・血小板減少)を有する患者の看護について学習する。</p> <p>第5回 血液・造血器疾患患者の看護2 (萩原英子) 代表的な血液疾患(白血病・多発性骨髄腫・悪性リンパ腫)患者の看護について学習する。</p> <p>第6回 膠原病患者の看護 (金子吉美) 膠原病(関節リウマチ・全身性エリテマトーデス)患者の看護について学習する。</p> <p>第7回 脳神経疾患患者の看護 (金子吉美) 脳疾患(脳腫瘍・脳出血)患者の看護について学習する。</p> <p>第8回 神経系疾患患者の看護1 (金子吉美) 神経・筋疾患(重症筋無力症)患者の看護について学習する。 脱髄・変性疾患(パーキンソン病)患者の看護について学習する。</p> <p>第9回 中間試験 / 内分泌・代謝疾患患者の看護1 (堀越政孝) 内分泌・代謝疾患患者の特徴について学習する。</p> <p>第10回 中間試験解説 / 内分泌・代謝疾患患者の看護2 (堀越政孝) 代謝疾患(糖尿病)患者の看護について学習する。</p> <p>第11回 内分泌・代謝疾患患者の看護3 (堀越政孝) 内分泌疾患(バセドウ病・橋本病)患者の看護について学習する。</p> <p>第12回 腎・泌尿器疾患患者の看護1 (堀越政孝) 腎疾患(腎不全)患者の看護について学習する。</p> <p>第13回 腎・泌尿器疾患患者の看護2 (堀越政孝) 腎疾患(ネフローゼ症候群・糸球体腎炎)患者の看護について学習する。</p> <p>第14回 腎・泌尿器疾患患者の看護3 (堀越政孝) 膀胱がんで手術を受ける患者の看護について学習する。</p> <p>第15回 神経系疾患患者の看護2 (大谷忠広) 神経・筋疾患(筋萎縮性側索硬化症)患者の看護について学習する。</p>
科目の目的	慢性疾患と共に生きる成人患者とその家族の身体的・精神的・社会的特徴を理解するとともに、疾患をもちながらその人らしい生活が営めるように支援するための看護援助方法を修得する。 (ディプロマ・ポリシー【知識・理解】【思考・判断】)
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 代表的な血液・造血器疾患、腎・泌尿器疾患、神経系疾患、内分泌・代謝疾患について、病態生理や治療方法を説明できる。</li> <li>2. 代表的な慢性疾患を持つ患者とその家族の身体的・精神的・社会的特徴を説明できる。</li> <li>3. 代表的な慢性疾患を持つ患者に対する基本的な看護支援方法について説明できる。</li> </ol>
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学、疾病の成り立ち、薬理学、成人看護学総論、成人看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ、成人看護学演習、成人看護学実習Ⅰ、成人看護学実習Ⅱ
成績評価方法・基準	筆記試験100%[中間試験50%、期末試験50%]
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習及び復習に必要な学習時間は約60分である。準備学習として、成人看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学習した内容の復習及び教科書の講義題目に該当する部分を読んでおくこと。また、各講義終了後には、教科書や配布された資料を読み、確実に理解できたか確認すること。
教科書・参考書	<p>教科書： 「系統看護学講座 成人看護学④血液・造血器、⑥内分泌・代謝、⑦脳・神経、⑧腎・泌尿器、⑩アレルギー・膠原病・感染症」(医学書院)</p> <p>参考書： 解剖学、生理学、薬理学、病態生理学、疾病の成り立ち等において使用したテキスト</p>
オフィス・アワー	<p>萩原英子(研究室306)：講義開講日の12：10～13：00</p> <p>堀越政孝(研究室324)：講義開講日の12：10～13：00</p> <p>金子吉美(研究室307)：講義開講日の12：10～13：00</p>

	大谷忠広(非常勤講師)：担当講義終了後の10分間
国家試験出題基準	<b>【看護師】</b> ≪必修≫ Ⅲ-11-B-a, b ≪成人看護学≫ I-2-A、Ⅲ-6、V-8、VI-9-A, B、Ⅶ-13-D-d、Ⅶ-14, 15, 16, 17-D, 18, 19-D-a
履修条件・履修上の注意	講義中の私語、スマートフォン・携帯電話の使用、講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
萩原 英子			
小池菜穂子	安田 弘子		

授業形態	講義(15回)
授業計画	<p>第1回 周手術期看護総論 〈担当：萩原〉 周手術期にある患者とその家族の特徴と看護の役割について学習する。 [キーワード] 手術、意思決定、身体侵襲、不安、健康管理能力 [準備学習] 教科書「周手術期看護論 ヌーヴェルヒロカワ」Ⅰ・Ⅱ章を事前に読んでおくこと。</p> <p>第2回 クリティカルケア看護総論 〈担当：萩原〉 クリティカル期にある患者とその家族の特徴と看護に役割について学習する。 [キーワード] クリティカルケア、呼吸不全、循環不全、代謝機能不全、脳神経機能障害、倫理 [準備学習] 「クリティカルケア看護とは何か」について調べておくこと。様式はActive Academyにて、第1回授業終了後から当該日までの期間配布する。各自、印刷して課題に取り組み、授業に持参すること。</p> <p>第3回 救急看護総論 〈担当：萩原・安田〉 救急看護の概念と主要な病態に対する救急処置について学習する。 [キーワード] 救急医療、救急看護、中毒、熱傷、熱中症、心肺停止 [準備学習] 「救急看護とは何か」について調べておくこと。様式はActive Academyにて、第2回授業終了後から当該日までの期間配布する。各自、印刷して課題に取り組み、授業に持参すること。</p> <p>第4回 術前・術中看護 〈担当：小池〉 術前準備と術中管理について学習する。また、手術侵襲や麻酔によって起こる生体反応とその看護について学ぶ。 [キーワード] 術前オリエンテーション、術前指導、麻酔、手術体位、手術室看護 [準備学習] Active Academyにて第3回授業終了後から当該日までの期間、事前課題を配布する。各自、印刷して課題に取り組み、授業に持参すること。</p> <p>第5回 術後看護1（術後アセスメント）〈担当：小池〉 術後患者のアセスメントとその看護について学習する。 [キーワード] 術後モニタリング、ドレーン管理、術後疼痛管理、術後合併症 [準備学習] Active Academyにて第4回授業終了後から当該日までの期間、事前課題を配布する。各自、印刷して課題に取り組み、授業に持参すること。</p> <p>第6回 術後看護2（術後合併症）〈担当：小池〉 主要な術後合併症とその予防について学習する。 [キーワード] MOF、術後肺合併症、循環不全、イレウス、感染、DIC [準備学習] 教科書「周手術期看護論 ヌーヴェルヒロカワ」Ⅴ章を事前に読んでおくこと。</p> <p>第7回 周手術期看護各論1（消化器）〈担当：萩原〉 胃や食道の手術によって起こる生体機能の変化に対する看護について学習する。 [キーワード] 胃がん、食道がん、開腹術、生活の再構築 [準備学習] Active Academyにて第6回授業終了後から当該日までの期間、事前課題を配布する。各自、印刷して課題に取り組み、授業に持参すること。</p> <p>第8回 周手術期看護各論2（消化器）〈担当：萩原〉 大腸や肝臓の手術によって起こる生体機能の変化に対する看護について学習する。 [キーワード] 大腸がん、肝臓がん、開腹術、ストーマ造設、ボディイメージ、セルフケア [準備学習] Active Academyにて第7回授業終了後から当該日までの期間、事前課題を配布する。各自、印刷して課題に取り組み、授業に持参すること。</p> <p>第9回 周手術期看護各論3（消化器）〈担当：萩原〉</p>

	<p>内視鏡下手術及び日帰り手術を受ける患者の看護について学習する。  [キーワード]  胆嚢結石症、痔核、内視鏡手術、日帰り手術、患者指導  [準備学習]  Active Academyにて第8回授業終了後から当該日までの期間、事前課題を配布する。各自、印刷して課題に取り組み、授業に持参すること。</p> <p>第10回 中間試験 / 周手術期看護各論4 (女性生殖器) &lt;担当:萩原&gt;  子宮頸がんで手術を受ける患者に対する看護について学習する。  [キーワード]  子宮頸がん、子宮体がん、生殖機能の喪失、リンパ浮腫  [準備学習]  Active Academyにて第9回授業終了後から当該日までの期間、事前課題を配布する。各自、印刷して課題に取り組み、授業に持参すること。</p> <p>第11回 中間試験解説 / 周手術期看護各論5 (女性生殖器) &lt;担当:萩原&gt;  乳がんで手術を受ける患者の看護について学習する。  [キーワード]  乳がん、ボディイメージ、リンパ浮腫、患者会、社会復帰支援  [準備学習]  Active Academyにて第10回授業終了後から当該日までの期間、事前課題を配布する。各自、印刷して課題に取り組み、授業に持参すること。</p> <p>第12回 周手術期看護各論6 (脳神経) &lt;担当:小池&gt;  くも膜下出血で開頭術を受ける患者の看護について学習する。  [キーワード]  くも膜下出血、開頭術、クリッピング術、頭蓋内圧亢進、脳ヘルニア  [準備学習]  Active Academyにて第11回授業終了後から当該日までの期間、事前課題を配布する。各自、印刷して課題に取り組み、授業に持参すること。</p> <p>第13回 周手術期看護各論7 (循環器) &lt;担当:小池&gt;  急性心筋梗塞で開心術を受ける患者の看護について学習する。  [キーワード]  心筋梗塞、開心術、冠動脈バイパス術、心臓リハビリテーション  [準備学習]  Active Academyにて第12回授業終了後から当該日までの期間、事前課題を配布する。各自、印刷して課題に取り組み、授業に持参すること。</p> <p>第14回 周手術期看護各論8 (運動器) &lt;担当:萩原&gt;  運動機能障害の種類や特徴とそのアセスメントについて学習する。  [キーワード]  骨折、脱臼、外傷、機能障害、日常生活動作  [準備学習]  Active Academyにて第13回授業終了後から当該日までの期間、事前課題を配布する。各自、印刷して課題に取り組み、授業に持参すること。</p> <p>第15回 周手術期看護各論9 (運動器) &lt;担当:萩原&gt;  運動機能障害のある患者の治療期及び回復期における看護について学習する。  [キーワード]  大腿骨頸部骨折、脊髄損傷、保存療法、人工関節置換、リハビリテーション、補助具  [準備学習]  Active Academyにて第14回授業終了後から当該日までの期間、事前課題を配布する。各自、印刷して課題に取り組み、授業に持参すること。</p>
科目の目的	急性期にある患者とその家族の身体的・精神的・社会的特徴を理解するとともに、その状況に応じたアセスメント方法及び看護支援方法を修得する。 (ディプロマ・ポリシー【知識・理解】【思考・判断】)
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周手術期看護、クリティカルケア看護、救急看護の特徴について説明することができる。</li> <li>2. 急性期にある患者とその家族の身体的・精神的・社会的特徴を説明することができる。</li> <li>3. 術前・術中・術後・回復期に必要な看護支援について説明することができる。</li> <li>4. 術式に応じた特徴的な看護支援について説明することができる。</li> </ol>
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学、疾病の成り立ち、薬理学、成人看護学総論、成人看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、成人看護学演習、成人看護学実習Ⅰ、成人看護学実習Ⅱ
成績評価方法・基準	筆記試験100% [中間試験(50%)、定期試験(50%)]
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習及び復習に必要な学習時間は約60分である。準備学習の内容は授業計画欄に記載してあるため、各自確認し、準備学習を行った上で講義に参加すること。また、各講義終了後には、教科書や講義中に配布された資料を見ながら、確実に理解できたか確認すること。
教科書・参考書	教科書： 「周手術期看護論」 雄西智恵美、秋元典子編著(ヌーヴェルヒロカワ) 「系統看護学講座 成人看護学③循環器」(医学書院) 「系統看護学講座 成人看護学⑤消化器」(医学書院) 「系統看護学講座 成人看護学⑦脳神経」(医学書院) 「系統看護学講座 成人看護学⑨女性生殖器」(医学書院) 「系統看護学講座 成人看護学⑩運動器」(医学書院)
オフィス・アワー	萩原英子(研究室306)：講義開講日の12:10～13:00 小池菜穂子(研究室308)：講義開講日の12:10～13:00

	安田弘子(研究室301)：講義開講日の12:10～13:00
国家試験出題基準	<p>【看護師】</p> <p>《必修問題》</p> <p>Ⅱ-9-B-d、Ⅳ-16-G</p> <p>《基礎看護学》</p> <p>Ⅱ-5-A-d～g</p> <p>《成人看護学》</p> <p>Ⅱ-3、4、5、Ⅳ-7-C、Ⅴ-8、Ⅵ-9-C-c、d、Ⅶ-11-C、D、Ⅶ-12-A、B、Ⅶ-12-C-a～i、Ⅶ-12-D-a～d、g、Ⅶ-13-A、B、C、Ⅶ-13-D-c、Ⅶ-17-A、B、C、Ⅶ-17-D-a～c、e、Ⅶ-19-A、B、C、Ⅶ-19-D-b、c、Ⅶ-21-A、B、C、Ⅶ-21-D-c</p> <p>《在宅看護論》</p> <p>Ⅰ-1-F-a</p> <p>【助産師】</p> <p>《基礎助産学Ⅰ》</p> <p>Ⅱ-6-A-a、b、c、Ⅱ-6-B-a、b、Ⅱ-6-C-a～e</p>
履修条件・履修上の注意	<p>関連する専門基礎科目(解剖学、生理学、疾病の成り立ち)の理解が必須であるため、自己学習を行った上で講義に参加すること。尚、講義において必要な資料は当日配布する。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
萩原 英子			
小池菜穂子	金子 吉美	安田 弘子	湯澤香緒里

授業形態	講義(一部グループワークを含む)(8回)、演習(7回)
授業計画	<p>第1・2回 看護過程演習1 アセスメントシートの作成(小池・成人看護学教員) 情報整理とアセスメントの方法について学習する。 [準備学習]配布された事例について、アセスメントシートを記載する。 [復習]講義を振り返り、準備学習として記載したアセスメントシートを青ペンで修正する。</p> <p>第3・4回 看護過程演習2 関連図の作成(金子・成人看護学教員) アセスメントに基いた全体関連図の作成方法について学習する。 [準備学習]事例に基づき、関連図を作成する。 [復習]講義を振り返り、準備学習として作成した関連図を青ペンで修正する。</p> <p>第5・6回 看護過程演習3 ケアプランの作成(安田・成人看護学教員) 対象の個別性に沿った具体的なケアプランの作成方法について学習する。 [準備学習]事例に基づき、ケアプランを作成する。 [復習]講義を振り返り、準備学習として作成したケアプランを青ペンで修正する。</p> <p>第7回 看護技術演習1(成人看護学教員) ストーマ管理、患者監視装置、自己血糖測定、創傷・ドレーン管理の目的や必要物品、方法について学習する。 [準備学習]事前に配布する資料を読んてくること。</p> <p>第8・9回 看護技術演習2(成人看護学教員) ストーマ管理、患者監視装置、自己血糖測定、創傷・ドレーン管理の技術を学習する。 [準備学習]この回に実施する技術について、必要物品や手順を復習してくる。</p> <p>第10回 看護技術演習3(成人看護学教員) 気管内吸引、低圧持続吸引、輸液ポンプ・シリンジポンプの目的や必要物品、方法について学習する。 [準備学習]事前に配布する資料を読んてくること。</p> <p>第11・12回 看護技術演習4(成人看護学教員) 気管内吸引、低圧持続吸引、輸液ポンプ・シリンジポンプの技術を学習する。 [準備学習]この回に実施する技術について、必要物品や手順を復習してくる。</p> <p>第13・14回 看護技術演習5(成人看護学教員) 術後患者のアセスメント方法について学習する。 [準備学習]事前に配布される事例をよく読み、分からないことは調べてくる。</p> <p>第15回 看護過程演習・看護技術演習の振り返り(成人看護学教員) 看護過程演習及び看護技術演習に関する筆記試験を行い、解説する。また、看護技術演習で学んだ技術について、実技練習を行う。 [準備学習]成人看護学演習で学んだことを振り返り、復習をしておく。</p>
科目の目的	成人期にある対象者の看護上の問題を明確にし、適切な看護援助を提供するための思考過程及び援助技術を修得する。 (ディプロマ・ポリシー【技能・表現】【思考・判断】【知識・理解】【態度】)
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象の抱える問題を明らかにするために必要な情報を整理し、科学的根拠に基づきアセスメントすることができる。</li> <li>2. 対象の全体像を関連図に示すことができる。</li> <li>3. 対象の抱える問題を解決するための具体的なケアプランを作成することができる。</li> <li>4. 様々な健康障害を持つ成人の治療や療養を支える看護技術を正しい方法で実施することができる。</li> <li>5. 対象の安全・安楽に配慮した看護援助を実施することができる。</li> </ol>
関連科目	看護援助学Ⅰ・Ⅱ、看護援助学演習Ⅰ・Ⅱ、看護過程論、解剖学、生理学、疾病の成り立ち、成人看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、成人看護学実習Ⅰ、成人看護学実習Ⅱ、成人看護学特論
成績評価方法・基準	下記の1～4の合計(100%)で評価する。合計(100%)のうち、60%に満たなかった学生を再試験の対象とする。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 記録物の提出状況(15%)</li> <li>2. 看護過程課題(30%)</li> <li>3. 看護技術実技試験(30%)</li> <li>4. 成人看護学演習筆記試験(25%)</li> </ol>
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習及び復習に必要な学習時間は約90分である。準備学習及び復習の内容は授業計画欄に記載してあるため、必ず確認をすること。
教科書・参考書	教科書： 「系統看護学講座 成人看護学②-⑮」 医学書院

	<p>「写真でわかる基礎看護技術」 インターメディカ  「写真でわかる臨床看護技術1・2」 インターメディカ  「看護診断ハンドブック 第10版」 医学書院</p> <p>参考書：  「ビジュアル 臨床看護技術」 照林社</p>
オフィス・アワー	萩原英子(研究室306)：講義開講日の12：10～13：00 堀越政孝(研究室324)：講義開講日の12：10～13：00 小池菜穂子(研究室308)：講義開講日の12：10～13：00 金子吉美(研究室307)：講義開講日の12：10～13：00 安田弘子(研究室301)：講義開講日の12：10～13：00 着任予定者A(研究室)：講義開講日の12：10～13：00 着任予定者B(研究室)：講義開講日の12：10～13：00
国家試験出題基準	【看護師】 <<基礎看護学>> II-5-A-d～g、II-5-F-d, e <<成人看護学>> II-5-C-c, d、VII-10-C-a～c
履修条件・履修上の注意	限られた授業時間を有効に活用できるよう、積極的に演習に取り組むこと。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
担当教員			
萩原 英子			
堀越 政孝	金子 吉美		

授業形態	講義(8回)
授業計画	<p>第1回      がん患者のQOLと看護（萩原） がんサバイバーシップについて学習し、がんサバイバーへの看護支援について理解を深める。</p> <p>第2回      成人に対する健康教育支援（金子） アンドラゴジー、自己効力、セルフマネジメント教育の概念を理解し、看護の課題を考える。</p> <p>第3回      看護の専門性（堀越） 看護師という職業における専門性と、看護の専門分化について理解を深める。</p> <p>第4回      専門的な看護の実践1（萩原） 専門的な知識を持って活動している看護師の実際を理解し、成人看護のあり方について考える。 &lt;guest speaker:糖尿病看護認定看護師&gt;</p> <p>第5回      専門的な看護の実践2（非常勤講師：川尻） 専門的な知識を持って活動している看護師の実際を理解し、成人看護のあり方について考える。</p> <p>第6回      専門的な看護の実践3（萩原） 専門的な知識を持って活動している看護師の実際を理解し、成人看護のあり方について考える。 &lt;guest speaker:フライトナース&gt;</p> <p>第7回      専門的な看護の実践4（萩原） 専門的な知識を持って活動している看護師の実際を理解し、成人看護のあり方について考える。 &lt;guest speaker:がん看護専門看護師&gt;</p> <p>第8回      成人期にある人に特徴的な健康問題（堀越・萩原・金子） 成人期にある人に特徴的な健康問題を取り上げ、理解を深めるとともに、看護のあり方及び課題について考える。</p>
科目の目的	成人期にある人々の健康問題や患者のおかれている状況について理解を深め、看護支援のあり方と看護職の果たす役割、看護の課題について考察する。 (ディプロマ・ポリシー【関心・意欲】【思考・判断】【知識・理解】)
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期にある人々の健康問題について説明できる</li> <li>2. 様々な健康問題を抱える患者に対する看護支援について、自己の考えを述べることができる</li> <li>3. 自己の看護師としての将来像をイメージし、キャリアプランを構築できる</li> </ol>
関連科目	成人看護学総論、成人看護学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ、臨床看護管理学
成績評価方法・基準	各回のコメントペーパー40%、レポート60%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習及び復習に必要な学習時間は30～60分である。準備学習として、それぞれの授業内容に関連したキーワードについて調べた上で講義に参加すること。また、各講義終了後には、教科書や講義中に配布された資料を見ながら、しっかり理解できたか確認すること。
教科書・参考書	教科書：なし 参考書：講義内で適宜紹介する
オフィス・アワー	萩原英子(研究室306)：講義開講日の12:10～13:00 堀越政孝(研究室324)：講義開講日の12:10～13:00 金子吉美(研究室307)：講義開講日の12:10～13:00 非常勤講師・ゲストスピーカー：担当講義終了後の10分間
国家試験出題基準	<p>【看護師】</p> <p>《成人看護学》</p> <p>Ⅱ-3-C, Ⅲ-6-B, D, Ⅳ-7-D, E, Ⅴ-8-D</p> <p>《看護の統合と実践》</p> <p>Ⅰ-1-F-a, b, Ⅳ-4-B</p>
履修条件・履修上の注意	非常勤講師及びゲストスピーカーの先生方に対し、礼節を忘れずに授業に臨むこと。 講義に必要な資料は、各講義の中で配布する。

講義科目名称：老年看護学演習

授業コード：2N079

英文科目名称：Practice in Gerontological Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
星野 泰栄			
清水美和子			

授業形態	講義（7回）演習（8回）、
授業計画	<p>第1回 看護過程の展開①情報収集、アセスメント【星野】</p> <p>第2回 看護過程の展開②アセスメント【星野】</p> <p>第3回 看護過程の展開③関連図の描き方【星野】</p> <p>第4回 看護過程の展開④看護診断・優先順位・看護計画【星野】</p> <p>第5回 看護過程の展開⑤グループワーク【星野】</p> <p>第6回 看護過程の展開⑥関連図の発表【星野】</p> <p>第7回 看護過程の展開⑥関連図の発表【星野】</p> <p>第8回 高齢者への援助技術①（経管栄養）【清水】</p> <p>第9回 高齢者への援助技術②（体位・褥瘡予防）【清水】</p> <p>第10回 高齢者への援助技術③（食事の援助）【清水】</p> <p>第11回 高齢者への援助技術④（口腔ケア）【清水】</p> <p>第12回 高齢者への援助技術⑤（移乗・活動）【星野】</p> <p>第13回 高齢者への援助技術⑥（排泄ケア）【星野】</p> <p>第14回 高齢者への援助技術⑦（技術確認）【星野】</p> <p>第15回 高齢者への援助技術⑧（技術確認）【星野】</p>
科目の目的	健康な高齢者を対象としたアセスメントの経験をもとに、老年期に特徴的な疾患をもつ高齢者の看護過程の展開方法を学習する。また、演習を通して高齢者への援助技術を学習する。ディプロマポリシーである知識・理解、思考・判断、技能・表現、関心・意欲、態度を身に付ける。
到達目標	<p>1. 老年期に特徴的な疾患をもつ高齢者の事例を用いて、情報の整理、アセスメント、看護診断、計画立案ができる。</p> <p>2. 事例で設定された個別性、条件をふまえ、援助計画に基づいた看護技術を実施できる。</p>
関連科目	老年看護学総論、老年看護学Ⅰ、老年看護学Ⅱ、基礎看護学領域各科目
成績評価方法・基準	期末試験（70%）、課題・ワーク（20%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	老年看護学Ⅰ・Ⅱの既習内容を復習して授業に臨むこと。
教科書・参考書	<p>教科書1：「系統看護学講座 老年看護学」、北川公子（医学書院）</p> <p>教科書2：「写真でわかる高齢者ケア」、東京都健康長寿医療センター看護部（インターメディカ）</p> <p>参考書1：「生活機能からみた老年看護過程」、山田律子（医学書院）</p> <p>参考書2：「根拠と事故防止からみた老年看護技術」亀井智子（医学書院）</p>
オフィス・アワー	<p>【星野】 講義実施日の9-17時</p> <p>【清水】 講義実施日の9-17時</p> <p>【東泉】 講義実施日の9-17時</p>
国家試験出題基準	<p>《必修問題》Ⅳ-16-A-a</p> <p>《老年看護学》Ⅱ-5-A～F</p>
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：老年看護学特論

授業コード：2N080

英文科目名称：Advanced Gerontological Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
担当教員			
伊藤まゆみ			

授業形態	講義（1回）、演習（7回）
授業計画	<p>第1回      コースガイダンス              高齢者と健康、老年看護学に求められる今日的課題</p> <p>第2回      高齢者の健康段階と看護のかかわり              高齢者の健康段階と看護学的課題の提示</p> <p>第3回      課題の提示と討議①              健康寿命とヘルスプロモーション</p> <p>第4回      課題の提示と討議②              入院・手術を受ける高齢者とせん妄の問題</p> <p>第5回      課題の提示と討議③              高齢者の医療・ケアにおける身体拘束の問題</p> <p>第6回      課題の提示と討議④              高齢者虐待の問題</p> <p>第7回      課題の提示と討議⑤              高齢者の摂食障害と胃瘻の問題</p> <p>第8回      まとめ              高齢者ケアにおける看護職の役割と責務</p>
科目の目的	さまざまな健康段階にある高齢者に応じた看護学的課題の現状と問題解決のための方向性を幅広い視点から学習する。また課題についての文献学習・事例検討・討議をとおして、看護職が果たす役割と今後の課題を考察する。【関心・意欲】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康寿命の概念と高齢者におけるヘルスプロモーションのあり方について考えることができる。</li> <li>2. 治療を受ける高齢者の早期回復のための支援のあり方について考えることができる。</li> <li>3. 認知症高齢者と家族の支援のあり方について考えることができる。</li> <li>4. 高齢者ケアにおける倫理的課題について考えることができる。</li> </ol>
関連科目	老年看護学総論、老年看護学Ⅰ、老年看護学Ⅱ、老年看護学演習、老年看護学実習
成績評価方法・基準	演習における発表・討議内容(70%)、レポート(30%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	担当部分のプレゼンテーションを行うためにおおよそ2時間の準備、配付資料の作成に1時間の準備
教科書・参考書	教科書：使用しない 参考書：随時紹介する
オフィス・アワー	講義実施日の9-17時
国家試験出題基準	《老年看護学》Ⅱ-4-A, B, C 6-C, L, N
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
内山 かおる			

授業形態	講義（5コマ）、演習（10コマ）
授業計画	<p>第1回 本科目のガイダンス 小児看護過程講義① 小児看護における看護過程の展開および看護技術の特徴と留意点 ゴードンを用いた小児看護過程の展開</p> <p>第2回 小児看護過程講義② 第1回の続き、演習オリエンテーション</p> <p>第3回 小児看護過程演習① 事例を用いた看護過程の展開（個人作業）*実施範囲は第2回で発表する</p> <p>第4回 小児看護過程演習② 第3回の続き 記録用紙（個人用）の提出</p> <p>第5回 小児看護過程演習③ 事例を用いた看護過程の展開（グループワーク） *個人の記録をもって参加する</p> <p>第6回 小児看護過程演習④ 第5回の続き</p> <p>第7回 小児看護過程演習⑤ 中間発表：情報収集、アセスメント、関連図、看護問題の抽出、使用する看護診断の決定とそれぞれの根拠</p> <p>第8回 小児看護過程演習⑥ 第7回の続き後、グループワークによる修正および発表の準備</p> <p>第9回 小児看護過程演習⑦ グループ発表 1</p> <p>第10回 小児看護過程演習⑧ グループ発表 2</p> <p>第11回 小児看護技術講義① 小児看護技術演習ガイドの配布およびオリエンテーション 演習技術項目を中心に小児看護技術についての講義 「身体計測」「更衣・おむつ交換の援助」「サークルベッドの取り扱い」「バイタルサイン測定」「検査・処置時の抑制」「点滴管理」「安全管理」*項目は一部変更の可能性あり。</p> <p>第12回 小児看護技術講義② 第11回の続き</p> <p>第13回 小児看護技術演習① 小児看護技術演習ガイドにそり、3つのグループに分かれて演習を行う。 「身体計測」「更衣・おむつ交換の援助」「バイタルサイン測定」「サークルベッドの取り扱い」「検査・処置時の抑制」「点滴管理」「安全管理」*項目は一部変更の可能性あり。</p> <p>第14回 小児看護技術演習② 第13回の続き</p> <p>第15回 本科目のまとめ 小児看護過程・小児看護技術最終まとめ、課題資料の提出</p>
科目の目的	さまざまな健康状態にある子どもの看護過程の展開方法と小児看護における基礎的な援助技術について学ぶ。 ディプロマポリシーとの関連【技能・表現】
到達目標	<p>1. 健康問題をもつ子どもと家族の事例を用いて、情報の整理、アセスメント、看護診断、発達段階と個性性を考慮したケアプランを作成する。</p> <p>2. 成長発達過程にある子どもと家族に応じた看護技術を実施する。</p>
関連科目	小児看護学（小児看護学総論、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、小児看護学特論、小児看護学実習）、母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、地域看護学各科目、統合分野各科目、教養科目群（心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境論など）、専門基礎臨床科目群（解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか）、専門基礎地域科目群（公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論ほか）
成績評価方法・基準	試験（60%）、課題提出（40%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の講義に臨む前に、教科書・配布資料を精読して下さい。 小児看護学総論、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ。看護過程（基礎看護学）を復習する。 1コマにつき、120分程度の準備時間を求めます。
教科書・参考書	教科書

	<p>1. 「根拠と事故防止からみた 小児看護学技術」 浅野みどり編 (医学書院) .</p> <p>2. 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論」 奈良間美保他著 (医学書院) .</p> <p>3. 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論」 奈良間美保他著 (医学書院)</p>
オフィス・アワー	講義前後
国家試験出題基準	<p><b>【看護師】</b></p> <p>《小児看護学》－Ⅱ－9－B－h, i</p> <p>《小児看護学》－Ⅱ－9－C－g</p> <p>《小児看護学》－Ⅱ－10－B－b, c, d, e, f, g, h, i, j, k</p> <p>《小児看護学》－Ⅱ－10－C－a, b, c, d</p> <p>《小児看護学》－Ⅱ－10－D－a, b, c, d</p>
履修条件・履修上の注意	－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
担当教員			
内山 かおる			

授業形態	講義1回、演習7回
授業計画	<p>第1回 小児看護の現状 新聞、子ども関連書籍、厚生労働省のデータなどを用いて小児看護の現状と課題を検討する</p> <p>第2回 小児看護の問題についての討議① 1) 乳児期・幼児期の問題①－小児救急医療体制について 2) 乳児期・幼児期の問題②－睡眠問題について 3) 学童期の問題－食育について 4) 思春期の問題－不登校について 5) 障害児の問題－発達障害について</p> <p>第3回 小児看護の問題についての討議②</p> <p>第4回 小児看護の問題についての討議③</p> <p>第5回 小児看護の問題についての討議④</p> <p>第6回 課題発表① 1) 乳児期・幼児期の問題①－小児救急医療体制について 2) 乳児期・幼児期の問題②－睡眠問題について 3) 学童期の問題－食育について 4) 思春期の問題－不登校について 5) 障害児の問題－発達障害について</p> <p>第7回 課題発表②</p> <p>第8回 小児看護の役割 課題発表の内容などから小児看護の役割を検討する</p>
科目の目的	<p>近年の小児保健や小児看護に関連するトピックスを取り上げ、その背景にある社会情勢や医療・保健・福祉の動向を理解し、今後の小児看護について展望することを目的とする。</p> <p>ディプロマポリシーとの関連 【関心・意欲】</p>
到達目標	<p>1. 近年の子どもの健康問題について子どもの権利擁護について考察することができる。</p> <p>2. 子どもの未来のために看護師として果たしうる可能性について考察することができる。</p>
関連科目	小児看護学（小児看護学総論、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、小児看護学Ⅲ、小児看護学実習）、母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、地域看護学各科目、統合分野各科目、教養科目群（心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境学など）、専門基礎臨床科目群（解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか）、専門基礎地域科目群（公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論ほか）
成績評価方法・基準	演習における発表・討議（50%）、レポート（50%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	課題に関するプレゼンテーションの準備を行う。 小児看護学総論、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、小児看護学Ⅲを復習する。 1コマにつき、120分程度の準備時間を求めます。
教科書・参考書	必要時提示する
オフィス・アワー	講義前後
国家試験出題基準	—
履修条件・履修上の注意	—

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
担当教員			
臼井 淳美			
早川 有子	池田 申之	横田 佳昌	

授業形態	講義 (19コマ) 演習 (11コマ)
授業計画	<p>第1・2回 妊娠の始まりと胎児の成長、妊娠経過とその看護 (池田、臼井)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠の成立、胎児の発育と発達について</li> <li>・妊娠の経過 (妊婦のからだと心の変化) と胎児の発育</li> <li>・妊娠期の看護</li> </ul> <p>第3・4回 妊婦の心理社会的側面と看護 (臼井)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊婦の心理社会的側面のアセスメント</li> <li>・妊婦の看護 (日常生活における健康管理・保健指導)、パースプラン作成とそれに対する支援</li> <li>・出産・育児の準備</li> </ul> <p>第5・6回 妊娠期の健康問題とその看護 (池田、臼井)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハイリスク妊娠とその看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>・流産・早産・妊娠高血圧症候群・前置胎盤・常位胎盤早期剥離</li> <li>・多胎妊娠・感染症・妊娠糖尿病 など</li> </ul> </li> </ul> <p>第7・8回 分娩の生理と経過、産婦の看護 (池田、臼井)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正常分娩の生理と経過 (胎児の健康状態含む)</li> <li>・産婦の看護 (分娩経過に伴う看護、産痛緩和、産婦とその家族)</li> </ul> <p>第9・10回 異常分娩、産婦の心理社会的側面と看護 (池田、臼井)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異常分娩 <ul style="list-style-type: none"> <li>・帝王切開術・産科出血・吸引・鉗子分娩・無痛分娩・胎児機能不全</li> </ul> </li> <li>・分娩監視装置 (装着と判定)</li> <li>・産婦の心理社会的側面のアセスメント</li> </ul> <p>第11・12回 妊娠期・分娩期の看護技術 (技術演習①) (臼井)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① レオポルド触診、腹囲・子宮底測定</li> <li>② 分娩監視装置の取り扱いと判定</li> <li>③ 産婦の看護：産痛緩和法、補助動作など</li> </ol> <p>第13・14回 産褥経過、褥婦の心理社会的側面と看護 (臼井)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既出事項のまとめ (中間試験1回目15分)</li> <li>・産褥の経過 (からだと心の変化)</li> <li>・褥婦の心理社会的側面のアセスメント、出産体験の振り返り</li> <li>・産褥期にある女性とその家族への日常生活の支援</li> <li>・家族計画</li> </ul> <p>第15回 新生児経過と新生児の看護 (臼井)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中間試験1回目の解説 (15分)</li> <li>・新生児の経過と特徴、看護</li> </ul> <p>第16回 新生児のフィジカルアセスメント (早川)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新生児のフィジカルアセスメント</li> </ul> <p>第17回 新生児期の健康問題 (池田)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新生児仮死、低出生体重児、呼吸障害、低血糖、黄疸、先天性異常など</li> <li>・健康障害のある新生児の看護</li> </ul> <p>第18・19回 母乳育児支援 (臼井)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳汁分泌のメカニズム</li> <li>・母乳育児支援</li> <li>・親子の絆とアタッチメント</li> </ul> <p>第20-22回 産褥期・新生児期の看護技術 (技術演習②) (臼井)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 新生児のフィジカルアセスメント</li> <li>② 沐浴</li> <li>③ 子宮復古状態 (子宮収縮)・外陰部の観察、乳房の観察と授乳介助</li> </ol> <p>第23・24回 人間の性と生殖とその看護 (横田、臼井)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不妊治療の実際</li> <li>・出生前診断</li> <li>・不妊治療と看護 (生殖をめぐる倫理含む)</li> </ul> <p>第25・26回 ウェルネス看護診断による看護過程の展開 (演習①) (臼井)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既出事項のまとめ (中間試験2回目15分)</li> <li>・母性看護におけるウェルネス看護診断の考え方</li> <li>・事例による看護過程の展開① <ul style="list-style-type: none"> <li>情報収集 (妊娠前～妊娠中、分娩の状況の把握含む)、根拠・アセスメント・健康課題の抽出</li> </ul> </li> </ul> <p>第27・28回 ウェルネス看護診断による看護過程の展開 (演習②) (臼井)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中間試験2回目の解説 (15分)</li> <li>・事例による看護過程の展開② <ul style="list-style-type: none"> <li>アセスメント・健康課題の抽出・看護目標の立案</li> </ul> </li> </ul> <p>第29・30回 ウェルネス看護診断による看護過程の展開 (演習③) (臼井)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例による看護過程の展開② <ul style="list-style-type: none"> <li>アセスメント・健康課題の抽出・看護目標の立案と看護計画</li> </ul> </li> </ul>

	・発表会
科目の目的	妊娠・分娩・産褥期、及び新生児に起こる身体的・心理的・社会的変化を理解し、母性看護の特徴と看護の役割について考える。母性看護の対象への看護を展開するための基礎的知識・技術を学ぶ。【思考・判断】【技能・表現】
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正常な経過をたどる妊婦・産婦・褥婦及び新生児の経過とその看護について理解できる。</li> <li>・ハイリスク状況にある妊婦・産婦・褥婦・新生児の経過とその看護が理解できる。</li> <li>・人間の性と生殖、およびその看護について理解できる。</li> <li>・母子とその家族への支援について理解できる。</li> <li>・母性看護に必要な基礎的技術を習得する。</li> </ul>
関連科目	基礎科目群：生命倫理 家族学 環境学 生物学基礎 専門基礎科目群：生理学 生化学 発達心理学 免疫・感染症学 社会福祉・地域サービス論 専門科目群：この科目の基盤となる専門科目の全て（主に小児看護学・公衆衛生看護学など）
成績評価方法・基準	中間試験（30％） 定期試験（70％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母性看護に関する既習の講義内容の復習が重要となる。</li> <li>・特に周産期医療とその看護について、課題を持って講義に臨んでほしい。</li> </ul> <b>【準備学習に必要な学習時間の目安】</b> 各講義につき1時間の授業時間外における学習（予習・復習など自己学習）が必要となる。
教科書・参考書	教科書：「系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学Ⅱ」森恵美（医学書院） 参考書：「母性の心理社会的側面と看護ケア」新道幸恵（医学書院） 「病気がみえる⑩産科 第3版」（メディックメディア） その他、講義内で紹介する
オフィス・アワー	白井淳美（研究室320）：講義開講日の昼休み、講義前後、放課後 早川有子（研究室319）：講義前後 中島久美子（研究室318）：講義前後 池田申之・横田佳昌（非常勤講師控室）：講義前後の休憩時間（10分間）
国家試験出題基準	<b>【看護師】</b> ≪必修≫－Ⅱ-7-A-b ≪必修≫－Ⅲ-10-A ≪母性看護学≫－Ⅰ-1-D、≪母性看護学≫－Ⅱ-2-A ≪母性看護学≫－Ⅲ-4-A, B, C, D、Ⅲ-5-A, B, C、Ⅲ-6-A, B, C, D、Ⅲ-7-A, B, C, D、≪母性看護学≫－Ⅳ-8-B
履修条件・履修上の注意	Active Academyにより、資料を事前配布する。各自印刷して授業に持参すること。

講義科目名称：母性看護学特論

授業コード：2N089

英文科目名称：Advanced Maternity Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
担当教員			
早川 有子			

授業形態	講義・演習（8回のうち講義1/2、演習1/2）
授業計画	<p>第1回 虐待・DVに関する最近の話題（講義・演習）</p> <p>第2回 母乳育児支援に関する最近の話題（職場環境含む）（講義・演習）</p> <p>第3回 母子感染症に関する最近の話題（講義・演習）</p> <p>第4回 妊娠・分娩・産褥に関する最近の話題（講義・演習）</p> <p>第5回 育児に関する最近の話題（講義・演習）</p> <p>第6回 不妊症に関する最近の話題 高度生殖医療に関する最近の話題（講義・演習）</p> <p>第7回 高齢と若年妊娠・分娩・産褥の最近の話題（講義・演習）</p> <p>第8回 環境と母子の健康問題に関する最近の話題（講義・演習）</p> <p>1-8について最近の論文・新聞を読み、さらに、身近な人を例に討議する。さらに、学生からの要望も講義の中に取り入れる。</p>
科目の目的	最近の母性看護の話題から専門分野を探究し、今後の課題が考えられ、その発展に貢献する意欲を持つことができる 【関心・意欲】
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>母性看護に関する最近の話題を知る。</li> <li>母性看護に関する最近の話題から今後の課題が考えられる。</li> </ul>
関連科目	専門科目群：母性看護学総論 母性看護学Ⅰ 母性看護学Ⅱ 小児看護学 公衆衛生看護学
成績評価方法・基準	課題発表（20%） 課題提出（80%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容：母性看護に関する既習の講義内容を復習し講義に臨むこと。 母性に関する最近の話題についての課題を持って講義に臨むこと。 準備学習時間の目安：3時間45分
教科書・参考書	使用しない
オフィス・アワー	講義開講日：講義前後 放課後
国家試験出題基準	《母性看護学》Ⅰ-B 《母性看護学》Ⅱ-3-A Ⅱ-3-B 《母性看護学》Ⅲ-4-C Ⅲ-5-A.C.
履修条件・履修上の注意	Active Academy により資料を事前に配布する、各自印刷して授業に持参すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
村松 仁			
松本 浩子			

授業形態	講義・演習
授業計画	<p>第1回 精神看護学の展開（村松 仁） オリエンテーション、医療における精神看護の展開等</p> <p>第2回 精神障害を持つ人への看護援助の展開1（村松 仁） 統合失調症・妄想性障害を持つ人の看護</p> <p>第3回 精神障害を持つ人への看護援助の展開2（村松 仁） 気分障害・双極性障害を持つ人の看護</p> <p>第4回 精神障害を持つ人への看護援助の展開3（村松 仁） アルコール依存症・薬物依存症を持つ人の看護</p> <p>第5回 精神障害を持つ人への看護援助の展開4（村松 仁） 摂食障害を持つ人の看護</p> <p>第6回 精神障害を持つ人への看護援助の展開5（村松 仁） 神経症性障害（強迫性障害）を持つ人の看護</p> <p>第7回 看護過程演習1（村松 仁・松本浩子） 精神看護学における看護過程の展開方法（セルフケア理論）</p> <p>第8回 看護過程演習2（村松 仁・松本浩子） 基本データ、精神症状のアセスメント、セルフケア・ストレングスのアセスメント</p> <p>第9回 看護過程演習3（村松 仁・松本浩子） セルフケア・ストレングスのアセスメント2</p> <p>第10回 看護過程演習4（村松 仁・松本浩子） 看護問題の抽出・優先順位の決定・関連図</p> <p>第11回 看護過程演習5（村松 仁・松本浩子） ケアプラン立案</p> <p>第12回 精神科病棟における環境調整と安全管理（村松 仁） 治療環境の調整、安全管理、事故防止、行動制限と看護</p> <p>第13回 精神障害を持つ人の地域における生活支援1（村松 仁） 地域精神保健福祉と社会参加</p> <p>第14回 精神障害を持つ人の地域における生活支援2（村松 仁） 地域生活支援の実際／家族支援</p> <p>第15回 わが国の精神看護の発展 リエゾン精神看護・司法精神看護</p>
科目の目的	精神の健康問題（課題）を持つ人に対する回復（リカバリー）に向けた看護の展開について、演習を通じた講義を含め学修し、ディプロマポリシーである知識・理解、思考・判断技能・表現、技能・表現、態度を身に付ける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神看護の基本技術である治療的関係性の意義と治療的関係性の構築方法が理解できる。</li> <li>2. 精神の健康問題（課題）を持つ人に対する回復（リカバリー）に向けた看護過程展開の基礎が理解できる。</li> <li>3. 精神科病院における治療環境の意義と適切な調整について理解できる。</li> <li>4. 地域における精神看護の意義及び目的、方法について理解できる。</li> </ol>
関連科目	心理学、発達心理学、臨床心理学、カウンセリング、精神看護学総論、精神看護学Ⅰ、精神看護学実習
成績評価方法・基準	定期試験（60％）、課題（看護過程演習）（40％）＊課題未提出の場合は定期試験の対象から除外する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>予習：各講義日の講義内容について教科書及び参考図書を講読し、学習内容を把握し、疑問点等を抽出する（約1時間）</p> <p>復習：講義終了後に、講義内容の再確認及び疑問点を抽出し、疑問点について調べる（約1時間）</p>
教科書・参考書	<p>教科書：精神看護学総論・精神看護学Ⅰで使用した教科書を使用する。</p> <p>参考書：これからの精神看護学（森千鶴、田中留伊監編集、ピラールプレス）、精神神経疾患ビジュアルブック（落合慈之監修、学研メディカル秀潤社）</p>
オフィス・アワー	<p>村松 仁：月～金曜日17:00～18:00</p> <p>松本浩子：月～金曜日17:00～18:00</p>
国家試験出題基準	<p>《精神看護学》Ⅱ-2-A`E</p> <p>《精神看護学》Ⅱ-3-A`D</p> <p>《精神看護学》Ⅱ-4-A`C</p> <p>《精神看護学》Ⅱ-5-A`D</p> <p>《精神看護学》Ⅱ-6-A`B</p>

履修条件・履修上の注意	講義資料は、講義の約1週間前程度から当該日までActive Academyにより配布する。資料は印刷して持参すること。
-------------	---

講義科目名称：精神看護学特論

授業コード：2N093

英文科目名称：Advanced Psychiatric Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
担当教員			
村松 仁			

授業形態	講義・演習
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 本科目の目的・概要・講義予定の説明</p> <p>第2回 精神保健看護の基板となる理論1 精神力動理論・危機理論・その他</p> <p>第3回 精神保健看護の基礎理論2 認知行動理論</p> <p>第4回 認知行動理論と認知行動療法1 認知行動療法の基礎理論1</p> <p>第5回 認知行動理論と認知行動療法2 認知行動療法の基礎理論2</p> <p>第6回 認知行動療法の実際1 コラム法を用いた自己の認知状況の検討</p> <p>第7回 認知行動療法の実際2 認知行動療法を実施する生活場面を検討 で実施する</p> <p>第8回 認知行動療法の実際3 認知行動療法の実施3ー 認知行動療法による変化を検討する</p>
科目の目的	近年の精神保健看護の分野で重要な支援技法となっている認知行動療法について、基礎的知識及び基本的な技能を演習形式で理解し身に付け、精神保健看護における専門的な技術の習得を行う。以上より、ディプロマポリシーである知識・理解、思考・判断技能・表現、技能・表現、態度を身に付ける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神保健看護分野における各種技法が理解できる。</li> <li>2. 認知行動療法の基礎知識が理解できる。</li> <li>3. 認知行動療法の基礎が実施できる。</li> </ol>
関連科目	心理学、発達心理学、臨床心理学、カウンセリング、精神看護学総論、精神看護学Ⅰ、精神看護学Ⅱ、精神看護学実習
成績評価方法・基準	演習における課題レポート（50%）、認知行動療法に関する実施（50%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>予習：各講義日の講義内容に関連する研究論文及び参考図書を講読し、学習内容を把握し、疑問点等を抽出する（約2時間）</p> <p>復習：講義終了後に、講義内容の再確認及び疑問点を抽出し、疑問点について調べる（約2時間）</p>
教科書・参考書	<p>教科書：使用しない</p> <p>参考書：講義において適宜紹介する。</p>
オフィス・アワー	村松 仁：月～金曜日17:00～18:00
国家試験出題基準	<p>《精神看護学》Ⅱ-2-A`E</p> <p>《精神看護学》Ⅱ-3-A`D</p> <p>《精神看護学》Ⅱ-4-A`C</p> <p>《精神看護学》Ⅱ-5-A`D</p> <p>《精神看護学》Ⅱ-6-A`B</p>
履修条件・履修上の注意	精神保健及び精神看護学に関する各自の関心事項を基に講義を進めるので、受講に際しては自己の精神保健及び精神看護学に関する関心を明確にできることが必要となる。同時に、主体的な学習が求められることを理解しておくこと。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
担当教員			
笠井 秀子			
山野えり子	堀 美佐子	久住美稚子	梨木恵実子

授業形態	講義16 演習14		
授業計画	第1回	在宅療養生活を支える看護1 笠井 秀子 在宅看護論概論、在宅看護論Ⅰの復習 食事・栄養・清潔に関する在宅看護の展開、家族支援	
	第2回	在宅療養生活を支える看護2 笠井 秀子 ADL障害をもつ療養者への在宅看護の展開、家族支援	
	第3回	在宅療養生活を支える看護3 笠井 秀子 排泄、人工肛門を造設した療養者への看護の展開	
	第4回	在宅療養生活を支える看護4 感染症対策 笠井 秀子 在宅生活の場で起こりやすい感染症とその対策	
	第5回	特徴的な疾病がある療養者への看護1 堀 美佐子 小児の在宅療養児・家族への看護の実際 多職種連携、社会資源の活用 看護の役割	
	第6回	特徴的な疾病がある療養者への看護2 笠井 秀子 精神疾患がある在宅療養者、家族への看護の実際 多職種連携 社会資源の活用 看護の役割	
	第7回	特徴的な疾病がある在宅療養者への看護3 梨木 恵実子 認知症療養者・家族への在宅看護の実際 多職種連携 社会資源の活用 看護の役割	
	第8回	特徴的な疾病がある在宅療養者への看護4 笠井 秀子 難病疾患がある療養者、家族への看護の実際 多職種連携 社会資源の活用 看護の役割	
	第9回	在宅における医療管理を必要とする人の看護1 笠井 秀子 HOTの適応基準、在宅酸素療法実施中の療養者・家族への看護の実際、HOT使用機器・日常生活管理、おこりやすいトラブルとその対処法、多職種連携、社会資源活用、災害時対策、看護の役割	
	第10回	在宅における医療管理を必要とする人の看護2 笠井 秀子 在宅人工呼吸療法の適応、在宅人工呼吸療法療養者・家族への看護の実際、人工呼吸器管理、療養環境整備、おこりやすいトラブルとその対処法、多職種連携、社会資源活用、災害時対策、看護の役割	
	第11回	在宅における医療管理を必要とする人の看護3 笠井 秀子 膀胱カテーテル留置療養者・家族に対する看護の実際、膀胱留置カテーテル適応基準、おこりやすいトラブルとその対処法、	
	第12回	在宅における医療管理を必要とする人の看護4 笠井 秀子 胃ろう、経管栄養を必要とする療養者の看護の実際、家族支援、おこりやすいトラブルと対処方法	
	第13回	在宅における医療管理を必要とする人の看護5 梨木 恵実子 疼痛緩和を必要とする療養者の看護の実際と家族支援	
	第14回	在宅における医療管理を必要とする人の看護6 久住 美稚子 在宅における褥瘡ケアの実際 予防、処置、褥瘡の程度のケア方法	
	第15回	在宅療養生活を支える看護5 梨木 恵実子 独居の療養者に対する在宅看護の実際、多職種連携・協働、緊急時の支援	
	第16回	在宅看護過程の展開1 (笠井、山野) 中間テスト 生活の場における看護過程の特徴と展開方法	
	第17回	在宅看護過程の展開2 (笠井、山野) 模擬事例の説明 情報収集 アセスメント 記録の書き方	
	第18回	在宅看護過程の展開3 (笠井、山野) 事例の情報収集・整理、アセスメント	
	第19回	在宅看護過程の展開4 笠井、山野 事例の長期目標設定、看護問題抽出	
	第20回	在宅看護過程の展開5 (笠井、山野) 看護問題抽出、看護計画立案	
	第21回	在宅看護過程の展開6 (笠井、山野) グループ発表 長期目標 看護問題	
	第22回	在宅看護過程の展開7 (笠井、山野) グループ発表 看護過程の見直し	
	第23回	在宅看護過程の展開8 (笠井、山野) 事例の療養生活の場、生活の希望にそった看護計画立案	

	<p>第24回 在宅看護過程の展開9 (笠井、山野) 事例の療養生活の場、生活の希望にそった看護計画立案</p> <p>第25回 在宅看護過程の展開10 (笠井、山野) 看護計画にそった訪問看護のシナリオ作成</p> <p>第26回 在宅看護過程の展開11 (笠井、山野) 看護計画にそった訪問看護のシナリオ作成</p> <p>第27回 在宅看護過程の展開12 (笠井、山野) 事例の訪問看護の実施 ロールプレイ発表</p> <p>第28回 在宅看護過程の展開13 (笠井、山野) 事例の訪問看護の実施 ロールプレイ発表 評価</p> <p>第29回 在宅看護過程の展開14 (笠井、山野) ロールプレイ訪問看護実施の評価 グループワーク 発表</p> <p>第30回 在宅看護過程の展開15 (笠井、山野) 私が理想とする訪問看護師像とは グループワーク レポート</p>
科目の目的	<p>「技能・表現」 在宅療養者や家族の「希望する生活を」実現するために必要な日常生活援助技術および人工呼吸器装着など特殊な医療技術が必要な療養者・家族に対する在宅看護の展開方法と看護支援を学ぶ。また習得した在宅看護の知識・技術を応用し模擬事例に対し、在宅療養者の「生活の場」の特徴を踏まえた看護過程の展開の実施・実施した在宅看護の評価ができる。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅療養支援に関わる関係機関・関係職種とそれらを有効に機能させるための看護方法を説明することができる。</li> <li>2. 在宅の場における日常生活援助技術が習得できる。</li> <li>3. 特殊な医療処置・管理を要する在宅療養者に必要な知識・看護技術が習得できる。</li> <li>4. 家族看護方法が習得できる。</li> <li>5. 生活の場における特徴を踏まえた看護過程を展開することができ、ロールプレイで看護過程を実施することにより、実施した看護の評価の視点を養うことができる。</li> </ol>
関連科目	基礎看護学領域各科目、成人看護学、老年看護学、小児看護学、精神看護学、地域看護学、社会保障制度
成績評価方法・基準	中間試験（10%）、課題レポート（10%） 定期試験（80%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護概論および在宅看護論Ⅰの復習が必要であり、特に社会資源の活用方法や多職種連携・協働における看護師の役割について復習をしておくこと。</li> <li>2. 基礎看護学、成人看護学、老年看護学、小児看護学、精神看護学で学んだ看護方法の復習をしておくこと</li> <li>3. 特殊な技術を要する在宅看護では、適応となる基礎疾患の知識が基盤になるので事前学習をして基礎疾患を理解したうえで講義に臨んでほしい。（準備学習として各講義につき、1時間程度の予習復習をしてほしい）これは在宅看護過程の展開をする上でも同様なことが求められるため、事前学習の内容は前もって告知する。</li> </ol>
教科書・参考書	<p>教科書：「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論」秋山正子（医学書院） 「ナーシンググラフィカ 在宅看護論 地域療養を支える人々」</p> <p>参考書：「写真でわかる訪問看護 訪問看護の世界を写真で学ぶ」押川真喜子（インターメディカ） 「介護保険制度に関するパンフレット」（社会保険出版社） 「訪問看護サービス」（日本訪問看護振興財団）</p>
オフィス・アワー	<p>専任教員：金曜日：12:10～13:00（笠井研究室） 非常勤講師：各非常勤講師の講義終了後または授業の休憩時間（場所：教室または非常勤講師控室）</p>
国家試験出題基準	<p>在宅看護論Ⅱ 4-A-a～e、4-B-a～f、4-C-a,b、4-D-a～d、5-A-a～c、5-B-a～d、5-C-a～d、 5-D-a～f、5-E-a～d、6-A-a～c、6-B-a～c、6-C-a～c、6-D-a～c、2-A-a～g、 2-B-a～d、7-A-a～c、7-B-a、7-C-a～d、7-D-a～e、 7-E-a～c、7-F-a～e、7-G-a～e、7-H-a～c、11-H-c、1-E-a～c</p>
履修条件・履修上の注意	<p>事前学習については、模擬事例について①情報収集の整理 ②アセスメント ③看護問題抽出、長期看護目標について、課題を課す。課題のフィードバックについては、グループ演習の発表日にその内容を提示する。また講義については、前週の講義内容にそった国家試験類似問題を課す。当該講義日に課題の正当と抑えておきたいポイントを示す。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	必修
担当教員			
根生とき子			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 看護とマネジメント 管理とは何か、看護マネジメントの基礎、看護管理過程、組織管理について</p> <p>第2回 看護関連法令 看護を取り巻く諸制度について、保健師助産師看護師法、医療法、医療職の法律について</p> <p>第3回 ケアのマネジメント 看護職の協働、他職種との協働、チーム医療、クリニカルパスについて</p> <p>第4回 安全管理 患者の権利の尊重、医療安全、情報管理等をゲストスピーカーから安全管理者の役割や業務の実態を学ぶ</p> <p>第5回 感染管理 院内感染予防、感染対策について、標準予防策を理解する</p> <p>第6回 看護サービスの質の管理 職員教育、人材育成、サービスの質の評価について</p> <p>第7回 看護の経済的評価 診療報酬制度、労働環境、看護政策等について</p> <p>第8回 看護管理の実際 病院管理の実際について まとめ</p>
科目の目的	看護管理は、管理者になろうとする者だけが学ぶものではなく、看護そのものを提供するうえで必要とされる知識や技術である。看護はチーム医療や組織・システムの中で新しいヘルスケアシステムを創造し展開して行く中核となることが期待されている。医学の発展に伴う高度医療、情報技術の発達、EBM、個人情報の擁護など、変化してゆく社会や人々にニーズと環境を適応させながら、安全且つ高い水準のケアを提供するための管理の方法を学ぶ。4年次の総合実習につなげる学習である。ディプロマ・ポリシーは「知識・理解」と「態度」である。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護管理を支える組織、リスクマネジメントの基本、関連する社会制度、法が理解できる。</li> <li>2. 病院をはじめとする組織内の安全管理のシステムと実際が理解できる。</li> <li>3. 医療チームの一員として、看護チームの一員として、どのように仕事をして行くのか考えられる。</li> </ol>
関連科目	看護学概論Ⅰ、看護学概論Ⅱ、法学、チーム医療論
成績評価方法・基準	筆記試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	テキストや配布資料を使い予習1時間、授業後復習1時間行うこと
教科書・参考書	<p>教科書 上泉和子他著：系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践〔1〕. 医学書院</p> <p>参考書 井部俊子, 中西睦子監：看護管理学習テキスト1～8・別巻. 日本看護協会出版会 村島さい子, 加藤和子, 瀬戸口要子編：ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践① 看護管理. メディカ出版</p>
オフィス・アワー	授業日の昼休み（12：10～13：00）
国家試験出題基準	<p>【看護師】《看護の統合と実践》 I-1-A-ab, B-a～h, C-ab, D-a～d, E-a～c, F-abde, G-ab. II-2-A-c, C-a. IV-4-A～J.</p> <p>《基礎看護》 I-1-A-bc. 2-C-c. III-6-A-abc.</p> <p>《必修問題》 I-3-B-ab, 4-A-b, B-a～e. II-9-A-dg～j, B-be. IV-15-B-e.</p> <p>《健康支援と社会保障制度》 I-1-C-b. IV-12-C-bc.</p>
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
矢島 正栄			
矢嶋 和江			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 災害と法制度 1) 災害とは 2) 災害看護の目的 3) 災害サイクル別災害対策と看護の役割 4) 災害関連法規 5) 災害時医療活動の法的根拠 (矢嶋)</p> <p>第2回 災害による健康障害、災害発生時の応急救護 1) 災害の種類別健康障害とその特徴 2) トリアージとは・タッキングの原則とケアリング 3) 救護活動における倫理 (矢嶋)</p> <p>第3回 災害救援活動ー日本の災害救援の体制ー 1) 災害拠点病院とDMAT&amp;amp;DPAT 2) 災害看護師派遣体制：災害支援ネットワーク (看護協会) 3) 民間災害ボランティア派遣体制 (矢嶋)</p> <p>第4回 災害救援活動ー国際救援活動ー 1) 国際救援とその仕組み 2) 国際緊急援助隊とは 3) 国外の被災地における援助活動の特性 (矢嶋)</p> <p>第5回 災害発生時の行動～病院・施設の対応 1) 病院防災の考え方・BCP ・災害被害の軽減対策と防災マニュアル ・災害発生時の入院患者管理・避難誘導 ・多死傷者受け入れのための準備 ・被災施設職員の健康管理と災害ボランティアの受け入れ 2) 要支援者介護施設の防災対策 ・災害被害の軽減に向けた対策 ハザードマップによる避難計画 (矢嶋)</p> <p>第6回 災害時の保健活動1 1) 災害被災者の健康問題 2) 避難センターにおける支援と保健活動 3) 在宅の被災者に対する支援 4) 仮設住宅生活者に対する支援 震災関連死・孤独死の予防に向けた活動 5) ハイリスクグループへの支援 6) ASDとPTSDの症状とその予防対策 7) 惨事ストレスと心のケア (矢嶋)</p> <p>第7回 災害時の保健活動2 1) 災害準備期の保健活動 2) 災害時の情報管理、組織・運営管理、業務管理、人事管理 3) 救援者の健康管理 4) 被災後のコミュニティーづくり 5) 地域防災計画、健康危機管理マニュアル等計画の策定への参画 (矢嶋)</p> <p>第8回 原子力災害について・まとめ 1) 放射線災害の基礎 2) 被ばくによる身体への影響 3) 原子力災害時の対応について 減災に向けて、あなたができることは何ですか？ (矢嶋)</p>
科目の目的	災害の種類や経時的な医療ニーズの変化について理解し、保健医療職として災害各期における適切な被災者支援活動ができるための基礎的な知識を学ぶ。また、支援活動における看護の役割を理解し、国内外で発生する災害を人道的な視点から考える。【知識・理解】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害の定義及び災害看護の目的を説明できる。</li> <li>2. 災害サイクルと発災後の援助ニーズの経時的変化を説明できる。</li> <li>3. 災害時の支援体制と医療体制について説明できる。</li> <li>4. トリアージの概念に基づいた判断と、適切な応急処置・ケアリングができる。</li> <li>5. 災害の種類、発生地域、避難者の置かれた状況等によってどのような健康問題が発生するのかを説明できる。</li> <li>6. 地方自治体における災害時の保健師の役割を説明できる。</li> </ol>
関連科目	臨床看護管理学、公衆衛生看護管理学、地域保健行政
成績評価方法・基準	試験（90％）、レポート（10％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の講義に臨む前にテキスト、配付資料を精読しておいてください。1コマにつき4時間程度の準備学習を求めます。

教科書・参考書	<p>教科書 「災害看護」黒田裕子、酒井明子 監修 (メディカ出版)</p> <p>参考書 「災害看護」小原真理子、酒井明子 監修 (南山堂出版) 「看護師・介護師のための災害救護ハンドブック」矢嶋和江 編集 (利根沼田印刷) 「阪神淡路大震災—その時看護は—」南 裕子 監修 (日本看護協会出版会) 「ナースのためのトリアージハンドブック」山崎和枝 監修 (医学書院) 「東日本震災レポート—その時どう動いたか—」日本看護協会出版会 監修 (日本看護協会出版会) 「その時、介護師はどう行動したのか」矢嶋和江 編集 (路上社) 他 授業内で紹介</p>
オフィス・アワー	<p>矢島正栄：月～金 17:00～18:00 矢嶋和江：授業の前後</p>
国家試験出題基準	<p>保健師国家試験出題基準      ≪公衆衛生看護学概論≫ 3-B-c, d      ≪健康危機管理≫ 3-A, B, C, D, E      看護師国家試験出題基準      ≪必修問題≫ IV-16-J      ≪小児看護学≫ II-10-G      ≪精神医学≫ I-1-D      ≪看護の統合と実践≫ II-2-A, B, C</p>
履修条件・履修上の注意	<p>Active Academyにより資料を事前配付しますので、授業に持参してください。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
辻村 弘美			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 授業ガイダンス及び国際看護総論1</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際看護の概念</li> <li>2. 国際協力の歴史とその変遷 被援助国時代から援助供与国になるまで</li> <li>3. 日本の国際協力の流れ 二国間援助（無償資金協力, 技術協力, 有償資金協力）と多国間援助</li> <li>4. 国際協力に関わる機関、GO、NGO、その他の援助機関の役割（JICA、厚生労働省、外務省、WHO、UNICEFなどについて）</li> <li>5. 最近の国際協力の動向について</li> </ol> <p>第2回 国際看護総論2</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際看護の必要性 <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界のさまざまな格差</li> <li>・わが国が受けた支援</li> <li>・開発協力大綱（ODA大綱）の基本理念と原則</li> </ul> </li> <li>2. 保健医療の現状への対策 <ul style="list-style-type: none"> <li>・プライマリ・ヘルスケアの基本原則と意義</li> </ul> </li> </ol> <p>第3回 途上国における健康問題1</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先進国と開発途上国について</li> <li>2. 貧困とは</li> <li>3. 栄養問題、環境問題</li> </ol> <p>第4回 国際保健医療活動の実際1</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 途上国での医療活動、NGOワーカー</li> </ol> <p>第5回 途上国における健康問題2</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感染症コントロール（ポリオ・麻疹根絶活動、マラリア、下痢症、結核）</li> <li>2. HIV/AIDS</li> <li>3. リプロダクティブヘルス/ライツ</li> </ol> <p>第6回 国際保健医療活動の実際2</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 青年海外協力隊活動について</li> </ol> <p>第7回 グローバル社会と国際看護</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在日外国人の増加による問題、外国人看護師の受け入れ問題など</li> </ol> <p>第8回 ミレニアム開発目標（MDGs）と持続可能な開発目標（SDGs）、国際看護協力への道</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ミレニアム開発目標（MDGs）と持続可能な開発目標（SDGs）</li> <li>2. 国際医療協力に必要な資質、国際医療協力への道</li> </ol>
科目の目的	国際協力や国際看護の概念や意義などを理解し、国際保健医療という視点において国際看護や国際協力などのあり方について考える。カリキュラムマップの「関心・意欲」に該当する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際看護の概念や必要性が理解できる</li> <li>2. 国際協力の歴史的な経緯と最近の動向が理解できる</li> <li>3. 諸外国における健康問題や看護の現状が理解できる</li> <li>4. 日本や諸外国で自分ができる国際看護活動とは何かを考えることができる</li> </ol>
関連科目	専門基礎科目－公衆衛生学、疫学・保健統計 専門科目－災害看護論
成績評価方法・基準	試験（100％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	国際協力等の宿題を出すことがあります（学習時間30分程度） また、日常生活の中で国際保健や国際看護に関する報道について興味をもっていただきたい
教科書・参考書	教科書：「国際看護学入門」国際看護研究会編（医学書院） 参考書：「バッシュ国際保健学講座」ポールバッシュ（じほう） 医者のいないところで 村のヘルスケア手引書 デビッド・ワーナー（シェア） 世界子供白書（ユニセフ）等
オフィス・アワー	授業前後（場所：非常勤講師室）
国家試験出題基準	【看護の統合と実践】 目標Ⅲ．国際社会における看護について基本的な理解を問う。 3．国際化と看護 A．看護のグローバル化 B．多様な文化と看護 C．看護の国際協力活動
履修条件・履修上の注意	なし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	2単位	選択
担当教員			
小林亜由美			

授業形態	講義（8回）、演習（22回）		
授業計画	第1回	地域診断の概念と過程 地域診断の定義・意義 関連する法令 PDCAサイクル コミュニティーアズパートナーズモデル	
	第2回	地域集団の特性の把握 地域把握の視点 情報収集とアセスメント	
	第3回	健康課題の抽出方法 対象となる地域および集団の特定 情報収集とアセスメント 現状の把握（健康課題の予測）と分析（背景、対処力、影響の分析） 食生活、喫煙、飲酒、就労、睡眠に関する課題と分析	
	第4回	健康課題の抽出方法2 健康課題の抽出に有効なモデル：ヘルスプロモーションモデル、プリシード・プロシードモデル 地域診断の記載 健康課題の優先順位	
	第5回	地域保健活動計画立案のプロセス1 活動方針、活動目標、活動計画の構成	
	第6回	地域保健活動計画立案のプロセス2 具体的活動方法の選択、活動計画立案のプロセス	
	第7回	保健事業（実施）計画策定のプロセス1 目的・目標の設定、事業/活動計画、必要量・稼働量の算定、予算化	
	第8回	保健事業（実施）計画策定のプロセス2 地域活動の実施と評価	
	第9回	地域診断演習1：オリエンテーション 演習スケジュール、地域診断学外演習オリエンテーション	
	第10回	地域診断演習2：既存資料による地域の情報収集1 情報収集・アセスメントシートの作成方法 地域診断を行うための情報収集の項目	
	第11回	地域診断演習3：既存資料による地域の情報収集2 データのグラフ化、比較、集約	
	第12回	地域診断演習4：既存資料による地域の情報収集3 データのグラフ化、比較、集約/地域踏査計画	
	第13回	地域診断演習5：地域踏査1 地域踏査の実施と地区視診記録シートの記載	
	第14回	地域診断演習6：地域踏査2 地域踏査の実施と地区視診記録シートの記載	
	第15回	地域診断演習7：地域の情報分析1 資料から得られた情報のアセスメント	
	第16回	地域診断演習8：地域の情報分析2 資料から得られた情報のアセスメント	
	第17回	地域診断演習9：健康課題の抽出1 健康課題抽出シートの作成：健康課題の予測	
	第18回	地域診断演習10：健康課題の抽出2 健康課題抽出シートの作成：健康課題の予測	
	第19回	地域診断演習11：健康課題の抽出3 関連図の作成：健康課題とアセスメント項目の関係性を図に示す。	
	第20回	地域診断演習12：健康課題の抽出4 健康課題抽出シートの作成：分析、健康課題の決定	
	第21回	地域診断演習13：対策の検討・年間活動計画1 母子、成人高齢者等領域別に年間活動計画を作成する。	
	第22回	地域診断演習14：対策の検討・年間活動計画2 母子、成人高齢者等領域別に年間活動計画を作成する。	

	<p>第23回 地域診断演習15：対策の検討・年間活動計画3 母子、成人高齢者等領域別に年間活動計画を作成する。</p> <p>第24回 地域診断演習16：対策の検討・年間活動計画4 母子、成人高齢者等領域別に年間活動計画を作成する。</p> <p>第25回 地域診断演習17：保健事業（実施）計画1 母子または成人高齢者領域の年間活動計画から1つの事業を選択して保健事業計画を策定する。</p> <p>第26回 地域診断演習18：保健事業（実施）計画2 母子または成人高齢者領域の年間活動計画から1つの事業を選択して保健事業計画を策定する。</p> <p>第27回 地域診断演習19：保健事業（実施）計画3 母子または成人高齢者領域の年間活動計画から1つの事業を選択して保健事業計画を策定する。</p> <p>第28回 地域診断演習20：報告・検討会準備 健康課題抽出～保健事業計画立案までのプロセスをまとめて、発表する準備を行う。</p> <p>第29回 地域診断演習21：地域保健活動計画報告・検討会1 作成した資料を提示しながら、地域診断ならびに保健事業計画立案のプロセスを報告する。</p> <p>第30回 地域診断演習22：地域保健活動計画報告・検討会2 作成した資料を提示しながら、地域診断ならびに保健事業計画立案のプロセスを報告する。</p>
科目の目的	地域を単位とした健康問題の探求と、問題解決に向けた組織的・計画的な活動の展開方法を説明できる。さらに、保健計画の策定・遂行・評価、及び施策化に関わる看護専門職の役割について理解を深める。【思考・判断】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域の特性と健康課題を捉え、優先順位をつけることができる。</li> <li>2. 健康課題に対する解決・改善に向けた目的・目標を設定できる。</li> <li>3. 目標達成の手段を明確にし、年間活動計画・保健事業計画を立案できる。</li> <li>4. 地域の健康管理における関係機関、関係職種との連携の必要性と方法を説明できる。</li> <li>5. 評価の項目・方法・時期を設定できる。</li> </ol>
関連科目	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学Ⅰ、公衆衛生看護学Ⅲ、公衆衛生看護学Ⅳ、公衆衛生看護管理学、公衆衛生看護学実習、疫学、保健統計
成績評価方法・基準	試験(50%)、演習課題(50%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の講義に臨む前にテキスト、配付資料を精読しておいてください。演習では、前回の課題目標までは到達していることを求めます。準備学習に必要な学習時間として1～8回目(講義)は30分/回、9回目以降(演習)は90分/回を要します。
教科書・参考書	教科書：「最新保健学講座5公衆衛生看護管理論」平野かよ子編集(メヂカルフレンド社) 教科書：「国民衛生の動向2016/2017」(財団法人厚生統計協会)
オフィス・アワー	小林、廣田、矢島：月～金 12:10～13:00、16:10～18:00 一場：授業の前後
国家試験出題基準	<p>《公衆衛生看護学概論》3-A, B 4-A, b, C 5-A～E</p> <p>《公衆衛生看護方法論Ⅰ》1～5</p> <p>《公衆衛生看護方法論Ⅱ》1～6</p> <p>《保健医療福祉行政論》1～7</p>
履修条件・履修上の注意	保健師国家試験受験資格取得のための要件科目

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
担当教員			
奥野みどり			

授業形態	講義11回、演習4回
授業計画	<p>第1回 母子保健総論（講義①） 母子保健の考え方・我が国の母子保健の変遷</p> <p>第2回 母子保健総論（講義②） 我が国の母子保健の水準</p> <p>第3回 母子保健総論（講義③） 我が国の母子保健施策の概要</p> <p>第4回 母子保健論（講義④） 思春期・若い家族の保健指導</p> <p>第5回 母子保健論（講義⑤） 妊娠・分娩・産褥期の保健指導</p> <p>第6回 母子保健論（講義⑥） 子育て期・更年期の保健指導</p> <p>第7回 小児保健論（演習①） 乳幼児の発達</p> <p>第8回 小児保健論（講義⑦） 乳・幼児の成長発達・健康・生活と保健指導 1</p> <p>第9回 小児保健論（講義⑧） 乳・幼児の成長発達・健康・生活と保健指導 2</p> <p>第10回 小児保健論（講義⑨） 乳・幼児の成長発達・健康・生活と保健指導 3</p> <p>第11回 小児保健論（演習②） 乳幼児期の保健指導の実践（離乳食、間食）</p> <p>第12回 小児保健論（演習③） 乳幼児期の保健指導の実践の振り返り（離乳食、間食）</p> <p>第13回 小児保健論（講義⑩） 障害児・小児慢性疾患児の保健指導</p> <p>第14回 小児保健論（講義⑪） ハイリスク母子の保健指導</p> <p>第15回 まとめ（演習④） 今日の母子保健活動の課題と支援の在り方</p>
科目の目的	母子保健活動の理念と特質を学び、実践の基礎となる知識及び技術を習得する【知識・理解】。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>母子保健活動の理念と目的がわかる。</li> <li>母子が抱える健康課題の支援の方法がわかる。</li> <li>我が国の母子保健管理システムとその遂行に関わる保健師の役割がわかる。</li> </ol>
関連科目	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学Ⅰ、公衆衛生看護学Ⅱ、公衆衛生学、社会福祉・社会保障制度論、地域保健行政、母性看護学総論、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱ、小児看護学総論、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、小児看護学Ⅲ、精神看護学総論
成績評価方法・基準	定期試験等試験(70%)・レポート等提出物(30%)：レポートは採点后返却します
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> <li>公衆衛生学概論、公衆衛生看護学Ⅰ、母性看護学、小児看護学で学んだ知識をしっかりと定着させて臨んでください。</li> <li>教科書の各回講義内容に該当するところを読んでから授業に臨んでください。</li> </ul>
教科書・参考書	<p>教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「標準保健師講座3対象別公衆衛生看護活動」（医学書院）</li> <li>国民衛生の動向2017/2018（財団法人厚生統計協会）</li> </ul>
オフィス・アワー	昼休み・講義終了後
国家試験出題基準	<p>【保健師】</p> <p>《対象別公衆衛生看護活動論》 1-A-a. b. c.、B-a. b. c. d. e. f.、C-a. b. c. d. e.、D-a. b. c. d. e. f</p> <p>【助産師】《地域母子保健》</p> <p>I-1-A-ab, B-abcd</p> <p>I-2-A-abcdefghi, B-abcde</p> <p>II-3-A-abc, B-abcd, C-abcdef, D-abcdefg h i j k</p>

履修条件・履修上の注意	保健師・助産師課程履修希望者は、履修すること。学習時間の目安：1コマあたり1時間
-------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	選択
担当教員			
廣田 幸子			
一場美根子			

授業形態	講義（オムニバス方式）28コマ及び演習2コマ		
授業計画	第1回	成人高齢者施策1 我が国の成人高齢者の健康問題と対策（講義：廣田）	
	第2回	成人高齢者施策2 健康増進対策（講義：廣田）	
	第3回	成人高齢者施策3 生活習慣病対策（講義：廣田）	
	第4回	成人保健活動1 メタボリックシンドローム・生活習慣病の保健指導、特定健康診査・特定保健指導（講義：廣田）	
	第5回	成人保健活動2 栄養・食生活、身体活動・運動、休養・睡眠の保健指導（講義：廣田）	
	第6回	成人保健活動3 たばこ・アルコールの保健指導、がん対策（講義：廣田）	
	第7回	成人保健活動4 自殺予防・こころの健康の保健指導（講義：廣田）	
	第8回	成人保健活動5 口腔・歯科保健指導（講義：廣田）	
	第9回	成人保健指導計画立案1 個別事例による成人を対象とした保健指導計画の立案（演習：廣田）	
	第10回	成人保健指導計画立案2 保健指導計画の振り返り（演習：廣田）	
	第11回	成人高齢者施策4 要支援・要介護者、介護予防対策（講義：廣田）	
	第12回	成人高齢者施策5 地域包括ケアシステム（講義：廣田）	
	第13回	高齢者保健活動1 認知症高齢者の支援、ターミナルケア（講義：廣田）	
	第14回	高齢者保健活動2 高齢者の虐待（講義：廣田）	
	第15回	感染症対策1 我が国の感染症対策の動向：感染症の予防及び感染症の患者に対する法律（講義：廣田）	
	第16回	感染症対策2 麻疹・インフルエンザ対策、H I V感染症/エイズ/性感染症対策と保健活動（講義：廣田）	
	第17回	感染症対策3 食中毒対策と保健活動（腸管出血性大腸炎、ノロウイルス等）（講義：廣田）	
	第18回	感染症対策4 結核対策（講義：一場）	
	第19回	感染症対策5 結核対策の保健活動（講義：一場）	
	第20回	障害児（者）保健1 障害児（者）対策：障害者総合支援法（講義：一場）	
	第21回	障害児（者）保健2 障害児（者）対策と保健活動（講義：一場）	
	第22回	難病対策1 我が国の難病対策（講義：一場）	
	第23回	難病対策2 難病対策の保健活動（講義：一場）	
	第24回	精神保健福祉活動1 (1)精神看護学で学んだ疾患・特徴・看護や法律について再確認をしましょう。（グループワークと講義：一場） (2)ライフサイクルから見た精神保健、こころの病気（講義：一場）	

	<p>第25回 精神保健福祉活動1 (3) 社会病理を背景とするおもな疾患 (講義：一場)</p> <p>第26回 精神保健福祉活動2 地域精神保健福祉活動を行う行政と保健師の役割 (講義：一場)</p> <p>第27回 精神保健福祉活動3 地域精神保健福祉活動の実際(1)～個別支援を中心に～ (1) 精神保健福祉相談と家庭訪問指導 (講義：一場)</p> <p>第28回 精神保健福祉活動3 地域精神保健福祉活動の実際(1)～個別支援を中心に～ (2) 事例 (入院患者の情報把握と退院支援) を通して、地域保健福祉活動に必要な基礎知識を理解し、地域での活動を考えましょう。(グループワークと講義：一場)</p> <p>第29回 精神保健福祉活動3 地域精神保健福祉活動の実際(1)～個別支援を中心に～ (2) 事例 (入院患者の情報把握と退院支援) を通して、地域保健福祉活動に必要な基礎知識を理解し、地域での活動を考えましょう。(グループワークと講義：一場)</p> <p>第30回 精神保健福祉活動4 地域精神保健福祉活動の実際(2)～地域での支援を中心に～ ・精神障害者の実態、医療費分析、地域の社会資源や情報から施策化 (小規模作業所設立) に至る活動の実際 (講義：一場)</p>
科目の目的	公衆衛生看護活動の対象となる成人保健、高齢者保健、精神保健、障害者保健、難病対策、感染症対策についてその理念と特質を学び、保健指導の実践の基礎となる知識を習得する。またそれぞれの領域において現代の地域社会が抱える課題について考え、地域における健康管理体制について学ぶ。【知識・理解】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>生活習慣病、高齢者、精神疾患、感染症、難病、障害者 (児) に関する保健活動の理念と目的が理解できる。</li> <li>対象者が抱える問題と支援の展開方法がわかる。</li> <li>同領域における我が国の保健管理システムとその遂行に関わる保健師の役割が理解できる。</li> </ol>
関連科目	免疫・感染症学、発達心理学、公衆衛生学、疫学、社会福祉・社会保障制度論、地域保健行政、栄養学、歯科保健、成人看護学総論、成人看護学Ⅰ～Ⅴ、老年看護学総論、老年看護学Ⅰ～Ⅱ、精神看護学総論、精神看護学Ⅰ～Ⅱ、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学Ⅰ～Ⅲ
成績評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験90% (定期試験を100%とした場合の各領域の点数配分；成人保健30%、高齢者保健15%、感染症保健20%、障害者保健/難病対策15%、精神保健20%)</li> <li>演習課題10%</li> </ul>
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の講義内容について教科書及び国民衛生の動向を事前に読み、不明点を明らかにしておくこと。また教科書に記述のある疾患に関する病態生理、疾患の発生病序等について復習しておくこと。(約45分)
教科書・参考書	教科書「標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動」(医学書院) 教科書「国民衛生の動向2017/2018」(厚生統計協会)
オフィス・アワー	廣田 幸子 講義時間の前後、昼休み 一場美根子 講義時間の前後 (場所：公衆衛生看護学教員研究室)
国家試験出題基準	<p>【保健師】</p> <p>《対象別公衆衛生看護活動論》</p> <p>2-A-a. b. c.、B-a. b. c. d. e. f. g.、3-A-a. b.、B-a. b. c. d. e. f. g. h. i.、4-A-a. b. c.、B-a. b. c. d. e. f. g. h. i.、C-a. b. c. d. e. f. g. h. i.、5-A-a. b. c. d.、B-a. b. c. d. e. f. g. h. i. j. k.、6-A-a. b.、B-a. b. c. d. e. f. g. h. i. j.、7-A-a. b. c. d.、B-a. b. c. d. e. f.、C-a. b. c. d. e. f.、D-a. b. c.、8-A-a. b. c.、B-a. b. c. d</p> <p>《健康危機管理》</p> <p>6-A-a. b. c.、B-a. b. c.、C-a. b</p>
履修条件・履修上の注意	保健師課程履修希望者は履修すること。 Active Academyにより資料を事前配付するので、授業に持参すること。

講義科目名称：公衆衛生看護管理学

授業コード：2N106

英文科目名称：Public Health Nursing Administration

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
担当教員			
矢島 正栄			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 公衆衛生看護管理の基本 公衆衛生看護管理の意義、公衆衛生看護管理の特色、公衆衛生看護管理の諸相</p> <p>第2回 情報管理 健康関連情報の収集・管理・発信、個人情報取り扱い、情報公開、地域における情報ネットワークの構築</p> <p>第3回 組織運営・管理 組織の目的、組織運営の基本、地方自治体における組織の仕組み・権限・意思決定と指示系統、事業の計画と運営、施策化のプロセス</p> <p>第4回 予算管理 国および地方自治体における予算の仕組みと保健衛生関係予算の実際、予算の確保と執行</p> <p>第5回 人事管理・人材育成、地域ケアの質保証 人事管理の目的、人員確保・適材配置・労務管理の実際、人事評価、人材育成方針、現任教育の計画と方法の実際 地域情報の管理、サービス提供機関のアセスメント、関係者との連携・協働、社会資源の開発</p> <p>第6回 地域ケアシステムづくり、地域における健康危機管理 地域ケアシステムとは、地域ケアシステムの発展過程と保健師の役割 健康危機管理とは、健康危機管理の体制と保健師の活動</p> <p>第7回 地域における健康危機管理 健康危機管理の実際</p> <p>第8回 地域における健康危機管理 健康危機管理の実際</p>
科目の目的	人々が健康で暮らしやすい地域をつくるための公衆衛生看護管理の意義と実際について理解を深める。【知識・理解】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生看護管理の意義と特色を説明できる。</li> <li>2. 公衆衛生看護管理における情報管理、組織管理、事業・業務管理、予算管理、人事管理の基本的考え方と方法を説明できる。</li> <li>3. 地域ケアの質保証、地域における健康危機管理、地域ケアシステムづくりの意義、目的、保健師の役割を説明できる。</li> </ol>
関連科目	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学Ⅱ、地域保健行政、社会福祉・社会保障制度論
成績評価方法・基準	定期試験80%、レポート20%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の講義に臨む前にテキスト、配付資料を精読しておいてください。1コマにつき4時間程度の準備学習を求めます。
教科書・参考書	<p>教科書 「標準保健学講座1 公衆衛生看護学概論」(医学書院)</p> <p>参考書 なし</p>
オフィス・アワー	月～金 16:30～18:00
国家試験出題基準	<p>保健師国家試験出題基準          ≪公衆衛生看護管理論≫ 1-A, B, C, D, E, F 2-A, B, C          ≪健康危機管理≫ 1-A, B, C</p>
履修条件・履修上の注意	Active Academyにより資料を事前配付しますので、授業に持参してください。保健師課程選択者は履修してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
担当教員			
早川 有子			
荒木 重雄			

授業形態	講義 8回
授業計画	<p>第1・2回 助産の概念 助産師の職制と業務（早川）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助産の概念：助産の起源 出産の変遷 助産の定義など</li> <li>・助産師の定義 助産師の業務</li> <li>・助産・助産師の定義：ICMに規定される助産の基本概念 ICMの活動 WHO</li> <li>・助産師の役割と責務：助産の意義 助産師の職業倫理 ICM WHO</li> <li>・助産における基本的な概念</li> <li>・地域のさまざまな場における助産師の役割</li> </ul> <p>第3回 助産師と倫理 性・生殖と人権と倫理（早川）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助産師と生命倫理 助産師と職業倫理</li> <li>・性と生殖における倫理 女性の意思決定と擁護</li> <li>・母体保護 出生前診断など</li> </ul> <p>第4回 助産の歴史と文化（早川）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助産の変遷（出産の変遷）</li> <li>・助産師の変遷（わが国及び世界）</li> <li>・助産師の法的変遷</li> </ul> <p>第5回 母子保健の動向（早川）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母子保健の歴史</li> <li>・母子保健の動向と諸制度</li> <li>・母子保健活動における連携・協働</li> </ul> <p>第6回 助産師と教育（早川）</p> <p>我が国における助産師教育の歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・諸外国における助産師教育</li> </ul> <p>第7回 助産の将来（早川）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助産師の役割（業務・責務）とこれからの展望</li> <li>・助産の将来</li> <li>・全体討議（1～7の講義を通して）</li> </ul> <p>第8回 欧米の助産師 特別講義（荒木）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・欧米の助産師から学ぶ。</li> </ul>
科目の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助産師の役割・責務および助産師に求められる知識と社会人としての教養（姿勢・態度も含む）について学ぶ。</li> <li>・専門助産師として自立できる能力及び他の職種（医師等）とパートナーを持って連携できる能力を養う。</li> <li>・生涯にわたる看護の探究の基とする。【知識・理解】</li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助産師の役割・責務について説明できる。</li> <li>・母子並びに家族の尊厳と権利の尊重を理解し、助産師としての職業倫理について説明できる。</li> <li>・国際的視野の感覚を持てる助産師を目指す。</li> </ul>
関連科目	専門科目群：母性看護学総論
成績評価方法・基準	定期試験（100%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容：母性看護学に関する既習講義内容の復習をして臨むこと。 準備学習時間の目安：3時間45分
教科書・参考書	教科書：助産学概論（医学書院） 参考書：世界の出産（勉誠出版）新版助産業務要覧（日本看護協会）
オフィス・アワー	早川（講義前後） 荒木（講義前後）
国家試験出題基準	《基礎助産学》 I-1-A. B. I-2-C. I-3-A. B. I-4-A. B.
履修条件・履修上の注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする。Active Academy により資料を事前配布する、各自印刷して授業に持参すること

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
担当教員			
早川 有子			
竹中 恒久	牛島 廣治		

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 遺伝と遺伝性疾患（竹中）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遺伝医学の重要性</li> <li>・ 染色体：染色体と遺伝子 遺伝の法則 常染色体異常 性染色体異常</li> <li>・ 遺伝子：遺伝子疾患</li> <li>・ 遺伝性疾患の分類</li> <li>・ 出生前診断</li> </ul> <p>第2回 母子と薬剤（竹中）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 性と生殖に関する薬物</li> <li>思春期 成熟期 更年期と薬物：経口避妊薬 排卵誘発剤など</li> <li>妊娠、分娩、産褥、授乳期と薬物：</li> <li>陣痛促進剤 子宮収縮剤 緊急避妊薬 薬物の催奇形性 薬物の母乳移行など</li> </ul> <p>第3回 母子の健康に影響を及ぼす因子 母子と感染（竹中）</p> <p>母子と生活環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 物理的要因：放射線 騒音など</li> <li>・ 化学的要因：大気汚染 環境汚染物質と環境など</li> <li>・ 母子と嗜好品・薬物：たばこ アルコール 依存性薬物など</li> </ul> <p>母子と感染：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 母子感染の重要性</li> <li>・ 母子感染の機序</li> <li>・ 母子感染総論</li> <li>・ 母子感染各論：</li> </ul> <p>ヒトパルボウイルスB19 C型肝炎ウイルス ヒト免疫不全ウイルス（HIV） 成人T細胞白血病ウイルス トキソプラズマ 梅毒トレポネーマ ヒトパピローマウイルス 風疹 梅毒など</p> <p>第4回 母子と感染（牛島）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乳幼児に起こりやすい疾患（感染症）：</li> <li>麻疹 水痘 突発性発疹 手足口病 カンジダ症 RSウイルス感染症</li> <li>伝染性膿痂疹 乳幼児下痢症（ロタウイルス ノロウイルス）</li> </ul> <p>第5回 母子と免疫（牛島）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 免疫とは</li> <li>・ 母体の免疫学的特徴 ・ 胎児の免疫学的特徴 ・ 新生児の免疫学的特徴</li> <li>・ 免疫と母乳栄養 免疫と予防接種など</li> <li>・ 妊娠の維持機構と免疫 ・ 臓器の成熟と器官形成（免疫系）</li> <li>・ 免疫能の特性</li> <li>・ 低出生体重児の特徴：免疫</li> </ul> <p>第6・7回 母子と栄養（早川）</p> <p>母子の健康と食生活：妊娠期・授乳期の栄養と食生活 栄養に関する基礎知識 妊婦の栄養：妊婦の栄養と食生活 母体の栄養と胎児の発育 妊産婦の食生活指針 授乳婦の栄養： 乳幼児の栄養： 学童・思春期の子どもの栄養： 母子の健康に影響を及ぼす因子：栄養所要量 母体栄養と妊娠合併症：妊娠高血圧症候群など</p> <p>第8回 母子への援助・予防（早川）</p> <p>遺伝・感染・免疫・薬剤・栄養に関する母子の予防と援助 1～5の学びを通してGW 発表</p>
科目の目的	遺伝・感染・免疫・薬剤・栄養の学びを通して、母子の健康に影響を及ぼす因子について学ぶ。 【知識・理解】
到達目標	遺伝・感染・免疫・薬剤・栄養の視点から母子の健康が説明できる。
関連科目	専門基礎科目：生理学 解剖学Ⅱ 免疫・感染症学 薬理学 臨床薬理学 栄養学 健康管理論
成績評価方法・基準	定期試験（100％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容：母性看護、助産ケアに関連ある既習科目の予習をして講義に臨むこと。 準備学習時間の目安：3時間45分
教科書・参考書	教科書：基礎助産学Ⅱ（基礎医学）医学書院 参考書：必要時提示
オフィス・アワー	講義開講日：講義前後 放課後 非常勤講師：講義前後
国家試験出題基準	《基礎助産学Ⅰ》－Ⅱ-7-A, B, C, Ⅱ-8-A Ⅱ-9-A, B, Ⅱ-10-A, B, C, D, E. 《基礎助産学Ⅱ》－Ⅰ-2 Ⅰ-4, Ⅰ-5-A, B, Ⅰ-10-D. －Ⅱ-16-G, Ⅱ-20-B, Ⅱ-21-A

履修条件・履修上の注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする。
-------------	--------------------

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
担当教員			
中島久美子			
岡崎 友香	石坂 泰子		

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 女性のライフサイクルにおける性と生殖に関する健康問題と援助：思春期・青年期女性への援助（中島） ・月経前緊張症、望まない妊娠と中絶、STD：ピアエデュケーションの役割と実践に向けての説明</p> <p>第2回 女性のライフサイクルにおける性と生殖に関する健康問題と援助：成人期女性への援助（妊娠・出産をめぐる問題1）（岡崎） ・不妊症、不妊治療患者の心理、不妊治療と治療後妊娠における諸問題と助産ケア</p> <p>第3回 女性のライフサイクルにおける性と生殖に関する健康問題と援助：成人期女性への援助（妊娠・出産をめぐる問題2）（石坂） ・出生前診断をめぐる問題、出生前診断を考える女性の意思決定へのケア、 ・流産・死産の悲嘆反応、子どもを亡くした親へのケア（親子をめぐる問題） ・障害のある子どもを育てる親へのケア（親子をめぐる問題）</p> <p>第4回 女性のライフサイクルにおける性と生殖に関する健康問題と援助：思春期・青年期女性への援助（2）（中島） ピアエデュケーションを用いた性教育と母性看護の支援に関する演習：準備</p> <p>第5回 親-子をめぐらる問題：母子関係（1）：正常な経過からの逸脱・ハイリスク状態にある妊産褥婦のアセスメントと援助（中島） ・アタッチメント理論・周産期の母親のメンタルヘルスと母子関係・愛着障害・児童虐待、 ・産前・産後うつ病、産後うつ病が子どもの心身の発達に与える影響</p> <p>第6回 親-子をめぐらる問題：母子関係（2）：正常な経過からの逸脱・ハイリスク状態にある妊産褥婦のアセスメントと援助（中島） ・若年妊産婦・高年妊産婦・未婚女性・外国人妊産婦・多胎児を育てる親・低出生体重児の親</p> <p>第7回 親-子をめぐらる問題：父子関係（中島） ・父親の育児、子育てにおける父親の抑うつ</p> <p>第8回 家族と社会 父母と社会、子どもと社会（中島） ・家族とは、近代家族の特徴、家族をめぐる諸問題、夫婦関係と夫婦の関係性への支援 ・家族と法（児童虐待防止法、DV防止法） ・母親と社会、父親と社会 ・現代の家族支援への道のり、日本の子育て支援、世界の子育て支援</p>
科目の目的	女性のライフサイクル各期における心理社会的問題や、親子関係、家族・父母・子どもと社会をめぐる問題について理解し、助産師として必要とされる考え方、支援について学ぶ。 【知識・理解】
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思春期・青年期女性の健康問題として、望まない妊娠と中絶等を理解し、必要な助産援助を学ぶことができる。（ピアエデュケーターとしての役割を含む）</li> <li>・成人期女性の健康問題として、不妊・流早産・死産等を理解し、必要な助産援助を学ぶことができる。</li> <li>・親子関係（母子関係、父子関係）の問題について、虐待障害や産後うつ等を理解し、子育て支援について学ぶことができる。</li> <li>・家族と社会をめぐる問題について理解し、子育て支援について学ぶことができる。</li> </ul>
関連科目	母性看護学総論、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱ、基礎助産学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅰ（医学的診断と周産期ハイリスクへの処置）
成績評価方法・基準	定期試験（50％）、課題提出（30％）、演習（20％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習内容：母性看護学総論、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱの復習 準備学習の目安：3時間45分
教科書・参考書	教科書：「助産学講座4、基礎助産学[4]、母子の心理・社会学」村瀬聡美・我部山キヨ子（医学書院） 参考書：「助産師基礎教育テキスト第7巻ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」遠藤俊子（日本看護協会出版会）
オフィス・アワー	講義開講日の昼休み（専任教員） 講義開講前後の休憩時間（非常勤講師）
国家試験出題基準	【助産師】 《基礎助産学Ⅰ》Ⅱ-2-d, e Ⅲ-10-c 《助産診断・技術学Ⅰ》Ⅲ-7 《助産診断・技術学Ⅱ》Ⅷ-21, 22
履修条件・履修上の注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする。

講義科目名称：基礎助産学Ⅳ（助産学研究）

授業コード：2N110

英文科目名称：Basic Midwifery IV

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4学年	2単位	選択
担当教員			
早川 有子			
中島久美子	臼井 淳美		

授業形態	演習
授業計画	<p>第1・2回 オリエンテーション 研究とは（早川他） ・研究と助産学生（論文のクリティーク：卒業生の論文 学術論文） ・助産学を支える理論と研究 助産学を構成する理論 研究と助産師</p> <p>第3・4回 文献検索（早川他） 助産学研究のテーマ設定と発表</p> <p>第5-16回 研究計画書の作成（倫理含む）（早川他） 研究計画書についての発表・討議 各実習施設にて、約5例の受け持ち事例を通して学ぶ。 例 会陰裂傷を防ぐためには 母乳栄養への援助など</p> <p>第17-30回 研究実施 論文まとめ 発表（早川他） 各実習施設ごとに計画書にそって研究を実施する。 * 助産実習がスタートする前、研究計画書はほぼ完成していることが条件となる。</p>
科目の目的	助産学における研究課題を学生自ら主体的に探究することを通して、総合的な理解を養う。 学生自身が講義・演習・実習を通して興味を持ったテーマを選定し、理論に基づき、教員の指導のもとで研究を計画・実施し、さらに、その成果を発表・論文化する。
到達目標	各施設の指導教員のもと、自分の選定したテーマに従い研究計画書をたて、実施、その成果について論文を作成、発表する。
関連科目	既習の科目全て関連する。
成績評価方法・基準	研究計画書作成（30%） 実施・論文まとめ（60%） 論文発表（10%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容：取り組みたいテーマについての文献検索、研究計画書の書き方を学習し講義演習に臨むこと。 準備学習時間の目安：1時間
教科書・参考書	教科書：基礎助産学Ⅰ「助産学研究」医学書院 参考書：看護研究step by step 黒田裕子 医学書院 パソコンで進める やさしい看護研究 富田真佐子 ohmsha社 看護研究入門・実施・評価・活用：ナンシー・バーンズ他 エルゼビア・ジャパン
オフィス・アワー	講義開講日：講義前後 放課後 各研究担当者と相談
国家試験出題基準	基礎助産学Ⅰ I-1-B, C, D
履修条件・履修上の注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
担当教員			
横田 佳昌			
家坂 直子			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1・2回 妊娠期の異常・ハイリスク（家坂）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠期の異常：妊娠疾患：妊娠悪阻 妊娠高血圧症候群</li> <li>・妊娠持続期間異常：流産 早産 過期妊娠など</li> <li>・着床異常：異所性妊娠 前置胎盤 低位胎盤 低置胎盤など</li> <li>・胎児異常妊娠：胎児発育不全 血液型不適合妊娠 多胎妊娠など</li> <li>・胎児付属物異常妊娠：絨毛膜羊膜炎 常位胎盤早期剥離 など</li> </ul> <p>ハイリスク妊娠</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・偶発性合併妊娠：心疾患合併妊娠 呼吸器疾患合併妊娠 糖尿病合併妊娠など</li> </ul> <p>第3・4回 分娩期の異常・偶発疾患 産科手術および産科医療処置（家坂）</p> <p>分娩の3要素の異常</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・娩出力の異常：過強陣痛 微弱陣痛</li> <li>・産道の異常：軟産道強靱 狭骨盤</li> <li>・胎児の異常：回旋・進入の異常 巨大児など</li> <li>・胎児付属物の異常：絨毛膜羊膜炎 臍帯巻絡 臍帯下垂・脱出 常位胎盤早期剥離 前置胎盤など</li> <li>・分娩経過の異常：肩甲難産 子宮内反症 など</li> <li>・軟産道損傷：陰・会陰裂傷 頸管裂傷 子宮破裂など</li> <li>・出血量の異常：弛緩出血など</li> <li>・産科ショック：出血性ショック 羊水塞栓 DIC など</li> <li>・産科手術および産科医療処置：骨盤位牽出術 吸引遂娩術 鉗子遂娩術 無痛分娩（硬膜外麻酔）帝王切開術 分娩誘発・促進時の管理</li> <li>・緊急事態の予測と予期的対応</li> </ul> <p>第5回 産褥期の異常・偶発疾患（家坂）</p> <p>性器の異常：子宮復古不全 晩期産褥出血など・産褥器感染症：産褥熱 尿路感染症</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・血栓・塞栓症：深部静脈血栓 肺塞栓症</li> <li>・乳房・乳頭・乳腺異常：乳腺炎など</li> <li>・産褥期精神障害：マタニィブルー 産後うつ病 など</li> <li>・産後後遺症：妊娠高血圧症候群後遺症</li> </ul> <p>第6回 妊娠期の助産診断に必要な検査法 臨床検査 母体・胎児の健康診査に必要な検査（横田）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠期の検査：妊娠診断薬 胎児胎盤機能検査 胎児血採血</li> </ul> <p>第7回 NICUとハイリスク新生児（家坂）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早産児・低出生体重児のケア</li> <li>・ハイリスク児の主要な病態とケア：呼吸障害 チアノーゼ おう吐 新生児痙攣 病的黄疸 感染症など</li> </ul> <p>第8回 合併症がある妊・産・褥婦（家坂）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>心疾患 腎疾患 甲状腺疾患 糖尿病 子宮筋腫</li> </ul>
科目の目的	妊娠・分娩・産褥・新生児の正常・異常を助産診断し、助産ケアに生かすことができる能力を養う。 【知識・理解】
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠・分娩・産褥・新生児期の正常・異常を診断できる。</li> <li>・妊娠・分娩・産褥・新生児期の正常・異常を助産師の立場から判断し、ケアに結び付けて考えられる。</li> <li>・緊急事態に対応できる能力を養う。</li> </ul>
関連科目	母性看護学 I II 助産診断技術学演習
成績評価方法・基準	定期試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容：既習で学んだ母性看護、助産師ケアの復習をして講義に臨むこと。 準備学習時間の目安：3時間45分
教科書・参考書	教科書：助産診断技術学Ⅱ（1 2 3）医学書院 参考書：産婦人科診療ガイドライン（産科編2014）日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会
オフィス・アワー	横田：講義前後 家坂：講義前後
国家試験出題基準	《基礎助産学Ⅱ》Ⅱ-16-A. B. C. E. F. Ⅱ-17-A. B. C. D. E. F. G. H. Ⅱ-18-A. B. C. D. E. F. Ⅱ-19-A. B. Ⅱ-20-A. B. C. D. Ⅱ-22-A. B.
履修条件・履修上の注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
担当教員			
臼井 淳美			
中島久美子			

授業形態	講義（一部グループワークを含む）
授業計画	<p>第1回 妊娠期の経過と診断（臼井） （グループワーク） 妊娠の成立・維持 妊娠経過の診断（正常・異常を含む） ・妊娠による母体の変化 胎児の発育・健康状態の診断</p> <p>第2回 妊娠期の助産診断と正常妊娠経過にある妊婦への援助①（臼井） 妊娠期の助産診断の特徴 妊娠前期の助産診断とケア（グループワーク） ・妊婦健康診査における妊娠経過の診断とケア ・妊婦の健康生活の診断とケア ・妊娠期のフィジカルアセスメント ・社会的側面の診断とケア ・紙上事例の助産診断</p> <p>第3回 妊娠期の助産診断と正常妊娠経過にある妊婦への援助②（臼井） 妊娠中期の助産診断とケア（グループワーク） ・妊婦健康診査における妊娠経過の診断とケア ・妊婦の健康生活の診断とケア ・妊娠期のフィジカルアセスメント ・社会的側面の診断とケア ・紙上事例の助産診断</p> <p>第4回 妊娠期の助産診断と正常妊娠経過にある妊婦への援助③（臼井） 妊娠後期の助産診断とケア（グループワーク） ・妊婦健康診査における妊娠経過の診断とケア ・妊婦の健康生活の診断とケア ・妊娠期のフィジカルアセスメント ・社会的側面の診断とケア ・紙上事例の助産診断</p> <p>第5回 妊娠期の心理（中島） 妊娠前期・中期・末期における心理 ・妊娠期における心理の変化 ・親役割準備への支援 ・家族の役割の変化に対する支援</p> <p>第6回 保健指導の技術（臼井） 個別相談、集団指導の基本 個人への保健指導 ・マイナートラブルなどへの支援、バースプランの作成への支援など 集団への保健指導 ・出産前準備教室などの集団指導の実際 保健指導案の立案（紙上事例・グループワーク）</p> <p>第7・8回 正常な妊娠経過からの逸脱およびハイリスク妊婦へのアセスメントと援助（臼井） 身体的・心理社会的ハイリスク因子のアセスメント 異常妊娠・ハイリスク妊婦とその家族へのケア ・切迫流産、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、多胎妊娠などを合併している妊婦への助産ケア ・異常出血に対する処置への対応 ・合併症妊娠（心疾患・精神疾患など）に関連する助産ケア 助産師による妊婦のリスク診断</p>
科目の目的	妊娠経過の正常・異常の診断について学び、安定した妊娠期の生活ができるための支援とハイリスク妊婦時のケアおよび支援について学ぶ。【思考・判断】
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正常経過にある母体の妊娠による変化と胎児の成長・発育について説明できる。</li> <li>・妊娠各期における妊婦および胎児の助産診断と、その診断に基づくケアについて説明できる。</li> <li>・ハイリスク妊婦や正常を逸脱した妊婦およびその家族に必要なケアを考察できる。</li> </ul>
関連科目	専門科目群：母性看護学総論、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱ、公衆衛生看護学Ⅲ、基礎助産学Ⅱ、基礎助産学Ⅲ、助産診断技術学Ⅰ、助産診断技術学Ⅵ
成績評価方法・基準	定期試験（80％）、課題提出（20％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母性看護に関する既習の講義内容、公衆衛生看護学Ⅲの講義内容を復習しておくこと</li> <li>・【準備学習に必要な時間の目安】各講義につき3時間45分の授業時間外における学習（予習・復習など自己学習）が必要となる。</li> </ul>
教科書・参考書	<p>教科書：「助産学講座6、助産診断・技術学Ⅱ、〔1〕妊娠期」我部山キヨ子・武谷雄二（医学書院） 「助産学講座5、助産診断・技術学Ⅰ」堀内成子（医学書院）</p> <p>参考書：「助産師基礎教育テキスト 2017年版 第4巻 妊娠期の診断とケア」森恵美（日本看護協会出版会） 「最新産科学 正常編 改訂第22版」，荒木勤（文光堂）</p>

	「今日の助産 改訂第3版」，北川眞理子・内山和美（南江堂） その他、講義内で紹介する。
オフィス・アワー	臼井淳美（研究室320）：講義前後、講義開講日の放課後 中島久美子（研究室318）：講義前後
国家試験出題基準	【助産師】 ≪基礎助産学Ⅱ≫-Ⅰ-1-A, B、Ⅰ-2-A, B、Ⅰ-3-B、Ⅰ-4-A, B、Ⅰ-5-A, B, C, D ≪助産診断・技術学Ⅰ≫Ⅰ-1-A, B, C, D ≪助産診断・技術学Ⅱ≫Ⅰ-2-A、Ⅱ-3-A, B, C, D, E、Ⅱ-4-A, B, C ≪地域母子保健≫Ⅲ-4-B
履修条件・履修上の注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	2単位	選択
担当教員			
中島久美子			
臼井 淳美			

授業形態	講義8回、演習7回		
授業計画	第1回	助産診断・技術学の概要（中島） ・助産過程の概要、助産診断学の概要、助産技術学の概要 ・助産診断学・助産技術学の理論構築（教科書「1妊娠期」）	
	第2回	分娩の基礎、正常分娩、分娩が母体・胎児に与える影響、分娩期の心理社会的変化、健診に必要な検査の基礎知識（中島） ・分娩の定義と種類、分娩の3要素、正常な分娩経過、分娩機序、 ・分娩による母体への影響、胎児への影響 ・分娩期の心理社会的特徴 ・検体検査に必要な知識	
	第3・4回	分娩期の助産診断 分娩期のフィジカルアセスメント（中島） ・分娩進行状態の診断：分娩開始の予知・分娩開始・破水・分娩経過の診断、 ・産婦及び胎児の健康状態の診断、産婦の心理社会的側面の診断、出生直後の新生児の診断	
	第5・6回	正常経過にある産婦への援助（中島） ・援助の基本、分娩進行に伴う助産ケア（第1期、第2,3期、分娩後2時間まで）、 ・分娩経過に伴う産婦と家族の心理社会的側面のケア ・主体的出産への支援、産婦の分娩想起と出産体験理解への支援 ・出生直後の母子接触・早期授乳支援	
	第7・8回	正常な分娩経過からの逸脱及びハイリスク状態にある産婦のアセスメントと援助（中島） ・身体的ハイリスク因子のアセスメント、心理的ハイリスク因子のアセスメント、 ・援助の基本、正常分娩急変時の対応、分娩中・産褥期に搬送すべき症状を呈する母体の疾患 ・バルサルバ法、クリステレル圧出法の影響・吸引分娩、鉗子分娩の適応・羊水混濁時・肩甲難産時の対応 ・異常出血時の対応・分娩誘発・促進時のケア	
	第9-11回	助産過程の展開（紙上事例）（中島・臼井） （妊娠期）正常妊婦の助産診断 （分娩期）正常分娩の助産診断 （産褥期）正常産婦の助産診断 （新生児）正常新生児の助産診断	
	第12-15回	ハイリスク状態・異常への支援（紙上事例）（中島・臼井） （妊娠期の異常）ハイリスク妊婦・異常妊婦の助産診断（PIH, PROM, 切迫早産） （分娩期の異常）ハイリスク分娩・異常分娩の助産診断（異常出血の処置・帝王切開前後のケア） （産褥期・新生児の異常）ハイリスク産婦（メンタルヘルス）・新生児の助産診断（低出生体重児、帝切分娩児のケア）	
科目の目的	分娩期における女性と新生児の身体的・心理的・社会的状態について、EBMをふまえた基礎的助産診断・技術を養う。 ハイリスク状態にある産婦の分娩経過から予防的ケアと異常の早期発見・対処ができる能力を養う。 【思考・判断】		
到達目標	分娩の生理と産婦の身体的・心理社会的変化を理解できる。 正常な分娩経過をアセスメントし、助産ケアの実践に繋げることができる。 妊娠・分娩・産褥・新生児の助産過程を展開できる（紙上事例）。 ハイリスク状態にある産婦の分娩経過をアセスメントし、予防的ケアと異常の早期発見・対処が理解できる。		
関連科目	母性看護学Ⅰ、Ⅱ、基礎助産学Ⅱ、基礎助産学Ⅲ、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱ、助産診断・技術学Ⅲ、助産診断・技術学Ⅳ、助産診断・技術学Ⅴ		
成績評価方法・基準	定期試験（50％）・課題提出（50％）		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	基礎助産学及び助産診断・技術学の予習・復習。 準備学習時間の目安：2時間		
教科書・参考書	教科書：「助産学講座6、助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期」我部山キヨ子・武谷雄二（医学書院） 「助産学講座7、助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期」我部山キヨ子・武谷雄二（医学書院） 参考書：「助産師基礎教育テキスト7、ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」遠藤俊子（日本看護協会出版会）		
オフィス・アワー	中島：講義開講日の昼休み 臼井：講義前後の休み時間		
国家試験出題基準	【助産師】 《基礎助産学Ⅱ》Ⅰ-6 《助産診断技術学Ⅱ》Ⅰ-1, Ⅰ-2-B, Ⅳ-8, 9, 10		
履修条件・履修上の注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
担当教員			
臼井 淳美			

授業形態	講義（一部グループワークを含む）
授業計画	<p>第1回 産褥期の経過と診断（グループワーク） 産褥経過の診断（正常・異常を含む） 産褥復古の機序と経過</p> <p>第2回 産褥期の助産診断と正常経過にある褥婦とその家族への援助① 褥婦の健康生活の助産診断 日常生活への適応および退行性変化促進のケア ・栄養、排泄、睡眠・休息、活動、清潔などへのケア 産褥復古が阻害されるか否かの予測と予防的ケア</p> <p>第3回 産褥期の助産診断と正常経過にある褥婦とその家族への援助② 産褥期の心理社会的変化 褥婦の心理社会的側面の診断とケア ・出産体験の受容 ・親役割の獲得、家族の役割獲得と家族関係 愛着形成および親役割の獲得 ・育児能力の診断</p> <p>第4・5回 母乳育児支援 乳汁分泌機序と経過 母乳育児に関する診断 母乳育児へのケア ・母乳育児支援とその実際（母乳育児を行えない/行わない母親への支援を含む。 また、事例を通して、母乳育児支援の実際について考える。）</p> <p>第6回 産褥期の助産診断と正常経過にある褥婦とその家族への援助③ 日常生活への適応および退行性変化促進のケア 不快症状緩和へのケア 褥婦のセルフケア能力を高めるための支援 （指導案の作成を通して、褥婦に必要なケアを考える） ・育児に必要な基本的技術への支援 ・家族計画指導 ・母子の一ヶ月健診までの生活への支援 ・社会資源の活用への支援（産後ケア事業）</p> <p>第7・8回 正常な産褥経過からの逸脱およびハイリスク状態にある褥婦のアセスメントと援助 身体的・心理社会的ハイリスク因子のアセスメント ハイリスク褥婦や正常を逸脱した褥婦とその家族へのケア ・産褥期の異常と合併症の予防 子宮復古不全、産褥期に起こる感染症、血栓性静脈炎、妊娠高血圧症候群後遺症、妊娠糖尿病、 母子感染症など、身体的に正常を逸脱している褥婦およびその家族への援助 腹式帝王切開術後の援助</p>
科目の目的	産褥期の正常・異常の診断および援助・保健指導ができるための知識（母乳育児支援・乳房ケアなど）・技術・態度について学ぶ。これらの技術が母親にとって、自立につながるよう支援できるための能力を養う。また、異常な経過を伴うハイリスク褥婦のケアに対応できる能力を養う。【思考・判断】
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正常経過にある褥婦の助産診断が説明できる。</li> <li>・褥婦および、その家族への援助に必要な技術を説明できる。</li> <li>・正常経過にある褥婦に対し、必要な保健指導を説明できる。</li> <li>・ハイリスク褥婦や正常を逸脱した褥婦およびその家族に必要な援助を考察できる。</li> </ul>
関連科目	専門科目群：母性看護学総論、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱ、公衆衛生看護学Ⅲ、基礎助産学Ⅱ、基礎助産学Ⅲ、助産診断技術学Ⅰ、助産診断技術学Ⅵ
成績評価方法・基準	定期試験（90％）、課題提出（10％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母性看護に関する既習の講義内容、公衆衛生看護学Ⅲの講義内容を復習しておくこと。</li> <li>・【準備学習に必要な時間の目安】各講義につき3時間45分の授業時間外における学習（予習・復習など自己学習）が必要となる。</li> </ul>
教科書・参考書	<p>教科書：「助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期」，我部山キヨ子・武谷雄二（医学書院）</p> <p>参考書：「助産師基礎教育テキスト 2017年版 第6巻 産褥期のケア 新生児期・乳幼児期のケア」，横尾京子（日本看護協会出版会）</p> <p>「最新産科学 正常編 改訂第22版」，荒木勤（文光堂）</p> <p>「今日の助産 改訂第3版」，北川眞理子・内山和美（南江堂）</p> <p>その他、講義内で紹介する</p>
オフィス・アワー	講義開講日：講義前後 放課後
国家試験出題基準	<p>【助産師】</p> <p>≪助産診断・技術学Ⅱ≫Ⅶ-15-A, B, C, D, E、Ⅶ-16-A, B, C, D</p> <p>≪地域母子保健≫Ⅲ-4-B</p>
履修条件・履修上の注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
担当教員			
臼井 淳美			

授業形態	講義（一部グループワークを含む）
授業計画	<p>第1回 新生児の経過と診断（グループワーク） 新生児の身体的・生理的特徴 ・新生児の身体的特徴 ・新生児の生理的特徴</p> <p>第2回 フィジカルアセスメント 出生直後の新生児の診断とケア 新生児のフィジカルアセスメントとケア（事例展開） ・新生児の観察技術と検査</p> <p>第3回 新生児の診断と援助① 出生後24時間以内の新生児の経過診断とケア</p> <p>第4回 新生児の診断と援助② 出生後24時間以降～生後1週間までの早期新生児期の経過診断とケア ・母子・親子関係を促進するケア ・新生児の行動上の特徴 ・家庭生活への移行とフォローアップ</p> <p>第5回 新生児の診断と援助③ 出生後1ヶ月までの新生児の診断とケア ・退院後の新生児の健康課題に対する予測とケア ・新生児を迎える生活環境のアセスメントとケア ・新生児期の健康診査（1ヶ月健診） 発育・発達評価、保健指導の要点 ・新生児訪問指導</p> <p>第6・7回 正常な新生児経過からの逸脱およびハイリスク状態にある新生児のアセスメントとケア ハイリスク因子のアセスメント ハイリスク新生児とその家族へのケア ・生理学的適応を助ける援助の基本 ・低出生体重児へのケア ・治療を受ける新生児のケア 呼吸障害、黄疸などに対するケア、ディベロップメンタルケア など ・親・家族へのケア（児を中心とした家族への支援） ・ハイリスク児の主要な病態（胎児発育不全、呼吸窮迫症候群、新生児一過性多呼吸、チアノーゼと心不全、病的黄疸、感染症、嘔吐や腹部膨満など）とケア ・新生児の急変時の対応 など</p> <p>第8回 乳幼児の経過とその援助 乳幼児の正常経過 ・身体的特徴、生理的特徴など 乳幼児の健康診査 ・健診に必要な技術 ・発育・発達評価・保健指導の要点 正常経過にある乳幼児およびその家族への援助 ・発達性を促進するケア（栄養、遊びなど） ・起こりやすい疾病の予防的ケア（予防接種など） ・家族へのケア（育児相談、母子相互関係・親子関係の確立・虐待防止） ・乳児期に起こりやすい疾患（SIDSなど） ハイリスク乳幼児およびその家族への援助</p>
科目の目的	新生児・乳幼児の正常・異常の診断および援助ができるための知識・技術を養う。特に新生児の育児に必要な基本的技術・生活環境、ハイリスク新生児の救急時の母子および家族への対応について学ぶ。【思考・判断】
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正常経過にある新生児の助産診断が説明できる。</li> <li>・新生児および、その家族への援助に必要な技術を説明できる。</li> <li>・ハイリスク新生児や正常を逸脱した新生児およびその家族に必要な援助を考察できる。</li> <li>・乳幼児の経過と、各時期に合わせた援助について理解することができる。</li> </ul>
関連科目	専門科目群：母性看護学総論、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱ、小児看護学Ⅰ（新生児期や乳幼児期、NICUに関連する内容）、公衆衛生看護学Ⅲ、基礎助産学Ⅱ、助産診断技術学Ⅰ、助産診断技術学Ⅲ、助産診断技術学Ⅵ
成績評価方法・基準	定期試験（90％）、課題提出（10％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母性看護に関する既習の講義内容、公衆衛生看護学Ⅲ、小児看護学Ⅰの講義内容を復習しておくこと。</li> <li>・【準備学習に必要な時間の目安】各講義につき3時間45分の授業時間外における学習（予習・復習など自己学習）が必要となる。</li> </ul>
教科書・参考書	<p>教科書：「助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期」，我部山キヨ子・武谷雄二（医学書院）</p> <p>参考書：「助産師基礎教育テキスト 2018年版 第6巻 産褥期のケア 新生児期・乳幼児期のケア」，横尾京子（日本看護協会出版会） 「新生児学入門 第3版」，仁志田博司（医学書院）</p>

	「新生児ベーシックケア」，横尾京子（医学書院） その他、講義内で紹介する。
オフィス・アワー	講義開講日：講義前後、放課後
国家試験出題基準	【助産師】 <基礎助産学Ⅱ>Ⅰ-7-A, B, C、Ⅰ-8-A, B, C <助産診断・技術学Ⅱ>Ⅹ-24-A, B、Ⅹ-25-A, B、Ⅹ-26-A, B, C、Ⅹ-27-A, B, C、?-31-A, B, C, D, E、?-32-C、?-34-A, B <地域母子保健>Ⅲ-4-B
履修条件・履修上の注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	2単位	選択
担当教員			
中島久美子			
臼井 淳美	竹中 恒久	遠藤 究	

授業形態	講義2回・実技28回		
授業計画	第1-3回	妊娠期の技術 基礎助産技術（診察技術、援助技術）（中島） ・外計測、骨盤計測、聴診、内診、クスコ診（頸部スメア）、レオポルド触診法、子宮底・腹囲測定、サイズ法他 ・妊娠期の助産ケア：シュミレーション学習（ロールプレイ、リフレクション）	
	第4・5回	分娩期の技術 分娩介助の原理（中島） ・分娩介助の総論（入院時の判断、第1期～分娩室入室の判断、準備、パルトグラム、他） ・正常分娩介助法の原理、間接介助の役割他 ・助産基本技術（導尿 無菌操作、ガウンテクニックなど） ・分娩介助準備（物品準備、清潔野、外陰部消毒）	
	第6-9回	正常分娩の介助（1） 正常分娩介助法（中島） ・分娩介助時の技術（肛門保護、人工破膜、会陰保護） ・分娩介助時の技術：児の娩出・児の処置（児頭娩出、顔面清拭、巻絡確認、肩甲娩出～体幹娩出、娩出時間・性別確認、出生児の呼吸助成、臍帯切断） ・胎盤の検査：胎盤娩出（胎盤精査、子宮収縮・軟産道精査、子宮底輪状マッサージ）	
	第10・11回	正常分娩の介助（2） 新生児の助産技術（臼井） ・出生直後の観察・ケア・諸計測、成熟度評価、アプガールスコア、シルバーマンスコア ・新生児期の助産ケア：シュミレーション学習（ロールプレイ、リフレクション）	
	第12回	分娩第1期のケア（中島） ・産痛と産痛緩和法、呼吸法・怒責法・腹圧、分娩促進・姿勢の工夫、ツボ刺激、マッサージ他	
	第13・14回	分娩介助法の実際、分娩介助技術評価（中島） ・分娩介助手順の説明、ビデオ学習 ・分娩介助評価法の解説	
	第15・16回	分娩介助演習(1)（中島） ・分娩介助手順のデモンストレーション、分娩介助演習	
	第17-19回	分娩介助演習(2)（中島） ・分娩介助演習：シュミレーション学習（ロールプレイ、リフレクション）	
	第20・21回	産褥期の技術 乳房管理・乳房ケア（臼井） ・退行性変化促進への援助、日常生活適応（マイナートラブル）への援助、家族計画指導等 ・乳汁分泌の機序、乳房診察、乳管開通法、乳房マッサージ、搾乳など ・産褥期の母乳育児支援：シュミレーション学習（ロールプレイ、リフレクション）	
	第22・23回	分娩介助法の実際（フリースタイル）（中島） ・側臥位、座位、四つんばい、スクワット他	
	第24・25回	超音波診断・胎児心拍数陣痛モニタリング 母体・胎児の健康診査に必要な検査の基礎知識（遠藤） ・超音波診断、胎児心拍数陣痛モニタリングによる検査の実際、包括的な胎児の健康状態の評価	
	第26回	止血法 基礎助産技術：緊急時の対応と応急処置（1）（竹中） ・止血技術の実際（緊急時使用物品と薬剤、止血法、出血性・非出血性ショック時の処置、異常出血への対応）	
	第27回	会陰切開・裂傷部縫合 基礎助産技術：緊急時の対応と応急処置（2）（竹中） ・会陰切開と裂傷部の縫合の実際	
	第28回	新生児蘇生 基礎助産技術：緊急時の対応と応急処置（3）（竹中） ・新生児蘇生の実際	
	第29回	分娩介助演習(3)（中島） ・分娩介助演習	
	第30回	分娩介助実技試験（中島） ・分娩介助実技試験(直接介助)	
科目の目的	妊娠・分娩・産褥各期の女性と新生児の身体的・心理的・社会的状態の正常・異常の判断と、対象によりよい助産を提供するための基礎的実践能力を養う。 今後強化されるべき助産師の役割と機能に基づく高次の助産診断・技術法を理解し、ハイリスクや緊急時に対応できる能力を養う。 【技能・表現】		
到達目標	妊娠・分娩・産褥各期の女性と新生児の身体的・心理的・社会的状態の正常・異常の判断ができる。 正常分娩介助法の原理が理解でき、分娩介助技術が習得できる。 高次の助産診断・技術法により、ハイリスク妊産褥婦および新生児への対応が理解できる。		
関連科目	母性看護学Ⅰ、Ⅱ、基礎助産学Ⅱ、基礎助産学Ⅲ、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱ、助産診断・技術学Ⅲ、助産診断・技術学Ⅳ、助産診断・技術学Ⅴ		
成績評価方法・基	定期試験（50％）、実技試験（50％）		

準	
準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	準備学習内容：基礎助産学及び助産診断・技術学の予習・復習。分娩介助技術と基礎看護技術の実技の習得。 助産診断・助産課程に関する演習課題。 準備学習時間の目安：1時間
教科書・参考書	教科書：「助産学講座6、助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期」我部山キヨ子・武谷雄二（医学書院） 「助産学講座7、助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期」我部山キヨ子・武谷雄二（医学書院） 「助産学講座8、助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期」我部山キヨ子・武谷雄二（医学書院） 参考書：「助産師基礎教育テキスト7、ハイリスク妊産褥婦新生児へのケア」遠藤俊子（日本看護協会出版会） 「正常分娩の助産術、トラブルへの対応と会陰裂傷縫合」進純郎・堀内成子（医学書院） 「助産外来の健診技術、根拠に基づく診察とセルフケア指導」進純郎・高木愛子（医学書院） その他、講義にて提示する
オフィス・アワー	講義開講日の昼休み（専任教員） 講義開講前後の休憩時間（非常勤講師）
国家試験出題基準	【助産師】 ≪助産診断技術学Ⅱ≫ I-2-A,B, IV-9, 10, VI-14, VII-15-E, 16-B-a, b, c, d, X-24-A
履修条件・履修上の 注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	2単位	選択
担当教員			
大井けい子			
樋口美恵子	柿崎 明香	松浦 光子	

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 助産管理の基本（大井）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理の基本概念とプロセス</li> <li>・助産業務管理の過程</li> <li>・助産管理の概念：組織における助産師の役割と助産管理体制 助産業務管理の特性など</li> <li>・助産と医療経済：医療保険制度と助産業務 分娩費用など</li> </ul> <p>第2回 病産院における助産業務管理（大井）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助産業務管理の過程：管理目標の策定 業務の分析など</li> <li>・助産業務管理の方法：組織管理 書類管理 財務管理 業務の質管理など</li> </ul> <p>第3・4回 病産院における助産業務管理（大井）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産科棟の管理：看護体制 継続的な援助システム</li> <li>・院内助産・院内助産院の管理：オープンシステム</li> <li>・外来の助産管理：助産外来 助産師外来 家族計画外来 女性外来</li> </ul> <p>第5・6回 関連法規と助産師の義務・責任（大井）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関連法規：医療法 保健師看護師助産師法 医師法 母子保健法など</li> <li>・助産師の法的責任と義務：応召 出生証明書の交付 助産録の記載 届け出 守秘義務など</li> <li>・女性の支援に関わる関係法規</li> <li>・子どもの支援に関わる関係法規</li> <li>・助産師の法的義務</li> </ul> <p>第7回 助産所における助産業務の管理・運営（松浦）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助産所とは</li> <li>・助産所の管理に関する法規（助産所の関係法規）</li> <li>・助産所の管理・運営：医療機関との連携 救急時の搬送と搬送基準など</li> <li>・助産所の経営</li> <li>・出張助産：自宅分娩における助産師の役割など</li> </ul> <p>第8・9回 助産業務と医療事故（大井）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周産期における医療事故対策（GW 発表）</li> <li>・助産業務における安全対策（GW 発表）</li> <li>・災害対策と支援活動（GW 発表）</li> </ul> <p>第10・11回 助産業務の実際（樋口）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助産業務管理の過程</li> <li>・助産業務管理の方法</li> <li>・産科棟の管理</li> <li>・院内助産 院内助産院の管理</li> <li>・外来の助産管理</li> <li>＊事例等による講義の展開</li> </ul> <p>第12・13回 周産期管理システムとリスクマネジメント および 周産期における連携・協働（伊勢崎H）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周産期管理システム</li> <li>・周産期医療事故とリスクマネジメント</li> <li>・チーム医療における連携</li> <li>周産期医療体制 周産期医療におけるチーム医療他職種の連携・稼働 地域連携とオープンシステム</li> <li>＊事例による講義展開</li> </ul> <p>第14・15回 助産管理のあり方（大井）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の助産管理のあり方・発表（全体討議）</li> </ul>
科目の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助産管理の基本概念及び施設の形態に応じた助産の業務、人事管理、予算管理、情報管理の基本的考え方を学ぶ。</li> <li>・医療事故への助産師としての対応について学ぶ。</li> <li>・周産期医療システムの運用と関係機関との連携について学ぶ。【知識・理解】</li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助産が業務の管理、助産所の運営の基本について理解する。</li> <li>・周産期医療システムの運用と関係機関との連携について理解する。</li> <li>・周産期における医療安全の確保と医療事故への対応について理解する。</li> </ul>
関連科目	基礎助産学Ⅰ 地域保健行政
成績評価方法・基準	定期試験（100％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>準備学習の内容：母性看護、助産ケアの既習講義の復習をして講義に臨むこと。 学習課題を持って講義に臨むこと。</p> <p>準備学習時間の目安：2時間</p>
教科書・参考書	<p>教科書 助産管理（医学書院）基礎助産学Ⅰ「助産学概論」医学書院</p> <p>参考書 助産業務ガイドライン2014（日本助産師会）</p>
オフィス・アワー	大井：講義前後 樋口：講義前後 柿崎：講義前後 松浦：講義前後

国家試験出題基準	《助産管理》-1-A. B. C. D. -2-A. B. -3-A. B. C. -4-A. B. C. D. -5-A. B. C.
履修条件・履修上の注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	3単位	必修
担当教員			
堀越 政孝			
金子 吉美			

授業形態	実習
授業計画	<p>実習期間 病院実習2週間、学内実習1週間 病院実習 ：独立行政法人国立病院機構 渋川医療センター、前橋赤十字病院 学内実習 ：群馬バース大学 実習場所 実習病院：独立行政法人国立病院機構渋川医療センター 〔4階西病棟（外科病棟）、4階東病棟（消化器内科、外科）、5階西病棟（血液内科） 6階西病棟（呼吸器内科）、6階東病棟（呼吸器内科）〕 前橋赤十字病院（病棟未定）</p> <p>実習の過程 1. オリエンテーション：実習目的、到達目標、実習方法、留意事項等について理解する 2. 病院実習：成人期にある患者を実習施設より紹介していただき、一連の看護過程を展開する 3. 学内実習：病院実習での学びを振り返り、学内実習課題に取り組む</p> <p>実習記録 1. 受け持ち患者記録Ⅰ（アセスメントシート） 2. 受け持ち患者記録Ⅱ（関連図） 3. 受け持ち患者記録Ⅲ（ケアプラン） 4. 受け持ち患者記録Ⅳ（看護記録） 5. 実習行動計画表 6. その他…事前学習課題、学内実習課題</p>
科目の目的	既習の知識、技術を用いて、健康障害（慢性期・終末期）をもつ成人期にある対象を、発達段階を踏まえて総合的にとらえ、看護を実践する能力を養う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期における対象の身体的・心理的・社会的特性をライフスタイルや発達段階を踏まえて説明することができる。</li> <li>2. 対象の病期（慢性期、終末期）と健康問題を理解し、看護を実践することができる。</li> <li>3. 入院による生活環境の変化への適応がスムーズであるように援助を行うことができる。</li> <li>4. チーム医療のあり方や、その中における看護職のあり方を説明することができる。</li> <li>5. 自分の看護実践を振り返り、看護に対する自己の見方や考え方を深めることができる。</li> </ol>
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学、疾病の成り立ち、薬理学、成人看護学総論、成人看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、成人看護学演習、成人看護学実習Ⅱ
成績評価方法・基準	実習日数のうち4/5以上、出席した者を評価の対象とし、成人看護学実習評価表に基づき評価する。対象の理解と看護過程の実践内容50%、記録物の内容及び提出状況20%、医療者としての姿勢15%、実習参加態度15%とする。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	受け持ちが予測される疾患（呼吸器、消化器、血液造血器等）について、病態生理、症状、検査、治療、看護に関する学習をすること。準備学習の内容や項目、それに必要な時間など、詳細は、実習要項に提示する。
教科書・参考書	<p>教科書： 『系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学②～⑤』（医学書院）</p> <p>参考書： 『看護実践のための根拠がわかる 成人看護技術 がん・ターミナルケア』（メヂカルフレンド社） 『治療薬マニュアル』（医学書院） 『看護データブック』（医学書院） 『看護診断ハンドブック』（医学書院）等</p>
オフィス・アワー	担当教員が実習時間内（病棟実習、学内実習）に対応する。 堀越政孝：実習時間内に対応する。 金子吉美：実習時間内に対応する。 着任予定者A：実習時間内に対応する。
国家試験出題基準	<p>【看護師】</p> <p>《必修問題》Ⅰ-1～5、Ⅱ-6, 7-F, G、Ⅱ-8, 9、Ⅲ-10～12、Ⅳ-13～16 《人体の構造と機能》Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ-1～17 《疾病の成り立ちと回復の促進》Ⅰ-1, 2、Ⅱ-3、Ⅲ-4、Ⅳ-5～15 《健康支援と社会保障制度》Ⅰ-1, 2, 3、Ⅱ-4-B、Ⅱ-5、Ⅲ-10-E 《基礎看護学》Ⅰ-1, 2、Ⅱ-4, 5, 6、Ⅲ-8, 11、 《成人看護学》Ⅰ-1, 2、Ⅲ-6、Ⅳ-7、Ⅴ-8、Ⅵ-9</p>
履修条件・履修上の注意	自己の健康管理に留意し、主体的に実習に取り組むこと。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	3単位	必修
担当教員			
萩原 英子			
小池菜穂子	安田 弘子	湯澤香緒里	

授業形態	実習
授業計画	<p>実習場所 病院実習：前橋赤十字病院(心臓血管センター・消化器病センター) 済生会前橋病院(整形外科病棟) 学内実習：群馬バース大学</p> <p>実習期間 平成30年9月25日(火)～平成30年12月21日(金)</p> <p>実習の過程</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション 実習目的、到達目標、実習方法、留意事項等について理解する。 また、模擬患者参加型看護技術演習を通して、成人看護学実習Ⅱにおいて必要な知識・技術・態度を学ぶ。</li> <li>病院実習(2週間) 成人期にある患者を実習施設より紹介していただき、一連の看護過程を展開する。</li> <li>学内実習(1週間) 病院実習での学びを振り返り、学内実習課題に取り組む。</li> </ol> <p>実習記録</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>受け持ち患者記録Ⅰ(アセスメントシート：急性期)</li> <li>受け持ち患者記録Ⅱ(関連図)</li> <li>受け持ち患者記録Ⅲ(ケアプラン：急性期)</li> <li>受け持ち患者記録Ⅳ(看護記録)</li> <li>受け持ち患者記録Ⅴ(フローシート)</li> <li>実習行動計画表</li> <li>その他：事前学習課題、学内実習課題</li> </ol>
科目の目的	既習の知識、技術を用いて、健康障害(急性期)をもつ成人期にある対象を、発達段階をふまえて総合的にとらえ、看護を実践する能力を養う。 (ディプロマ・ポリシー【知識・理解】【思考・判断】【技能・表現】【関心・意欲】【態度】)
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>成人期にある対象の身体的・精神的・社会的特性をライフスタイルや発達課題を踏まえて理解する。</li> <li>対象の病期(クリティカル期、周手術期)と健康問題を理解し、看護を実践する。</li> <li>入退院による生活環境の変化への適応がスムーズであるように援助を行う。</li> <li>チーム医療のあり方や、その中における看護職のあり方を理解する。</li> <li>自分の看護実践を振り返り、看護に対する自己の見方や考え方を深める。</li> </ol>
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学、疾病の成り立ち、薬理学、成人看護学総論、成人看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、成人看護学演習、成人看護学実習Ⅰ
成績評価方法・基準	病院実習日数のうち4/5以上出席した者を評価の対象とし、成人看護学実習評価表に基づき評価する。 対象の理解と看護過程の実践内容50%、記録物の内容及び提出状況20%、医療者としての姿勢15%、実習参加態度15%とする。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	受け持ちが予測される疾患(消化器、循環器、運動器等)について、病態生理、症状、検査、治療、看護に関する学習をすること。詳細は、実習要項に提示する。
教科書・参考書	<p>教科書：</p> <p>「周手術期看護論」雄西智恵美、秋元典子編著(ヌーヴェルヒロカワ)</p> <p>「系統看護学講座 成人看護学②～⑬」(医学書院)</p> <p>参考書：</p> <p>「治療薬マニュアル」(医学書院)</p> <p>「看護データブック」(医学書院)</p> <p>「看護診断ハンドブック」(医学書院) 等</p>
オフィス・アワー	萩原英子(研究室306)：実習時間内に対応する 小池菜穂子(研究室308)：実習時間内に対応する 安田弘子(研究室301)：実習時間内に対応する 着任予定者A(研究室)：実習時間内に対応する
国家試験出題基準	【看護師】 ≪成人看護学≫ Ⅰ-1,2、Ⅱ-3～5、Ⅲ-6、Ⅳ-7、Ⅴ-8、Ⅵ-9、Ⅶ-10～21
履修条件・履修上の注意	<p>履修条件：</p> <p>3年次前期までに開講される全ての必修科目の単位認定を受けていること。 また、抗体検査結果に基づき、必要なワクチン接種が完了していること。</p> <p>履修上の注意：</p> <p>自己の健康管理に留意し、主体的に実習に取り組むこと。 体調不良時は早めに担当教員まで連絡をすること。</p>

講義科目名称：老年看護学実習

授業コード：2N122

英文科目名称：Gerontological Nurisng Practicum

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	4単位	必修
担当教員			
星野 泰栄			
清水美和子			

授業形態	実習
授業計画	<p>実習場所</p> <p>1) ほたか病院 2) グループホーム上白井の家 3) ケアサポートセンター夢 4) グループホーム吉岡たやの家</p> <p>2) 高齢者施設</p> <p>グループホーム ベルジ吉岡たやの家</p> <p>グループホーム 上白井の家</p> <p>ケアサポートセンター 夢</p> <p>実習内容・方法</p> <p>詳細は、実習要項に記載</p> <p>実習期間</p> <p>4週間とし、うち病院実習2週間、グループホーム実習1週間、学内実習1週間</p>
科目の目的	<p>老年期にある対象者を総合的に理解し、保健医療福祉チームの一員として、既習の知識・尊重する態度・技術を活用し、対象者に応じた看護を展開する能力を養う。【知識・理解】【思考・判断】【技能・表現】【関心・意欲】【態度】</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年期にある人の加齢変化や疾病による健康問題、生活行動、人生観やニーズなどの特性を観察、フィジカルアセスメント、コミュニケーション等を通してアセスメントし、理解する。</li> <li>2. 老年期にある人の看護問題に応じた個別的なケアプランを立案し、実施・評価する。</li> <li>3. 老年期にある人の特性や自立、安全を守るケア技術の実践方法を習得する。</li> <li>4. 老年期にある人の尊厳・権利の尊重に基づいたケア提供者としての態度を習得する。</li> <li>5. 老年期にある人のケアに関わる保健医療福祉の各専門職の役割と機能、連携について学習する。</li> </ol>
関連科目	老年看護学総論、老年看護学Ⅰ、老年看護学Ⅱ、老年看護学演習
成績評価方法・基準	実習評価表に基づき病院実習70%、グループホーム実習20%、学内実習10%を総合して評価
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	老年看護学ⅠⅡ、老年看護学演習で取り組んだレポートを整理し、実習に臨む。実習期間中は日々の課題が示されるので、1日当たり2～3時間の自己学習時間を要する。
教科書・参考書	教科書：老年看護学で使用した全ての教科書 参考書：特になし
オフィス・アワー	実習オリエンテーション日、実習のない月曜日、実習時間内・時間外
国家試験出題基準	<p>《老年看護学》Ⅰ-1-A～D 2-A, B 3-A, B</p> <p>《老年看護学》Ⅱ-4-A～C 5-A～I 6-A～Q 7-A～C 8-A, B 9-A, B 10-A, B</p>
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：小児看護学実習

授業コード：2N123

英文科目名称：Child Health Nursing Practicum

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	2単位	必修
担当教員			
内山 かおる			

授業形態	実習
授業計画	<p>実習場所</p> <p>1) 群馬県立小児医療センター 第1病棟、第2病棟 NICU・GCU、特別支援学校（院内施設見学）</p> <p>2) 前橋赤十字病院 （小児科）病棟</p> <p>3) 群馬県内保育園・保育所 12施設（変更の可能性あり）</p> <p>実習期間</p> <p>施設別オリエンテーション1日 保育所実習：8月中に臨地実習2日間 小児関連部門実習：8～9月の間に2日間 病棟実習：8～12月の間に1週間</p> <p>内容・方法</p> <p>詳細は実習要項に提示する</p>
科目の目的	<p>成長発達の過程にある子どもの特徴を理解し、様々な健康状態にある子どもと家族に対する基本的看護実践を学ぶ。</p> <p>ディプロマポリシーとの関連【知識・理解】【思考・判断】【技能・表現】【関心・意欲】【態度】</p>
到達目標	<p>1. 子どもの成長・発達段階の特性を理解する。</p> <p>2. 子どもの成長発達段階をふまえ、個性を尊重した対応・対処をする。</p> <p>3. 子どもの健康状態が及ぼす子どもと家族への影響を理解する。</p> <p>4. 様々な健康状態にある子どもと家族に対して基本的看護を実践する。</p> <p>5. 子どもの権利擁護を考えた支援と看護師の役割について理解を深める。</p>
関連科目	<p>小児看護学（小児看護学総論、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、小児看護学Ⅲ、小児看護学特論）、母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、地域看護学各科目、統合分野各科目、教養科目群（心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境論など）、専門基礎臨床科目群（解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか）、専門基礎地域科目群（公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論ほか）</p>
成績評価方法・基準	<p>小児看護学実習評価表に基づいて評価する。</p> <p>保育所実習10%、小児関連部門実習10%、病棟実習70%、レポート10%、</p>
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>臨床病理学Ⅲ、小児看護学総論、小児看護学方法論、小児看護学演習の講義ノートを一括し復習する。子どもの発達段階別特徴のまとめ資料（小児看護学総論にて配布）を完成する。実習前には、自主的に小児看護学技術演習の復習・実践をする。</p>
教科書・参考書	<p>参考書</p> <p>1. 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論」奈良間美保他著（医学書院）。</p> <p>2. 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論」奈良間美保他著（医学書院）。</p> <p>3. 「ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術」中野綾美編（メディカ出版）。</p>
オフィス・アワー	実習前後
国家試験出題基準	—
履修条件・履修上の注意	当該実習科目前に開講されている全必修科目の単位認定を受けていること

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	2単位	必修
担当教員			
臼井 淳美			
早川 有子	中島久美子		

授業形態	実習
授業計画	<p>実習施設 愛弘会 横田マタニティーホスピタル</p> <p>実習期間 2週間</p> <p>実習の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1組の母子を受け持ち、母子と家族との関わりを通して、看護展開をする。       <ol style="list-style-type: none"> <li>母親の産褥過程、新生児の経過に合わせた行動計画を立案し、ウェルネス思考に基づいた看護を実践する。</li> <li>学生主体の事例カンファレンスに参加し、看護過程の展開を通して、現実に即した看護を追究するための事例検討を行う力を養う。</li> </ol> </li> <li>母性看護の対象への理解を深めるため、以下のような実習を行う。       <ol style="list-style-type: none"> <li>妊婦健康診査の見学と実施（妊娠期の基本的看護技術、妊婦の身体的、心理社会的側面の看護）</li> <li>生殖医療外来見学（生殖医療外来における検査・治療の見学実習、不妊治療を受ける女性の看護）</li> <li>分娩見学（正常分娩・腹式帝王切開術の立ち会い、産痛緩和、新生児の出生時の蘇生（見学）、家族関係・家族役割への支援）</li> <li>母親学級・マタニティヨガ教室の参加</li> <li>新生児室実習および新生児1ヶ月健診の見学</li> <li>ハイリスク妊婦（入院中の妊婦）の看護（見学）</li> </ol> </li> </ol>
科目の目的	妊娠・分娩・産褥期及び新生児を総合的にとらえ看護過程を展開する。また、母子の看護に必要な基礎的実践能力を養う。【知識・理解】【思考・判断】【技能・表現】【関心・意欲】【態度】
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>妊婦・産婦・褥婦及び新生児とその家族に対する個別的な援助について理解する。</li> <li>妊婦・産婦・褥婦及び新生児の援助を実施するために必要な基本的技術が習得できる。</li> <li>妊婦・産婦・褥婦及び新生児の健康を保持増進するために必要な援助（健康教育）について学ぶ。</li> </ul>
関連科目	<p>教養科目群：すべての科目</p> <p>専門基礎科目群：すべての科目</p> <p>専門科目群：すべての科目。特に母性看護学総論、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱ、基礎看護学関連の科目全般</p>
成績評価方法・基準	<p>実習日数のうち4/5以上出席した者を評価の対象とし、母性看護学実習評価表に基づき評価する。</p> <p>評価項目は以下のとおりである。</p> <p>母子の看護過程の展開（30%）、基本的看護技術（20%）、母性看護学領域における健康教育（10%）、課題レポート（10%）、実習参加態度および出席状況など（30%）を総合的に評価する。</p> <p>詳細は実習要項にて提示する。</p>
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>準備学習の内容：母性看護学の講義及び演習で学習した内容。詳細は実習要項にて提示する。</p> <p>準備学習に必要な学習時間の目安：事前準備および実習中の学習時間の目安として最低15時間必要となる。</p>
教科書・参考書	<p>教科書：「系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学Ⅱ」、森恵美（医学書院）</p> <p>参考書：必要時提示する</p>
オフィス・アワー	各担当教員が対応 オリエンテーションで通知する
国家試験出題基準	<p>【看護師】</p> <p>《母性看護学》－Ⅲ-3-A, B、Ⅲ-4-A, B, C, D、Ⅲ-5-A, B, C, D、Ⅲ-6-A, B, C, D、Ⅲ-7-A, B, C</p>
履修条件・履修上の注意	3年次前期までに開講される必修科目すべての単位認定を受けていることが履修条件となる。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	2単位	必修
担当教員			
村松 仁			
松本 浩子			

授業形態	実習
授業計画	<p>精神科病院における療養環境の特徴が理解できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神科病院における治療環境の特徴とその調整が理解できる。</li> <li>2. 治療環境としての自己活用ができる。</li> <li>3. 対象者の精神状態やニーズを把握し、必要な看護を考察し展開できる。</li> <li>4. 精神に障害を持つ人の社会復帰支援の現状と課題を理解する。</li> </ol> <p>治療的関係性を構築する意味と必要性・重要性が理解できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象に適した接し方ができる。</li> <li>2. 対象者と信頼関係を結ぶことができる。</li> <li>3. 対象者と自己の間に生じた相互作用の意味を考察し理解できる。</li> </ol> <p>対象者に必要な回復プランを考察することができる</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎情報を収集し整理できる。</li> <li>2. 精神症状をアセスメントできる。</li> <li>3. セルフケアをアセスメントできる。</li> <li>4. 対象者の希望（目標）を考察することができる。</li> <li>5. 対象者に達成可能な目標を設定できる。</li> <li>6. 対象者に合った回復プランを立案できる。</li> </ol> <p>精神に障害を持つ人の社会復帰、地域生活支援の現状と課題を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会復帰施設を利用する利用者の特徴が理解できる。</li> <li>2. 社会復帰施設の活動内容及び支援内容が理解できる。</li> <li>3. 社会復帰を支援する関連職種役割を理解できる。</li> <li>4. 精神に障害を持つ人の地域生活を支える専門職の重要性を理解できる。</li> </ol>
科目の目的	精神健康の維持・増進、回復のために必要な看護学及び関連領域の知識と、精神看護学を展開するための技術及び態度を統合し、精神に障害を持つ人への看護実践の基礎能力を習得する。以上より、ディプロマポリシーである知識・理解、思考・判断技能・表現、技能・表現、態度を身に付ける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神科病院における治療環境の特徴が理解できる。</li> <li>2. 治療環境としての自己活用ができる。</li> <li>3. 対象者の精神状態やニーズを把握し、必要な看護を考察できる。</li> <li>4. 精神に障害を持つ人の社会復帰支援の現状と課題を理解する。</li> </ol>
関連科目	心理学、発達心理学、臨床心理学、精神看護学総論、精神看護学Ⅰ、精神看護学Ⅱ、精神看護学特論
成績評価方法・基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 評価対象の条件：実習の4/5以上の出席があること。</li> <li>2. 評価方法（配点） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 事前課題10点</li> <li>2) 看護実践50点</li> <li>3) 実習態度15点</li> <li>4) 実習レポート25点</li> </ol> </li> </ol>
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	実習要項にて提示
教科書・参考書	<p>教科書：精神看護学総論・精神看護学Ⅰ・Ⅱで使用した教科書。</p> <p>参考書：これからの精神看護学（森千鶴、田中留伊監編集、ピラールプレス）、精神神経疾患ビジュアルブック（落合慈之監修、学研メディカル秀潤社）など。</p>
オフィス・アワー	・施設での実習及び学内演習時間中は随時、指導担当教員が対応する。
国家試験出題基準	<p>《精神看護学》-I-1-A-a~b</p> <p>《精神看護学》-I-1-B-a~b</p> <p>《精神看護学》-I-1-C-a~e</p> <p>《精神看護学》II-2-A~D</p> <p>《精神看護学》II-3-A~D</p> <p>《精神看護学》II-4-A~C</p> <p>《精神看護学》II-7-A~D</p> <p>《精神看護学》II-8-A~D</p> <p>《精神看護学》-IV-7-A-a~d</p> <p>《精神看護学》-IV-7-B-a~c</p> <p>《精神看護学》-IV-7-C-a~d</p> <p>《精神看護学》-IV-7-D-a~c</p> <p>《精神看護学》-IV-8-A-a~j</p>
履修条件・履修上の注意	<p>実習前後の精神疾患を持つ人に対する自己の考えや認識の変化を細かく観察すること。また、対象者との関係性の変化を探ることから、治療的関係性の意味について吟味することが求められる。そのためには、自分自身を客観的に捉えることが必要となるため、他者からの意見をより多く得ることが実習を成功させるポイントとなる。実習グループのメンバーを始め、指導教員や実習指導者から多くの意見を積極的に得るようにすること。</p>

講義科目名称：在宅看護実習

授業コード：2N126

英文科目名称：Home Care Nursing Practicum

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	2単位	必修
担当教員			
山野えり子			
笠井 秀子			

授業形態	実習
授業計画	<p>在宅看護実習 オリエンテーション（笠井、山野）          実習の目的、目標、実習方法、留意事項などに関する説明</p> <p>実習期間          平成30年4月16日～平成30年6月29日</p> <p>実習施設 訪問看護ステーション（笠井、山野）          ①ほたか訪問看護ステーション          ②訪問看護ステーション ホームナース          ③群馬県看護協会訪問看護ステーション富岡          ④群馬県看護協会訪問看護ステーション渋川          ⑤群馬県看護協会訪問看護ステーション粕川          ⑥群馬県看護協会訪問看護ステーション高崎          ⑦群馬県看護協会訪問看護ステーション前橋南          ⑧群馬県看護協会訪問看護ステーション          ⑨広瀬訪問看護ステーションたんぼぼ          ⑩訪問看護ステーションほほえみ          ⑪富岡地域訪問看護ステーション</p> <p>学内実習（笠井、山野）          方法：実習期間中の月曜日、金曜日にカンファレンスを実施し、実習目標の到達度の確認 体験の共有化 課題解決 看護技術復習 看護過程の展開を実施</p> <p>実習のまとめ（笠井、山野）          在宅看護実習評価 実習目標到達度評価 在宅看護過程の実践、在宅看護の目指すものについてレポート提出</p>
科目の目的	<p>「知識・理解、思考・判断、技能・表現、関心・意欲、態度」          在宅療養者とその家族および療養環境を踏まえた療養者の生活を把握し、訪問看護の対象や訪問看護の場に応じた接遇ができ、在宅看護過程が展開できる。また、在宅療養支援システムの構築過程を学び、他職種連携の在り方やそれぞれの専門性、役割を学ぶ。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護の対象となる療養者とその家族の療養生活の特徴が説明でき、対象者に応じた看護支援が説明できる。</li> <li>2. 在宅療養の場における訪問看護の役割が説明できる。</li> <li>3. 在宅療養者とその家族を対象とする看護過程が展開できる。</li> <li>4. 訪問看護ステーションの機能・役割が説明できる。</li> <li>5. 在宅療養支援システムの仕組みと他職種連携の実際を学び、それぞれの専門性や役割が説明できる。</li> </ol>
関連科目	在宅看護概論、在宅看護論Ⅰ・Ⅱ、他教養科目群、専門基礎科目群、専門科目群のすべての科目
成績評価方法・基準	在宅看護実習評価表（80%）、出席状況（実習日数の4/5以上の出席。欠席状況によって期間外実習またはレポート提出）（5%）、事前実習課題（5%）、実習レポート（10%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	在宅看護概論、在宅看護論Ⅰ・Ⅱで学習した内容を復習しておくこと。
教科書・参考書	<p>教科書：「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論」秋山正子（医学書院）          「ナーシンググラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア」</p> <p>参考書：「介護保険制度に関するパンフレット」（社会保険出版社）          「訪問看護サービス」（日本訪問看護振興財団）          「看護診断ハンドブック」（医学書院）</p>
オフィス・アワー	専任：月曜日：12:10～13:00（山野研究室・笠井研究室） 実習指導教員：実習施設内において随時
国家試験出題基準	在宅看護概論、在宅看護論Ⅰ、在宅看護論Ⅱにわたるすべての項目
履修条件・履修上の注意	在宅看護概論、在宅看護論Ⅰ・Ⅱ、他教養科目群、専門基礎科目群、専門科目群のすべての科目履修済みのものについて復習が必要である。

講義科目名称：総合実習

授業コード：2N127

英文科目名称：General Practicum

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	2単位	必修
担当教員			
村松 仁			
看護学科教員で担当			

授業形態	実習
授業計画	<p>実習期間：2週間（1週を臨地実習、1週を学内実習(事後学習)とする。）          実習時間：原則として8時30分～16時30分とする。          実習施設：1. 国立大学法人 群馬大学医学部附属病院          2. 独立行政法人 国立病院機構 渋川医療センター          3. 医療法人 日高会 日高病院</p> <p>病院実習の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1名もしくは複数の患者との関わりを通して、実習目標を達成する。             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象者の状態や状況に合わせた行動計画を立案し、看護を实践する。</li> <li>2) 他職種とのカンファレンスに参加し、情報の共有・継続看護について実践する。</li> </ol> </li> <li>2. チームアプローチの実際を知るため次のような実習を通して目標を達成する。             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護師同行実習(複数の患者を担当する場合の看護実践の学び)</li> <li>2) リーダーナース同行実習</li> <li>3) 看護管理者同行実習</li> <li>4) 認定看護師・専門看護師、チームでの活動への同行実習</li> <li>5) 外来見学実習</li> <li>6) 退院調整部門実習</li> </ol> </li> </ol> <p>学内実習の進め方          実習記録・レポートを通して実習の振り返りを行い、看護専門職としての姿勢について考え実習目標を達成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学内での学習体験発表             <ul style="list-style-type: none"> <li>～2週目の学内実習の木曜日に「学習体験発表会」を予定している。各グループで発表内容を決め、資料作成をし手発表準備に備えること。当日の発表会では他のグループの発表に対して意見・質問・感想などを述べ、学びを深めること。</li> <li>2. 実習での学びの確認と考察、記録類のまとめ</li> </ul> </li> </ol>
科目の目的	既習の知識や技術を統合し、ケア提供組織の中で展開されるチームアプローチを通して、総合的な看護実践能力を高める。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象者の特性や状況にあわせた計画的・継続的な看護を実践できる。</li> <li>2. 看護の質保障と安全管理のためのケア提供システムについて理解し、実践できる。</li> <li>3. 看護職間及び多職種間における協同・連携（チームアプローチ）の実践について理解できる。</li> <li>4. 看護専門職として質の高い看護を提供するための探求的姿勢を養うことができる。</li> </ol>
関連科目	座学における既習科目、演習、臨床看護分野の実習すべて総合的に関連する
成績評価方法・基準	実習要項に示す。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	全体オリエンテーション及び施設別オリエンテーションに参加し、自身の目標を明確にする。事前学習として3時間の準備学習時間を要する。事前学習課題は、アクティブアカデミーでアップしているので、各自印刷して課題に取り組むこと。
教科書・参考書	教科書：志自岐康子他（編） ナーシンググラフィカ基礎看護学①—看護概論、メディカ出版 参考書：上泉和子他著：系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践[1]. 医学書院。
オフィス・アワー	担当教員が実習時間内（病棟実習、学内実習）に対応する。 詳細は施設別オリエンテーションで通知する。
国家試験出題基準	基礎看護学：2-C 3-E, F 6-A, B, D 看護の統合と実践：1-A～E
履修条件・履修上の注意	主体的に取り組むこと。1週目の病院実習では、群馬パース大学看護学科4年生としての自覚を持ち、礼節を持って実習にのぞむこと。2週目の学内実習ではグループ間で協力しあい、学習体験発表会の課題に取り組むこと。学習体験発表会では、他施設や他のグループの学びに耳を傾け、共有化することで自己の学びを広げること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	5単位	選択
担当教員			
小林亜由美			
矢島 正榮	廣田 幸子	一場美根子	

授業形態	実習
授業計画	<p>実習場所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 渋川・利根沼田・吾妻保健福祉事務所、前橋市保健所ならびに管内市町村保健センター</li> <li>・ 高崎市内外小中学校</li> <li>・ 群馬県内事業所</li> </ul> <p>実習時期</p> <p>9月-12月</p> <p>実習内容</p> <p>実習施設を拠点とする公衆衛生看護活動に参加する。詳細は、実習要項に別途提示する。</p>
科目の目的	公衆衛生の理念と目標を実現するために行われる、地域で生活する人々を対象とした看護活動の方法と看護の展開に必要な技術を学び、地域保健医療福祉における看護専門職の役割を理解する。【知識・理解、思考・判断、技能・表現、関心・意欲、態度】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域で生活する個人・家族・集団の健康を守るための保健活動の展開方法を理解できる。</li> <li>2. 個人・家族・集団の健康課題の改善・解決に向けた支援技術を実施できる。</li> <li>3. 保健医療福祉システムを有効に機能させるための保健師の役割を学ぶ。</li> <li>4. 地域の健康危機管理の方法について理解できる。</li> <li>5. 産業保健における安全・衛生管理の方法と看護職の役割を理解できる。</li> <li>6. 学校保健における保健管理・保健教育の方法と養護教諭の役割を理解できる。</li> <li>7. 専門職として、また組織の一員としての役割と責任について説明できる。</li> </ol>
関連科目	公衆衛生学、疫学、保健統計、社会福祉・社会保障制度論、地域保健行政、栄養学、歯科保健、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学Ⅰ、公衆衛生看護学Ⅱ、公衆衛生看護学Ⅲ、公衆衛生看護学Ⅳ、公衆衛生看護管理学
成績評価方法・基準	口頭試問(50%)、レポート(50%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	実習施設に関する年間活動計画、保健事業計画、施設概要、事業実績等の資料を読み解く(6時間)。実習中に実施可能な看護技術を練習する(6時間)。翌日の実習プログラムを確認し、学びたいことを整理する(6時間)。
教科書・参考書	なし
オフィス・アワー	月～金12:10～13:00
国家試験出題基準	<p>保健師国家試験出題基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>《公衆衛生看護学概論》1～5</li> <li>《公衆衛生看護方法論Ⅰ》1～5</li> <li>《公衆衛生看護方法論Ⅱ》1～6</li> <li>《対象別公衆衛生看護活動論》1～8</li> <li>《学校保健・産業保健》1～4</li> <li>《健康危機管理》1～6</li> <li>《公衆衛生看護管理論》1～3</li> <li>《疫学》1～9 《保健統計》1～4</li> <li>《保健医療福祉行政論》1～7</li> </ul>
履修条件・履修上の注意	保健師課程履修者のみ履修できる。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	11単位	選択
担当教員			
中島久美子			
早川 有子	臼井 淳美		

授業形態	実習
授業計画	<p>1. 助産学実習Ⅰ（9単位） 生理的な経過をとる妊産婦を対象に以下の実習を行う。 10例の分娩介助を行い、そのうち1例は妊娠期から産後1カ月までの期間を受け持つ。</p> <p>1) 妊娠期実習 2) 分娩介助・継続事例実習 3) 産褥期実習 4) 胎児・新生児・間接介助実習</p> <p>2. 助産学実習Ⅱ（1単位） ハイリスク状態にある妊産婦及び新生児を1例受け持ち、対象の健康状態を助産診断し、助産過程の展開を行う。</p> <p>3. 助産学実習Ⅲ（1単位） 地域の助産師の活動を見学、参加することで助産業務の特性と課題、今後の展望を考察する。</p>
科目の目的	<p>周産期の母子と家族のケアに必要な助産診断・技術の基礎的能力、社会の特性を理解し母子と家族の健康を守る科学的思考能力を養う。また、助産師としての職業アイデンティティの形成を目指した知識・技術・態度を学ぶことを目指す。</p> <p>【知識・理解】 【思考・判断】 【技能・表現】 【関心・意欲】 【態度】</p>
到達目標	<p>10例の正常分娩介助を通して、助産課程の展開、妊娠中期から産後1カ月の母子の継続した健康診査・ケアを行いその助産診断・技術を習得できる。</p> <p>1例のハイリスクの妊・産・褥婦を受け持ち、ハイリスクにあるケースの助産診断・技術を習得できる。</p> <p>助産所実習を通して、地域における助産・母子保健活動の実際を知り、助産師の役割を学ぶことができる。</p> <p>継続事例を通して、助産管理の初歩的実践能力を学ぶことができる。</p>
関連科目	基礎助産学Ⅰ、基礎助産学Ⅱ、基礎助産学Ⅲ、基礎助産学Ⅳ、助産診断技術学Ⅰ、助産診断技術学Ⅱ、助産診断技術学Ⅲ、助産診断技術学Ⅳ、助産診断技術学Ⅴ、助産診断技術学Ⅵ、公衆衛生看護学Ⅲ、助産管理
成績評価方法・基準	<p>実習内容、実習記録、実習態度、出席状況等により、助産実習担当教員全員の協議により総合的に評価する。詳細は実習要項に記載する。</p> <p>助産学実習Ⅰ（正常編、分娩介助10例、継続事例実習）：84% 助産学実習Ⅱ（異常編、ハイリスク事例実習）：8点 助産学実習Ⅲ（地域母子保健、助産院・母児保健センター実習）：8点</p>
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>準備学習内容：助産師課程履修科目全ての学習した内容を復習しておくこと。分娩介助を含む助産ケアに係る技術は十分に演習しておくこと。助産所・助産管理に係る事前学習をして臨むこと。</p>
教科書・参考書	<p>教科書：「助産学講座6、助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期」我部山キヨ子・武谷雄二（医学書院） 「助産学講座7、助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期」我部山キヨ子・武谷雄二（医学書院） 「助産学講座8、助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期」我部山キヨ子・武谷雄二（医学書院）</p> <p>参考書：助産師課程履修科目の前期講義にて提示した参考書に準ずる。</p>
オフィス・アワー	各担当教員が対応 実習オリエンテーションにて提示する。
国家試験出題基準	<p>【助産師】 《基礎助産学Ⅱ》 全般 《助産診断・技術学Ⅰ》全般 《助産診断・技術学Ⅱ》 I、II、IV、V、VI、VII、X、 《地域母子保健》 III</p>
履修条件・履修上の注意	<p>助産師課程履修者のみ履修可能とする。 4年次前期までに開講される全必須科目及び助産師課程履修科目の全ての単位認定を受けていることが履修条件となる。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
小林亜由美			
上星浩子, 伊藤まゆみ, 萩原英子	堀越政孝, 早川有子, 中島久美子	内山かおる, 村松仁, 矢島正栄	山野えり子

授業形態	講義（13コマ）、演習（2コマ）
授業計画	<p>第1回 看護研究の意義と目的 看護における研究の役割と目的、EBN（講義）</p> <p>第2回 研究の種類とデザイン 研究の種類と研究デザインの関係、研究デザインの種類（講義）</p> <p>第3回 事例研究と質的研究 看護の実践と研究、質的研究の特徴と方法（講義）</p> <p>第4回 量的研究 量的研究の特徴と方法、記述統計の基本（講義）</p> <p>第5回 研究における倫理 研究と倫理、研究における倫理ガイドラインと倫理的配慮（講義）</p> <p>第6回 専門領域における研究の特徴と実際① 基礎看護学・老年看護学（講義）上星・伊藤</p> <p>第7回 専門領域における研究の特徴と実際② 成人看護学（講義）萩原・堀越</p> <p>第8回 専門領域における研究の特徴と実際③ 小児看護学・精神看護学（講義）内山・村松</p> <p>第9回 専門領域における研究の特徴と実際④ 母性看護学・助産学（講義）早川・中島</p> <p>第10回 専門領域における研究の特徴と実際⑤ 公衆衛生看護学・在宅看護学（講義）矢島・山野</p> <p>第11回 研究のプロセス① 研究計画書の作成方法（講義） 研究計画書の作成</p> <p>第12回 研究のプロセス② 研究テーマの絞り込み、文献検討の意義と活用方法（講義）</p> <p>第13回 研究のプロセス③ データベースを用いた文献検索、文献カード作成（演習）</p> <p>第14回 研究のプロセス④ 研究計画書の作成（演習）</p> <p>第15回 研究のプロセス⑤ 研究論文の作成、発表方法（講義）</p>
科目の目的	看護研究とは何か、看護研究の目的と意義、方法、倫理的配慮、各専門領域における研究の動向を学ぶことを通して、看護実践における研究的な視点を養う。【知識・理解】 【思考・判断】 【関心・意欲】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護研究の目的と意義が理解できる。</li> <li>2. 研究の種類とデザインが理解できる。</li> <li>3. 倫理的配慮の必要性と方法が理解できる。</li> <li>4. 各専門領域における研究の特徴が理解できる。</li> <li>5. 研究のプロセスが理解できる。</li> </ol>
関連科目	既習科目すべて
成績評価方法・基準	期末試験50%、課題レポート50%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門領域における研究の特徴と実際①～⑤をとおして、関心のある研究領域・取り組みたいテーマをイメージしながら授業に参加する。準備学習に30分/回の学習時間を要する。</li> <li>2. 文献検索の実際、論文収集、文献の読み込み、文献カードの作成は授業時間以外の時間を使って学習を進める。準備学習に90分/回の学習時間を要する。</li> </ol>
教科書・参考書	教科書：「看護における研究 第2版」、南裕子、野嶋佐由美（日本看護協会出版会）
オフィス・アワー	全教員：月～金曜日 12:10-13:00 16:20-18:00
国家試験出題基準	基礎看護学：2-B-a, b 他 すべて
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4学年	4単位	選択
担当教員			
村松 仁			
卒業研究担当者全員			

授業形態	演習、ゼミ
授業計画	<p>第1回 領域別、指導教員別オリエンテーション</p> <p>第2-60回 リサーチクエスションの絞り込み、文献検索、研究計画立案、研究の実施、分析、論文作成各領域の指導教員の指導の下、研究計画を立て、実施し、その結果を論文として仕上げる。 基礎看護学に関する研究：基礎看護学領域担当教員</p> <p>成人看護学（慢性期）に関する研究：成人看護学（慢性期）領域担当教員</p> <p>成人看護学（急性期）に関する研究：成人看護学（急性期）領域担当教員</p> <p>老年看護学に関する研究：老年看護学領域担当教員</p> <p>母性看護学に関する研究：母性看護学領域担当教員</p> <p>小児看護学に関する研究：小児看護学領域担当教員</p> <p>精神看護学に関する研究：精神看護学領域担当教員</p> <p>在宅看護学に関する研究：在宅看護学領域担当教員</p> <p>助産学に関する研究：助産学領域担当教員</p> <p>公衆衛生看護学に関する研究：公衆衛生看護学領域担当教員</p>
科目の目的	看護学における研究課題を学生自ら主体的に探求することを通して、総合的な理解力を養う。看護学及びそれに関連する以下の領域から、学生自身が講義・演習・実習を通して興味をもったテーマを選定し、理論に基づき、教員の指導のもとで研究を計画・実施し、さらに、その結果を発表・論文化する。
到達目標	各領域の指導教員のもと、自分の選定したテーマに従い研究計画を立て、実施し、その結果について論文を作成する。
関連科目	看護研究概説、臨地実習など既習の科目全てと関連する。
成績評価方法・基準	卒業研究に取り組む過程および論文作成結果を総合して指導教員が評価する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>研究に取り組んでみたいテーマについて情報収集をしておくこと。</p> <p>研究のキーワードとなる用語をいくつか絞り込んでおくこと。</p> <p>取り組む研究課題によって、また、個人やグループの能力によって、必要な学習時間が変わるので、指導教官の指導の下、計画的に進めていくこと。</p>
教科書・参考書	<p>教科書 看護研究概説で用いた資料、教科書（看護における研究、南裕子、日本看護協会出版会）。</p> <p>参考書 1. 黒田裕子の看護研究step by Step、黒田裕子、医学書院 2. ひとりで学べる看護研究、山口瑞穂子、石川ふみよ、照林社 3. バーンズ&amp;グローブ 看護研究入門―実施・評価・活用―、ナンシー・バーンズ、スーザン・K・グローブ、エルゼビア・ジャパン</p> <p>など。</p> <p>随時指導教官が紹介する。</p>
オフィス・アワー	各指導教員と相談して時間を調整すること。
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	主体的に取り組むこと。指導教官とのやり取りはアポイントメントを取ったうえで、指導をうけること。研究上にて得られたデータの取り扱いや、データの入った記録媒体の取り扱いに注意すること。